

(181) **lQoklA, tL** , **1stskf**

(ツ・カ・サ・ミ・ホー)

(ミ・ニュー・タラド)

lQ「ズボン」 **Ok**「脚」 **lA**「短い」 **1f**「ある」

stskf「市場」これはおちよくった話で、「短いズボン（タンパン）はありますか？」と妻に聞くとする。答えが「あるよ、市場に」ということで、家でタンパンを取ってきてもらおうと、妻に聞いたところこのように冗談を言われたという笑い話である。ラオス人からかうのには良いジョークであろう。

(182) **gljiCoUy9hp** **xvddhppkddj k**

(ルア・ニ・チップ・チョイ) (ホーク・クアイ・ニャーク・クア)

gljiCoU「この話」 **9y9hp**「やさしい事・子供にもできること」

xvd「剥く」 **dhp**「バナナ」 **pkd**「難しい」

djk「より」

「こんなのお茶の子さいさいだよ、バナナの皮を剥く方が難しいよ」

普通はやさしい事を表わすのに、ラオス語では、バナナの皮を剥くほど易しい、というような言い方をします。そのバナナの皮を剥くのより易しいということなので、おちゃのこさいさいということになります。

(183) 笑い話

ラオスに来て初めてラオス語を覚えたある日本人が、タイに行ってお粥が食べたくなくて食堂に行って **gQxPd**(カ・ピ・アック)とタイ人に注文したらタイ人はわからなかったらしい。

解説すると、**gQ**「ご飯」 **xPd**「濡れた」

要するに、これでラオス語では「お粥」という意味になる。

ちなみに普通の白米から煮たお粥がタイ語では、**gQ8Q**(カ・トム)

になる。**8Q**は「煮る」という意味である。または中国語がその

ままタイ語になった **39H**(**チョ-ク**)というお粥もある。これは潮州語であり、碎米を煮たお粥のことである。

ちなみにラオスの(**材・ピ^oアック**)には2種類あり、一つは普通のお粥でありもう一つは(**材・ピ^oアック・セ**)といい、日本のうどんに似た麺である。出汁は鳥がらなどで取っているが、これが日本のうどんによく似ているので、日本人にもアソが多い。もともとベトナム料理であって、タイにはない。

ちなみにタイ語にも **gOQxPd**(**材・ピ^oアック**)という単語がある。これはどろどろになるまで煮詰めた米、糊(米を椰子のミルクで糊状になるまで煮詰めたもので、塩味または砂糖味。ということで、この日本人の注文は通じなかったのである。

それから山岳民族の言葉で一つ。ある日本人がラオ・スーンの部落に行って「サパー」は終わったかと聞かれたので、この人達は英語ができるのかと勘違いしたら、要するに英語の夕食の(**Supper**)と勘違いしたわけだが、なんと「サパー」というのはラオ・スーンという言葉で「ご飯を食べる」という意味だったらしい。ラオ・スーン(高地ラオで主に、苗族と呼ばれる人達のことを指す)

(184) - **NkC**(**スー・ハーン**)

- **N**「買う」 **IkC**「別れる・離婚する」 **c, jkC**「離婚した女性」

これは、お金をだして人の女房を別れさせて結婚することである。手切れ金をだして、別れさせる。実際、私も何人かこのケースを知っている。しかしこの単語はきつい意味なので、たとえその人が(スー・ハーン)の例であっても口にだしてはいけない。

(185) なぞなぞ **7e4; kp**(**カム・クワ-イ**)

lk, sok(**サム・ナー**) **sq, s6**(**ホック**)

lpa-uk(**シー・ティーン・シー・ファー**)は、なんでしょうか?

lk, 「三つ」 **sok**「顔」 **sq**「六」 **s6**「耳」

lju 「四つ」 **8a** 「脚」 **-U** 「示す・指す」 **2k** 「空」

「顔が三つで耳が六つ、四つ足が空を指しているのは何ですか？」

これは、暗号みたいなもので、そのまま読んでもよくわからない。よく考えてみないといけない。これは豚の4つの脚を木の長い棒に縛って、2人の男が担いでいる様子である。

(186) **lQ** (ルア)

これは、エチケットがないなどの意味で用いる。女の人などいけば男の出入りが激しい人などのことをいう。また、なかのいい友達が人のタバコをだまって、何もことわらないで取っていきうとした時など **1k]Qgfj** (ヤ-ルア-デ-) と言ってやる。但しこの言い方は仲の良い友達に限る。

1k 「禁止、するな」 **gfj** 「文末に付けて、だよねといった感じになる」

(187) **ltst7; k, gæ3lf** (サ-ク-ム-パン-ソド)

ltst 「犠牲にする・失う」 **7; k,** 「後ろに動詞がついて動詞を名詞化する」 **gæ3lf** 「独身である」

要するに結婚して「独身であることを失う」ということである。エッチな意味ではないので安心して、使ってよい。

(188), **Nok[8hC** (ム-ナ-ボ-ト)

, **Nok** 「今度」 **[8hC** 「必要ない」

「今度から、次からはいいから」友達にお土産をもらった時、こんな高いものは買わなくてもいいのに、次からは手ぶらで来て下さい」こんな感じでこのフレーズを使ってください。

(189) **Ohp1kd9ts0oe7; kp**

(コイ-ヤク-チャ-リツ-ナム-クワ-イ)

これはある日本人の女性が言ったせりふで「私は水牛と遊びた

い」というのがその内容である。彼女は獣医で「水牛の背に乗って、歩いてみたい」というような意味で言ったのである。しかしそれを聞いたラオス人が「そんなはしたない事を言ってはいけません」とたしなめていた。

誤解が生じたのはこういう事である。水牛、豚、犬はラオス語で

ovo7n, k(ノツ・クー・マー) **ovo7n; kp**(ノツ・クー・クワイ)

ovo7n, 6(ノツ・クー・ム)

というように「犬のように寝る」「水牛のように寝る」

「豚のように寝る」というような表現がある。これは浮気・不倫などをして、ハットで愛の行為をできないカップルは、どこか森の中には行って動物のように愛の行為をする。また犬はみさかいのなく親とでもセックスをして子供をつくる。従って、ラオス人の前で「水牛と遊びたい」などとは、日本人のうら若き女性は口が滑っても言わないでください。

(190) **gɛ; Pd**(ハット・ビアク)

シェンクアンでは、**gɛ; Pd** の発音が **gyɛ; Pd**(イト・ビアク) という発音になる。私自身、シェンクアンに行ったことはないが NGO の仕事でビエンチャン県の地方に仕事で行った時の話である。土地の人が、(イト・ビアク) という発音をしていたので、聞いてみるとやはりシェンクアンから移住してきた人達だった。ちなみにサムヌアも(イト・ビアク)になるとのこと。この他にお店などで、買い物をしているときに「もう売り切れてなくなりました」という時に **s, ɬc]h**(モット・レオ) を使う。しかしこの発音はラオス全国的には、**gs, ɬc]h**(ムット・レオ) という発音でいわれるようである。スペルとしては(モット・レオ)なのだが、発音する時は

(ムット・レオ)になる。注意していると色々と面白い事に気がつく。また(ハット)という動詞は「する」という意味の動詞であるが、「マンコをする」という意味にもなる。

(191) **wkwok]n7; kp** (パイ・タイ・ナ・ルム・クワイ)

wk「行く」 **wk**「耕す」 **ok**「田んぼ」 **]n**「忘れる」
7; kp「水牛」

「田んぼを耕しに行くのに、水牛を忘れる」
これは仕事をするのに、その仕事に必要な肝心な物を忘れている。
田んぼを耕すのに水牛は欠かせられない。それなのに水牛を忘れるなんて何か気が抜けている。

(192) **mbC9[wdj** (トン・チャップ・カイ)

mbC「お腹」 **9[**「掴む、捕まえる」 **wdj**「ニワトリ」

ニワトリを捕まえた時に、ニワトリが泣くと同じように、お腹がすいて(グー・グー)いている様子をこのように言う。
いわゆる日本語でいえば「お腹がぺこぺこ」である。

(193) **wkoedə** (パイ・ナム・カン)

これは「一緒に行く」という意味でビエンチャンでは普通このように言っている。しかしタケクでは

wkoefP; (パイ・ナム・デア)という様に言う。ビエンチャン県のナムグム・ダムそばの地域では、やはりタケクと同じように(パイ・ナム・デア)という所もあるとか。しかしこの地域の人達が別にタケク出身ではないらしい。タイ語で言えば

wkfhpdə (パイ・デア・カン)である。このようにラオスも各地域で言葉・アクセントが違って面白。私も仕事で地方に行くと発音がビエンチャンだとよくいわれる。やはりずっと住んでいる所の発音に、知らずになっているのだろう。

(194) 駄洒落 **wk7e, j o7nyj o** (パイ・カムアン・クー・シ・ムアン)

wk「行く」 **7e, j o**「カムアン県、ラオスの県の名前で

県庁所在地がタケク」 **7ny**「たぶん」, **j o**「面白い、楽しい」

これは駄洒落で、「カムアンに遊びに行くと、たぶん楽しいよ」

という意味である。ラオス語の(カム)は「言葉・金」という意味であるが、この場合は「楽しい言葉」という意味に直訳できる。ラオスの冗談は、前と後を逆さまにしたようなものが多いが、これは単なる駄洒落である。

(195) **8ʃg00** (ティップ・材)

「もち米を入れてある竹で編んだ丸い入れ物」のこと。ラオスの礼儀作法、マナーとして、ご飯を(この場合はもち米)を食べた後、この(ティップ・材)の蓋をしないといけない。そして竹で編んである御膳を、手で少し押して、手をあわせる。これをラオス語で **00** (ノッ) という。まあこの礼儀は日本の「ごちそう様でした」にあたるであろう。ラオスの場合は **vjc]h** (ム・材) 「お腹がいっぱい、満腹です」と言うのが礼儀である。(ノッ)するのは御米を作った御百姓さんに感謝する気持ちを表わすためである。蓋をするのを忘れると、ラオスのお年寄りはそのような礼儀知らずだと結婚している女の人の場合は「旦那に離婚されてしまうぞ」とか、若い独身の女性なら「結婚できないぞ」などとお小言をちょうだいすることになる。これをラオス語で **7t]e** (カム) と言う。これはやってはいけないこと、と日本語に訳していいと思う。従ってラオス人とラオス料理を食べたあとは、(ティップ・材)の蓋は必ずすること、何故、蓋をするのを忘れると怒られるか、ラオス人に色々聞いてみたが、ゴミがはいらぬようにご飯が冷たくなるとまずくなるからと色々な説がでていた。

(196) Counterpart (カウンター・パート)

協力隊員でも専門家でも、配属先には必ずラオス側のカウンター・パートがいるのだが、2年なり延長して3年いるにしてもこのカウンター・パートとは職場でお互いに付き合わないといけない。

これを冗談で、**OPf8txkf** (キアット・ターパート) というラオス人がいた。**OPf** はカエルだが、**00** (コッ) よりも小さい、このカエルは木の上に住んでいて、足の指が長い。ラオスの切手にもこの

OPf8txkf の切手があるので、注意してみてください。コップは食べれるが、このカエルは食べられないとのこと。

(197) **gl fawh8jgl fawh**

(ハット・ダイ・テー・ハット・ボ-・ダイ)

gl fawh は「する」という意味だが「オマンコする」「仕事をする」といった色々なことを「する」という意味に使われる。最初の **gl fawh** は「オマンコはできるが」 **c8j** は「しかし」
gl fawh だ「仕事はできない」という意味になり、「SEXは大好きだけど、仕事は何もできない」ということで「アレしか能のない奴」という意味になる。

(198) **dyskp0jhg n dysohppkCg n**

(キ・ラーイ・キ-・ロー・ムア) (キ・ノイ・ニヤン・ムア)

dy 「飲む」 **skp** 「たくさん」 **dyskp** 「沢山飲む」

sohp 「少し」 **dysohp** 「少し飲む」

0jhg 「車に乗って」 **]hg** 「車・車輪」 **pkC** 「歩く」

gn 「帰る」

御酒を沢山飲んだら、自分の足で立って帰れないから、サムローなり車に乗せられて帰らないといけない。私も酔払って前後不覚になりサムローに積まれて家に帰ったことがある。日本でいえば電車に乗って帰れないので、タクシーでご帰還ということであろうか。

(199), **Edtcft** (ムン・ガ-)

, **b** は「お前」で **d6** (ケ-) 「俺」に対応する言葉である。

dtcft は女の人がもう少しで胸の見えそうなセクシーな洋服を着ていたとか、または中年のオバサンがお金を出して若い男を困ったり、性欲が強すぎる女性のことを指す。男の人を挑発するようなエ

ツチな女のことを、(加^ゝ-)というのである。

(200) **Obp[+g p g p[+u g pnd**

(コイ・ホ^ゝ・ミ^ゝ・ミア) (ミア・ホ^ゝ・ミ^ゝ) (ミア・トゥック)

どこかディスコか、かわいい女の子のいる所に遊びに行って「俺奥さんがいないんだ、独身だよ」などと嘘をいうのは男の常である。これがラオス語で(コイ・ホ^ゝ・ミ^ゝ・ミア)である。しかし二番目の文のように(ミア・ホ^ゝ・ミ^ゝ)というの意味が違ってくる。これは目的語がないので「奥さんは^ゝがない」ということで、何がなく良く分からない。たいていはお金がない、従って(ミア・トゥック)で「奥さんは貧乏」ということになる。**nd**「貧乏」 **Obp[+g p** と

g p[+u

という2つの文で単語の位置を入れ替えただけで、意味が違ってくる。この冗談は飲み屋、ディスコで言うとうけるので、女の子に持てたい男性は覚えておくといい。

(201) [**gd** (ホ^ゝ・ク^ゝ)

これは塩を作るための井戸で、井戸水を汲み上げて、その水を煮詰める事によって製塩するシステムがラオスでは行われている。ピエンチャンの近郊、国道13号線を南にくんだり、タゴン方面とパクサン方面に別れる三叉路にぶつかる。そこからパクサン方面に向かいラック21というところで13号線を右にはいる。しばらく行くと1) **37dl tvkf** (コク・サト) という村がある。ここには深度200mの深井戸が2本あり、深度160mのところから岩塩になりそれより深い地層から塩水を汲み上げ、その水を煮詰めて塩を作っている。

しかし、海水ではないのでヨウ素、化学記号でIが含まれていなくて、ラオス人には甲状腺の障害が多い。特に山岳民族に多く見られる。現在、ユニセフの援助でこの塩にヨウ素をいれるプロジェクトが実施されている。ヨウ素のことをラオス語で

w3vfy (アイヂェ^ゝイ) **nkfvuf** (タト^ゝイ^ゝホ^ゝ) という。

ラオスでは(コク・サト)の他に

2) [gɯŋ [ɕa (ホー・クア・ホー・テン)

c0; Cs, CoEmk (ルアンナムター県)

3) [gɯŋokɕp (ホー・クア・ナー・トゥーイ)

c0; Clts; etɕf (サバケット県)

4) [gɯŋ u7e (ホー・クア・ウナム)

ɕfdecrCot7vo; PC9a (ビエンチャン特別市)

5) [gɯŋ [e8o (ホー・クア・ホー・テン) c0; Cwpt [ɕu (サニャブリー県)

6) [gɯŋ [ko [(ホー・クア・バーン・ホー) c0; C; PC9a (ビエンチャン県)

6番目の塩井戸はいわゆる、バーン・クンというところにある。

したがってビエンチャンの人は料理に塩を入れすぎた場合に

wx [kogluskp (パイ・バーン・クン・ラーイ) 「バーン・クンに行き過ぎた」

というような表現をする。この6つの井戸が、ユニセフの援助でヨウ素を入れるプロジェクトが実施中、あるいは計画予定にはいつている。この他にも小さな規模で村の人が塩を作っている所が何ヶ所がある。

東北タイを含めてラオスは中生代に遠浅の海だったわけで、それが隆起する過程で塩水が地層の中にサンドイッチされて岩塩になっているところがある。そういったところに井戸を掘って塩水をとるのである。

これらの井戸はいずれも50m以上の深度である。ラオスでは、水井戸を掘る場合には、50m以上掘っても水に当たらないと、それ以上掘っても塩水が出る危険性がある。ここらへんの地質の基礎知識がない外国のコンサルが水井戸を掘って、塩水がでたり空井戸になったケースが何件がある。

(202) rɕp, jɕp (ホー・スー、メー・スー)

これは男女の中をとりもつ恋のキューピットの役をするひとで、男性が(ホー・スー)で女性が(メー・スー)になる。結婚したい人ができるるとこの人に頼み、彼女の家に行ってもらい探りをいれてもらう。

これを **nk[4k**, (タープ・ターム)という。これによって相手が結婚する気持ちがあるか、相手の両親がオーケーかどうか聞いてもらう。

(203) **g, kdɔt** (セマクテ)

これは(せまくて)という発音になるのだが、日本語の「狭くて」という意味に聞える。ラオス語で **g** は「酔払って千鳥足になって、フラフラしている状態を」あり、**k** は「来る」 **dɔ** は「俺」で **ɔt** は「蹴る」という意味になる。従って文法的な単語の順序は、おかしいのだが、俺が酔払って、千鳥足で何か蹴っ飛ばしながら来る。というような意味になるようだ。ラオス人に何か日本語を知っているか聞いてみると(サヨナラ)等の他に、この(セマクテ)がかえって来るほど有名だが、この意味が「狭くて」だということを知っているラオス人はほとんどいない。この意味をラオス人に聞かれたら教えてあげよう。

(204) **-j7a, k** (アクマ)

これは以前に説明したが、補足説明する。
例えば御妾さんや2号さんを沢山持っていて、浮気ばかりしているような人はこのように言われる。ラオスの犬は、たいてい首輪などしないで放し飼いにしているので、たいへんである。雌犬などは9月と3月の年2回ある犬の発情期になると、近所の雄犬が雌犬の回りを取り囲んで順番に、アレをするわけである。
従って私の家にいる雌犬のラッキーなど、今までに何匹も子供を産んでいるが、皆父親が違う犬で、当然生まれてくる子供も違ってくる。またラッキーの息子の、雄犬のベックも発情期になるとお母さんのラッキーに襲いかかるという近親相姦をしようとする。従ってこのように犬というのは無茶苦茶なのである。従って性的に無茶苦茶に遊びまわる人を「犬みたいに悪い」**-j7a, k** (アクマ)という。日本の犬はこのようなことはないが、これは鎖でつながれてこうなったからなのだろうか。犬のこのような姿が犬の持っている本来の姿なのだろうか。そうすると我々人間は、昔はどうだったのだろうか。

(205) **wɨk, gɸorθk , khk, xuθju**

(カ・サム・ドゥアン・ホー・カー) (マー・サム・ピョー・ホー・キ)

wɨk「ニワトリ」 **lk**「3」 **gɸno**「月」 **r**「ちょうど」
Ok「殺す」 **k**「馬」 **xu**年」 **Oju**「乗る」

これは日本語でいえば「桃クリ3年、柿8年」である。このくらいの期間一生懸命世話してやれば成果があがり、ニワトリも殺して食べる事ができるし、馬も乗る事ができる。ニワトリは3ヶ月で、馬が3年ということである。最初の文の最後の単語の **Ok** が (カ-) の発音で終わり、2番目の最初の単語の **k** が (マー-) の発音になっている。そして同じく「三ヶ月」と「三年」で韻が踏まれている。

(206) **oEgɸəxkOho oElhoxkrɸp**

(ナム・ジエン・パョー・コソ) (ナム・ホソ・パョー・パョー)

oEgɸə「冷たい水」 **oElho**「熱い水」 **xk**「魚」
Oho「集まる」 **rɸp**「逃げる」

「水が冷たければ、魚が寄って集まってくる。水が熱くなれば魚は逃げて行く。」これはお金があり権力があれば、みんな寄り集まって来るのだが、いったんお金がなくなれば(この諺の場合は水が暑くなれば)人(魚)は逃げて誰も寄って来なくなる。ということで世間は冷たいものである。

(207) **s, kskpɸg ɸg ɸgskpɸgno**

(マー・ラーイ・チャオ) (キン・カオ・ラーイ・ファン)

s, k「犬」 **skp**「沢山」 **ɸg**「飼い主」
ɸg ɸg「ご飯を食べる」 **ɸgno**「家」

「沢山の飼い主がいる犬は、沢山の家でご飯を食べる」要するにこれは二股膏薬と同じ意味で、今日はここ、明日は別の主人という感じでころころと飼い主ををかえて、餌をくれる自分に都合のいい

ように振る舞う。主人に忠実でないという意味である。

(208) **oE0ɸcrhE.l .9farh9Ikp**

(ナム・クン・ペー・ナム・サイ) (チャイ・デー・ペー・チャイ・ルーイ)

oE「水」 **0ɸ**「濁る」 **crh**「負かす」

.l「澄んでいる」 **.9fu**「親切な心、やさしい気持ち」

.9Ikp「悪い気持ち、悪意」

これは要するに、濁った水と澄んだ水が合わされば、濁った水が必ず勝って、澄んだ水も濁ってしまう。これと同じく性格のいい人と悪い人がいれば必ず性格の悪い人が負ける。性格の良い、心がやさしい人は最後には評価されるというわけである。

(209) **Cq7; kpgsæcdjꞑpk 00kgsæcdjꞑ**

(グア・クア-イ・ハン・ケー・ニャー) (キ-カ-ハン・ケー・クン)

Cq「牛」 **7; kp**「水牛」 **gsæ**「見る」 **cdjꞑ**「だけ」

sꞑk「草」 **00k**「使用人、奴隷」 **djꞑ**「食べる」

水牛は自分の食べる草のことしか考えていない。奴隷は自分の食べる事しか考えていない。ちっとも他人の事を助けようとしぬ人を、この諺を使ってからかってみよう。

ところで「お手伝いさん」のことをラオス語でなんと言ったらいいか、**7qꞑꞑꞑꞑꞑꞑ Pd**(コン・ハット・ピ・アク)と**7qꞑꞑꞑꞑꞑꞑ Cko**(コン・ガ-ン)そして**7q.-h**(コン・サイ)の3つの言い方がある。

7q「人」、**ꞑꞑꞑꞑꞑꞑ Pd**「仕事をする」、**Cko**「仕事」ということで、使うとしたら**7qꞑꞑꞑꞑꞑꞑ Pd**あるいは**7qꞑꞑꞑꞑꞑꞑ Cko**と言ったほうが、呼ばれる彼らにしても、満足する。この2つの言い方は「仕事をする人」という意味である。しかしもし**7q.-h**と言って彼らと呼ぶと、

.-hは「使う」という意味なので「使用人」という意味になり

同じ仕事内容とはいえ、彼らはそのように呼ばれることに、満足しないだろう。このようにラオス語でも微妙に、その単語の持つ意

味が違ってくるので気をつけること。そして最後によい「手伝いさん」は探すのが大変である。私の妻の実家も焼飯屋をやっていて、今までに何十名もの人を雇ってきたが、いい人はなかなかいない。従って、ラオス語もろくにできない人が、ラオス人を雇って満足な仕事をさせるということは、かなり大変であろう。

(210) **lk, ə7gə[ɣficsʃ7; k, lɔ̃**

(サ-マッキー・パン・ボ-クド・ハン・クアム・スック)

c[ʃcpdgə[ɣficsʃ7; k, 8kp

(パン・ニエク・パン・ボ-クド・ハン・クアム・タイ)

lk, ə7u「団結」 [**ɣfi**「源泉・泉」 **csʃ**「場所」

7; k, lɔ̃「幸福」 **c[ʃcpd**「分裂」 **7; k, 8kp**「死」

「団結することによって幸福が生まれ、分裂して喧嘩するとそれが死につながる」これは政治のスローガンみたいなことを言っている。単語をそのまま解釈すれば自ずから意味がわかってくる。裏に深い意味はない。

(211) **.93, 3srk388d8ej**

(チャイ・モ-ホ-・パ-・ト-・トック・タム)

これはそのまま、読んでみて意味がわかるが韻が踏んである。

3, 3s「怒る・激怒する」は、**3V** と **3V** が2つあり、**38**「体」

も、**3V** がある。そしてこの文の中で韻を踏んだ単語が3つ重なり、

文学的リズムを持っている。**.9**「心」 **rk**「導く・連れて行く」

8d「落ちる」 **8ej**「低い」

これは要するにいつも怒ってばかりいて、気の短い人はそれが原因で問題を起こし、身を低める。従ってあまりカリカリしてはいけないという事である。このことは途上国で仕事をする人は、特に理解していなくてはならない。

(212) **7qnd. shP6, k dejk. shBCs, 6**

(コン・トゥック・ハイ・リアン・マー) (カムパ-・ハイ・リアン・ム-)

7qnd「貧乏人」 **.shBC**「飼育させる」 **, k**「馬」

dejh「孤児」 **s, 6**「豚」

「貧乏人には馬を飼わせろ、孤児には豚を飼育させろ。」要するにお金の無い人は、只いるだけではますます貧乏になるだけなので、何か仕事をさせて働かせろ。ここでも「馬」の(マー)という発音と「孤児」の(か^パ-)の(ア-)という発音が韻を踏んでいる。

(213) パクセとサバナケットの発音の違い

ビエンチャンの発音では、**8tskf** (タ^ド-)「市場」という発音であるが

これがパクセの人は(タ^ド-ト)という発音になる。これはビエンチャンのLの発音が、パクセではDに変るという特徴である。

この他にも **lvCIhp** (ツ・ホ^イ) がパクセでは(ツ・ド^イ-)という発音になる。これはビエンチャンでは(ツ・ホ^イ)ではなくて **lvC]hp** (ツ・ロ^イ-)とLの発音で発音されている。しかしこの言い方も本当のラオス語ではなくて、正式のスペルは **lvCIhp** になる。この言い方はルアンプラバンで言われている。パクセのこの(ツ・ド^イ-)という発音はビエンチャンのLの発音がDに変化したものである。

サバナケットの発音の特徴はFがPHに変るという点である。

例えば、ビエンチャンでは **dyg/ur** (ツ・フ-)「ラオス風の、うどんを食べる」という発音であるが、サバナケットの発音だと **dygzu** (ツ・フ-)という発音になる。

それから、発音・声調は各地方によって違ってきている。従って外国人がラオス語を発音する時、あまり最初のうちから声調に細かくこだわらなくてもいいと思う。ラオスの場合も地方により声調が違い、それらの発音はビエンチャンの発音・声調・スペルと一致しない。

例えば、日本語の「計画」はラオス語で **czodko** (パ^ン-ツ^カ-ン)であるが、私の以前のカウンター・パート(ラオス水道局)は、ビエンチャン県ポンホン出身であるが、レポートを書く時にスペルを間違えて、**czpdko** と書いていた。**CZO** に、マイ・エークの記

号 **Vj** が付いて **czp̄** になると別の意味になり、レコード等の数量詞になる。しかしビエンチャン県とはいえ、彼の出身地の「計画」という意味のラオス語の発音を、その発音どうりラオス語で書くと、マイエークが付いてしまうのである。

この発音の問題、特に声調については初心者のうちには、あまり気にしないでもいいかもしれない。但し有気音と無気音については、きっちりとやらないと通じない。声調については地域差があるので、ラオス人によっても、みな自分の生まれた所の御国訛りの声調で喋っているからだ。

私が現在所属している日本国際協力センターの、タイ語、ラオス語の研修監理員仲間のなかでも、タイ語のコーディネーターの意見では、ラオス語の方がタイ語より聞き取りにくいとのこと。彼女はタイにも10年以上住み、コーディネーターの経験も10年以上あるベテランであるが、彼女の意見では、タイ人であればたとえ東北タイのラオス語圏出身の人でも、ちゃんと学校を出ている人はきちんとした標準語のタイ語を話す事ができる。しかしラオスの場合、先生が^パン出身の人だと、ビエンチャンでも生徒は先生の発音につられて、^パンのアクセントになるし、田舎の学校では、誰もビエンチャンの発音・声調など喋れなく、みんなその地方のアクセントで学校でラオス語を教えている。

従って、タイ語とラオス語を比較すると、ラオス語の方が通訳にとっては厄介で、通訳泣かせである。

それとタイの国会中継などをラジオで聞いていると、どの圏出身の政治家も、きれいな、聞き取りやすいタイ語を喋っているということにビックリする。日本の場合は政治家など、みなそれぞれ御国訛りで国会で答弁して、それが地元の有権者には、御らが国の先生ということで人気の1つになっていたようだが、タイの場合は驚くほど中央集権的で、おそらく政治家が国会で方言で喋ったら、このひとは標準語もしゃべれない学の無い人と馬鹿にされるような状況なのだろうか。

しかしそれと比較するとラオスはもっと、自由である。現在、ビエンチャンのラオス人の約、20%位しか純粹のビエンチャン子（江戸っ子と同じで3代続いている）はいないのではないかと思われる。昔からビエンチャンにいた人のほとんどは1975年の革命の後に、難民になってメコン河を渡ってタイに逃げて行った。

その後、北や南から色々な人が入ってきて今のビエンチャンになった。彼らはそれぞれの御国訛りで話して、公式の場所でもそれは変えないとの事である。

現在の大統領のカムタイさんも、南部チャンパサック県出身である。長い間北のサムヌアで革命を戦って来た人である。しかし現在の氏のスピーチなどを聞いてみると、南部パクセのアクセント・声調で喋っているとか。北に長くいても北の発音はないようである。

また政府の他の要人もビエンチャン出身の人は、ほとんどいなくみんな北か南（ほとんど、チャンパサック県、サバナケット県）である。したがってなにが標準のラオス語かという、これもその定義が難しくなる。

まあとにかく、通訳にとっては訛りの強いパクセ弁でしゃべられると本当に困ってしまう。

「ご飯を食べる」はラオス語では **dygŋ** になる。しかしパクセの人に「ご飯を食べる」というラオス語を発音してもらい、その発音をそのままラオス語で書くと **dygŋ** というスペルになる。マイ・エークの記号が付いた発音になるのだ。逆に今度はルアンパバンの発音でも **dygŋ** ではなくて別のスペルになると思う。

また「食べる」と「におう」はそれぞれ **dy** と **dj** で例のマイ・エークがあるかどうかの違いである。このマイ・エークがあるかどうかで違って来る発音は、我々外国人には難しい。しかし2つの発音を間違えてもその後に **SV**, (ホム)「良い匂い」という単語がつけば **djpsv**,

ということであり、**da** の後に **gŋ** (カオ)「ご飯」がつけば **dygŋ** ということになり「ご飯を食べる」という意味になることがわかる。この辺は外国人がいい間違えたとしても文脈のなかでわかるべき話である。したがってラオス語の専門家になるわけでない普通の人には気にしないで、遠慮しないで恥ずかしがらないでどんどん喋ったほうがいい。

但し、1つだけ声調の違いに気がつけたほうがいいものがある。

それは、**-U**と**lU**である。**-**が低子音で、**l**が高子音なので、2つとも **Vh**(マイ・ト-) が付いているので声調は違っている。音声は、日本語で書くと2つとも(ソ-)であるが、**-**に **Vh**(マイ・ト-) がつく場合には

高い位置から中間の高さにトーンが下がる。**l**の場合 **Vh** 付く場合には中間の高さから低い位置にトーンが下がる。さてこの2つの単語は意味が違って非常に危険な誤解を生じるので、注意しないとイケない。

-Uは「指し示す」である。**-Uvd**(シー・ボ-ク)で英語でいう indicate という意味になる。**lU**は「オマンコする」という意味である。この言い方は御下劣な言い方なので、発音に自信の無い人、特に女性は **-U**の発音は出来るだけ避けて、別の単語を言ったほうがよい。

このエッチな方の単語の(シー-)は日本語の「大使館」の発音の(シ-)と同じなので、有名である。

さてこの他に、ラオス語の正書法で **zb**と **zβ**のどちらが正しいか要するに **Vh**と **Vj**のどちらを付けるのが正しいか、これについて述べてみよう。これはラオス語の原則としては **zβ** のスペルが正しいようである。これはビエンチャンの人の発音をラオス文字で表わすと、このようになる。しかしラオス人で **zb**の発音で喋る人もいる。そして私のコンピューターはラオス語しか打てなくて、タイ語は打てないのだが、タイ語では **zb**のスペルになり **zβ**ではない。

さてこのことをラオス語の出版物で色々チェックすると、**;PC9as, j**(ビエンチャン・マイ)という日刊の新聞では **zβa**(プ-・ファン)「視聴者」というようにマニ-クで書いてあった。他には、**, k]tpkf**(マ-ラニャ-ト)「礼儀・マナー」の本には **zβ**というスペルでこの単語が出ていた。また English Lao 辞典には、**zb**

というスペルで出ていた。ラオスの小学校の教科書 4 年生用には、**Zb**というスペルで出ていた。このようにこんな基本的な単語でさえ、きっちりした正しい書き方が定まっていないのだから、おそらく人によって **Zb**で発音したり **Zp**で発音したりまちまちのようである。従って、しょせん我々は外国人なのだから、ここらへんの発音の区別は上手くできなくてもいいと開き直った方がいい。

またラオス人のインテリに、ラオス語の声調はいくつあるか聞いても3つしかないとか、とんちんかんな答えしか返ってこない。まあこれは我々日本人が日本語の細かい文法について、どれだけ正確に知っていてちゃんと外国人に答えられるかということ、同じことであると思う。

それとラオス語は声調が5あるいは6あるといわれるが、その声調の幅は4声しかない中国語に比べて狭い。その幅の狭いなかでマイ・エークかマイ・トがあるかないかの問題なのだから、この声調の問題は、ラオス語には3つしか声調がないのだと思って、どんどん喋ることである。小さい声でボソボソ喋って自信のなさそうに喋るより、多少声調はおかしくても、大きい声で喋ると、相手も威圧されて強引に通じさせてしまう人がいた。

(2 1 4) **w** **hefP;** **]h,** **IQ**[**7j kp**

(マイ・ラム・テ・イオ・ロム・ファ・ホー・クア-イ)

.z[**rh,** **cxC**[**ko** [**gInC** (ハイ・ホー・ホー・ム・ペー・ンク・バー・ソ・ホー・ファソ)

w「木」 **]e**「数量詞」 **fP;**「一つだけ」 **]h,**「囲う」

IQ「フェンス」 **7j kp**「囲う」 **.z**「誰」 **rh,**「一緒に」

cxC[**ko**「町作り」 **gInC**「明るい」

「木が一本だけでは、フェンスで囲うことができない。誰もが一緒に協力しなければ明るい町づくりができない。」

これは社会主義のスローガンではなくて、昔からある諺である。スローガンで思い出したが、タイ人がラオスに来て、ラオスにはマンニューンという大きい会社があるようだ、至る所で看板に会社の宣伝が書いてある。と言ったそうである。

これは冗談で、政治のスローガンで

l 67 q o p q s, A p n (サコム・ニヨム・マン・ニユン) 「共産主義を永遠に」

という政治スローガンが、昔は町のいたるところに見られた。

それを見て、会社の名前と勘違いしたという話である。

l 67 q o p q 「共産主義」 **s, A p n** 「永遠に」という意味だが

バーシーのセレモニーで **v k p 5, A p n** (アニ・マンニユン) という

と「長寿をお祈りしています」という意味である。笑い話の一つ、この単語を知らないある国の政治家がラオスに来て「共産主義よ永遠に」というべきところを(マン・ニユン)という単語を知らなくて

[8 k p [8 k p (ホー・ターイ、ホー・ターイ)とやったそうである。

8 k p は「死ぬ」という意味なので、「共産主義は死なない、死なない」という事になり意味はわかるがすごいラオス語である。

なお人の噂をされていて、その時にその噂の本人が現れたとか、その本人から電話がかかってきた場合などは、**8 k p p k d** (ターイ・ニャーク)とか

さきに紹介した **v k p 5, A p n** (アニ・マンニユン) という。これは意味が

どうというより慣用句みたいなものである。**8 k p p k d** の **p k d** は「難しい」という意味で、直訳すると「死ぬのが難しい」という意味でよくわからない。私もこの言い方を最初に聞いた時に意味がわからなくて、馬鹿にされたかと思った。しかしこれはイディオムとして理解した方がいい単語である。

それから、タイ人がラオス・ビールのラベルを見て、

(ブイ・ラオ) っていったい何だい? とラオス人に尋ねたとか。

これはラオス語のビールは **g l p** というスペルになる。これは

g v p で母音の(イア)になる。しかしタイ語のビールは、**g l p** とい

ったスペルになる。これはタイ語では **g v p** が(イア)の発音になる

からだ。しかしラオス語では **g v p** は(ウイ)という発音になる。

ここらへんが似ているようで、タイ語とラオス語は違うので気を付けないといけない。

(2 1 5) **dyg0k dɛspɛl** (キン・カオ・カフ・ニャン)

dyg0k「ご飯を食べる」 **dɛ**「と、で」これは助詞

spɛ「何」 **dɛspɛ**「何で」

「何で、ご飯をたべますか？」ということで、要するに「おかずは何ですか？」ということである。

これは、ラオス語で挨拶みたいなもので、ご飯を食べているところに偶然に出くわしたらこのように挨拶する。

ラオスは食事している時に、人が来たり、通りがかったりすると気安く「一緒に食べませんか」とすすめる。これは一種の挨拶なのでよっぽど親しい人でない限り、食べない方がいいと思う。これはあくまでも挨拶で、日本語でいえば「こんにちは」ぐらいにうけとめたほうがいい。

逆に食事をしている時に、通りかかった人にすすめるのは、ご飯を食べている人のエチケットみたいなものである。人に勧めないで

一人で食べていると、人からあまりよく思われない。何度も丁寧に誘ってくれるのなら、一緒に食べてみてもいいのですが、普通は、以下のような言い方で辞退します。

vjc]h (ム・レオ)「満腹です」 **0v[.9skp** (コフ・チャイ・ライ)
「どうもありがとう」

g-yc- [(スツ・セフ)「どうぞ、おいしく」

gk3]f (アオ・ロード)「どうぞ、遠慮なく」これらは慣用句みたいなもので、このような時に言えばバッチリです。

(2 1 6) **[+g]k8qpf** (ホー・ミ・ウエー・トップ・ニウン)

「蚊を叩く時間もない」ということで、

Okpf (カイ・ディー・ホー?)「儲かりますか?」と聞かれて「お蔭様で忙しくて」という場合はこのように答える。

Okp「売る」 **fu**「良く」 **g]k**「時間」 **8q**「叩く」

pf「蚊」 逆に暇な時は **[+g]k8qpf** (ミ・ウエー・トップ・ニウン)
ということで、商売が暇だということになる。

(2 1 7) **7v[Ikort**(コ-ブ・ル-ン・パ)

引越した時、新しく移って来た時、日本でいえば家の「祠」みたいな所があり、そこで拝む。要するに **7qcxd**(コ-ハ-ク)「知らない人」が来ると **zq9qgno**(ピ-チャ-アツ)「家のお化け」がビククリしてその人に悪い事をするので、来た事を伝える為にお祈りするのである。 **7v[**「告げる、知らせる」という意味で、例えば明日急用で会社に行けない時など **sqsoh**(ア-ナ-)「社長」に **7v[**(コ-ブ)するということのように使う。

Ikort「ラオスの家の庭などにある祠」この「祠」は **g9c, j9t9ou**(チャ-メ-ト-ラ-ニ-)「地母神、土地の神様」と考えてもいいだろう。昔、日本でも便所の神様、台所の神様などにお正月に注連縄を飾ったものである。

(2 1 8) **Ckofu**ガ-ン-ディ-

これは、日本でいえばお通夜にあたる。お通夜といっても 3 4 日続けてやる。亡くなった人の家族は、白い衣装を着る。中国系は、お通夜に行くと赤い紐をくれる。これをボタンの所に結ぶ。日本でいえば喪章にあたるのだろう。そして中国系のお通夜に何回か行った事があるが、どこでもマカロニのスープをだしてくれた。これは習慣かどうか知らないが、いずれも中国系のお通夜であった。

お通夜から帰った時、日本なら塩で清めるが、中国人は門の所で手を洗う。2 3 年位のラオスの任期なら、結婚式に出る機会はあるかもしれないがお葬式、お通夜は、普通の日本人はほとんどないだろうが、結婚して長くいるとこのような機会もでてくるものである。

(2 1 9) **gyhw hl4Y gl9a shf9dohp9l p7q**

(ア-マセ-ティム-ハット-ハイ-テック-ノイ-シア-コン)

gyh「取る」 **w9hlh**「鞭」 **4Y**「捨てる」 **gl9a sh**「使役動詞」この場合後ろの目的語にあたる子供を墮落させる、不良にさせる。という意味になる。

gf9dohp「子供」 **gl9p7q**「墮落する、不良になる」要する

に「子供をちゃんと鞭で叩いて躾ないと、子供が不良になる、性格が悪くなる」ということである。この他にも、

IəCq.shə(ハック・グア・ハイ・プーク)

Iə]ə.səu(ハック・ルク・ハイ・テー)

Iə「愛する」 **Cq**「牛」 **zə**「縛る」 **]ə**「子供」

əu「叩く」

これも前と同じ意味で「牛が可愛ければ、逃げないようにちゃんと縛っておきなさい。子供が可愛ければ、悪い事をしたら叩いて、ちゃんと礼儀・マナーを教えておきなさい」

私の妻は15人兄弟の9番めで、兄弟が多くて、父母は教育躾はとにかくスパルタ式で、ゆうことを聞かなかった場合は、とにかく手がでて叩かれたとのこと。父親は中国人で、母親はベトナム人でベトナム人のスパルタ式の躾は有名だが、両親とも厳しかったようである。その反動であるのか、自分の娘に対しては、スパルタ式ではない。これも中国人の古い世代と、新しい世代の考え方の違いであろうか。ラオスでも若い世代は子供に甘くなっているようだ。

(220) なぞなぞ **cpj cphxtə, uIC**

(ニムニエー・ペー・カン・ミー・ヘン)

cpj cphは「毛が少し生えている」という意味である。別のラオス語で言うと、**əqsəhp** である。**cxt** は「近い」ということで別のラオス語だと、**dhəf** (カ・シット) というのでこれはタイの歯磨きに、タイ語でいえば(カ・チット)という商標の物がある。これは要するにお口を近くに寄せても口臭がしない歯磨きということである。、**uIC**「元気がある」これは毛がちょっぴり生えていて、くっ付くと元気がでてくるものは何ですか?という謎謎である。

答えは、**əqək**(コンター)でこれは睫毛である。眠っている時に睫毛がくっ付いている。そして起きたら疲れがとれて元気になる。

(2 2 1) 7; k, I ʔh 1 ʃ k M (クワム・フ・スック・ニュー・ラーラー)

7; k, I ʔh 「感情、Feeling」 1 ʃ k M 「いるだけ」

これは直訳すると「Feelingはただいるだけ」という意味であるが説明が必要である。

例えば「あの娘のこと好きですか？」こう聞かれると、嫌いとか好きとかダイレクトには答えられない。直接的に言うと相手に失礼だし、回りの雰囲気が悪れてしまうので、このような言い方をして相手を傷つけないで断るのも一つの方法である。

(2 2 2) 「見栄を張る」

1 kd - NPC 1 kd w f ʃ ok 1 kd w f ʃ ʔ ʔ g y ʃ sok w h

(ヤク・ス・シツ) (ヤク・ダイナ) (ヤク・ダイダツク) (アオ・ナ・ワイ)

1 kd 「欲しい」 -N 「買う」 1 PC 「名声」 sok 「顔」

f ʔ ʔ 「有名」この他にも「鼻」という意味もある。 g y ʃ 「取る」

w h 置いておく」

これらはいずれも「見栄を張りたがる」「良い恰好をする」「有名になりたがる」といった意味である。

パーティーのオークションで一番高い値段をつけた人が花輪をもらい、それを女の子に渡してラム・ボンが始まる。このようなのを「名声を買う」というのだろう。

(2 2 3) g ʔ g n w c m h (チャオ・ムア・ワイ・テー)

「あら、もう帰っちゃうの」ということで、パーティーに呼ばれて途中で帰ろうとするとよくこのようにいわれる。

結婚式でも、あまり親しくない人は、食事が終わって、ラム・ボンが始まるまえに帰ってしまう。最後まで残る人はやはり親戚や、親しい友人である。

g ʔ g 「あなた」 g n 「帰る」この発音は、ビエンチャンのラオス語だと(ムア)と発音されるが、東北タイの発音では(ミア)という発音になる。ラオスには東北タイから移住して来た人がかなり住んでいる。

w 「はやい」 c m h 本当に」この場合は驚きの気持ちをあらわ

す感嘆詞のような感じである。

2k; g nd6cd (ファオ・ムア・カン・ケー) これはルアンパバンの言い方で「もう帰っちゃうの」になる。いわゆる京言葉であろう。

(224) [**+tj C3-fcdC** (ホー・ミー・ブアン・ソード・ケーグ)]

[j C「スプーン」 **3-f**「掬う」 **cdC**「スープ」

「スープを掬って飲むのにも、スプーンがないのにどうするの」これは問題を解決するのに、必要なものがなくていったいどうしたらいいのですか。

(225) [**wfʃəfqc] h** (ホー・ダイ・ハント・ン・レオ・ノ)

gə「見る」 **fq**「ながい」 **c]h**「完了をしめす」

O 感嘆詞で、文末につけて、ネという感じになる」

「しばらくぶりですね」

ラオスで行き付けの食堂に2 3日行ってなくて、久しぶりに行くと必ずこのように言われる。ラオスは人口が少なくて社会が狭いので、仲の良い友達なら毎日会っている。だからいつも会っている人に会わなくなると心配になるようだ。日本なら友達でも、3ヶ月も全然会っていないなんて珍しくないのであるが、ラオスでは違う。

但し、ラオス人のつきあいは友達というより親戚、家族のつきあいが主流になる。極端に言えばラオス人は友達はいない。信用できるのは家族、親戚ということになる。家族どうし、親戚どうしの助け合いも日本では逆に親戚だから頼めないことでも、ラオス人は親戚だから助けてくれ、助けてくれないのは親戚なのに冷たいではないか。このような発想になるのが現代の日本人との、メンタリティーの違いである。

ラオス人は親戚にはやさしい、やさしいというよりなれ合いの世界というか、泥沼の世界で、何かあった時に助けないのは親戚ではないという世界だ。だから親戚にはやさしいけれど、逆に他人には冷たい社会であると思う。しかし昔の日本も今のラオスと同じような親戚、村社会ではなかったかと思う。私も1959年生まれなので、古い日本もまだ覚えている。

ここらへんのは、ラオス人と結婚して親戚との付き合いを試みないとラオス社会の深いところは何年住んでいてもわからない

と思う。

(2 2 6) **1kdw .shko** (ヤク・ワイ・ハイ・カン)

1kdoko .sh]p (ヤク・ナン・ハイ・レン)

「急ぎたかったら、はって行きなさい。遅くしたかったら、走りなさい」

1kd 「 したい」 **w** 「速い」 **.sh** 使役動詞」

7ko 「 這う」これは「赤ちゃんが這う」という時にこの単語を使う。
oko 「遅い、長い」 **c]p** 「走る」

これは日本語でいえば「急いで仕事は仕損じる」であります。何事もあわててやった仕事は失敗が多くて、間違っているものである。したがって急いでいるときには逆に、這って行きなさい、とアドバイスしているわけである。

(2 2 7) **-kC, a** (サン・マン)

「あんな奴のこと、ほっとけ」という時に使います。

(マン)は「これ」という意味に使いますが人を指す時「こいつ」という感じであり下品ないいかたです。今まで何回も注意して来たのに、あいつ俺のいうこと聞かなかったから、あんな奴ほっとけ」という感じであります。

(2 2 8) **C, ; [1βoβA** (メオ・ボ - ニュー・ヌー・テン)

C, ; 「猫」 **[1β** 「いない」 **soβ** 鼠」

βA 「跳ねる、踊る」

「鬼のいぬまの洗濯」ラオス語では「猫がいないうちに鼠がはねる」という表現になります。

(2 2 9) **C, ; dɛs, k[ɔkda** (メオ・カップ・マー・ボ - カカン)

C, ; 「猫」 **dɛ** 「と」 **s, k** 「犬」

[ɔkda 「合わない」

「猫と犬は合わない」これは日本語でいえば「犬猿の仲」ということになります。ラオスでは日本と違って、犬と猫が合わないよ

うです。

(230) **Ck, gjd** (ガム・ルック)

Ck 「きれい、美しい」 **gjd** 「深い」

直訳すると「深い美」ということになるが、最初のうちは外面だけで判断して見た目はそんなにキレイとは思わないが、つきあっているうちにその内面のよさがわかってきて心の美しさがわかってくること。いわゆる「心の美人」といったような意味であろうか。

(231) **gnof** (ド・ヴァン・ク) **gnofju** (ド・ヴァン・キ)

gnof 「偶数の月」 **gnofju** 「奇数の月」

これは「偶数月」と「奇数月」ということで、西欧のカレンダーではなくて、ラオス暦のカレンダーで偶数か奇数かである。結婚するのは偶数の月にするのがいいとされている。結婚式の日取りを決める前に、カレンダーを見て良い日を選んで決める。

(232) [**B-**] **-B-** **cmh** (テ)

これは男の人がそれぞれ「かっこいい」「ハンサム」「きまっている」ということを誉める時につかう。しかし(**B-**)というのも日本語では音が悪い。

「かっこいい」なんて女の子に誉められるのに **gok[Bkp]**

(**チャオ・ブー・ライ**)なんて言われたら、逆にこの単語の意味を知らないと誤解を生じかねない。なんかこんな風にいわれると昔ドリフターズにいた「高木ブーに似ている」なんて冗談で言われたみたいである。昔、日本に7年位いた中国系のタイ人に「わーかっこいい、郷ひろみに似ている」なんて冗談をいわれたことがある。

これは郷の発音がラオス語の **3Cj** (ゴ-) 「馬鹿」と同じ発音で冗談であるが、

向うは誉めたつもりなのに (**ブー・ライ**) なんて言われると良い気持ちがないと思う。

(233) **vs.spj** **vsolp** [gBa]

(ハイ・ニヤ・ロン) (ハイ・ノイ・ホー・テム)

vs「樽、水やお酒をいれるもの」 **.spj**「大きい」

]Q「溢れる」 **ohp**「小さい」 **ga**「満ち足りる」

これはお金のある人を **vs.spj** に喩えて、お金のない人を

vsohp に喩えている。要するに、お金や権力がある人は、どんどん富や権力が集中してきて、どんどんお金がたまる。したがって大きな樽でも水がたまって溢れていく。それと比べて小さい樽（お金、権力のない人）は小さい容量だけどなかなか樽の中にたまらない。

(2 3 4)

Ohp(キ・クイ) **OVQ**(キ・オ) **v; fvQ**(ウアッド・オ)

7p3, h(クイ・モ)

これは人の性格を表わすラオス語で、みんな悪い意味の言葉です。このなかでよく使うのが(キ・クイ)でこれは美人でお高くとまっていて、人が話し掛けても返事もしない等、そんな人は(キ・クイ)とよく言われます。ケニアにいる部族はキクユ族で、彼らはキー・クイではないとのこと。

(2 3 5) **s[∧]vd**]; **C**(ロ・クルア) **[R;**(ピ・オ) **8Q**(トム)

これは、いずれも人を「騙す」という意味です。騙されないように気をつけましょう。悪い人もいますから。

(2 3 6) **sokw h**(ワイ) **s[∧]vd**(ラック・ロク)

sok「顔」 **w h**「ワイ、挨拶」 **s[∧]**「後ろ、陰」

s[∧]vd「騙す」目の前では、挨拶してニコニコしているけれども、心の中では何を思っているかわからない、騙そうと思っているかもしれない。人の性格を言う時に裏表のある人はこのようにいわれます。これと似た言い方で、

sokrt(ナ・パ) **.9, ko**(チャイ・マツ)という言い方がある。

これは「顔は仏だけど、心は鬼」ということである。

rt(パ)「仏様」 **.9**(チャイ)「心」 **, ko**(マツ)「鬼」

この他にも、

xkdgxone (パ-ク・ペン・ナム)

sq. 9gxepd (ファ・チャイ・ペン・ニョック) というのがある。

xkd「口」 **gxæ**「である」 **ne**「正義」

sq. 9「心、心臓」 **pd**「鬼」

これも単語の解説だけで十分だが「口では正義なことを言っているが、心は鬼」最後に、もう一つ。

, **4hkd** (ム-トゥ-サーク) **xkd4hp** (パ-ク・トゥ-シ)

, **n**手」 **4n**持っている」 **lkd**「スリコギ、ナム・マー

ク・フンを作るのに使うすりこぎ」 **ly**「道德」

口では道徳的なえらそうなことを言っているが、手にはスリコギを持って人を叩こうとしている。この(サーク)という単語は他にも「バッテリーを充電する」という意味がある。

このように、ラオス語でも口では甘いことを言って、心は嘘をいうのがいっぱいいる。このような口先だけの人間、口だけの人間を、日本語で、あいつはファッション・ヘルス嬢みたいな奴だという。なぜかといえばファッション・ヘルスは本番はやれなく、口だけのサービスだけであるからだ。お下劣で御免なさい。

(2 3 7) **xtdq8qg mu** (パ コット・トゥア・ウエーイー)

xtdq「現れる」 **8q**「体」 **g mu**「舞台」

ラオスのパーティー、結婚式などで、司会者が来賓のお客さんを指名して、舞台上に上がってもらって、ラム・ボンを踊ってもらう時にこのように言う。またパーティーの主催者がラム・ボンを踊る女の子を用意していて、彼女たちが一緒に踊りませんかといってワイをして誘いにくることがある。こういった場合は、ワイをして一緒に踊る事がエチケットである。六本木が新宿のディスコに行って、女の子をナンパして、一緒に踊ろうと誘っているのではなくて、この場合はあくまでも主催者のほうが来て下さったお客さんをもてなす意味でやっているサービスなので、丁寧にお受けする事。それとグループでディスコに行った時も、一緒にラ

ン・ボンを踊ろうと、誘われたら断っては失礼である。これはあくまでも一緒に踊っているだけで、恋人同士とかそういう意味はなんもない。

ラオスのディスコに行った日本人が、女の子とラン・ボンを踊った時の印象である。彼は、男女が向かい合って輪になって踊るダンスなので、女の子の目をじっと見つめるのだと思って踊っていたのだが、女の子は目をそらせて、横をみたりして、絶対に目を見つめ合わさなかった。これは西欧のダンスと違う点であろう。

いくらディスコのオネエチャンでもここらへんはやはりラオス人である。それからディスコで、アメリカ人の女の子をナンパしようとした日本人の話である。女の子を踊りに誘ったのだが、彼女がいまかかっている音楽嫌い、と言って断ったとか。

(2 3 8) **c** [, ; **p**; **ǎ** (ベ-ブ・ムアイ・ワット)

c [「スタイル」 , ; **p** 「ボクシング」 ; **ǎ** 「お寺」

「お寺のお祭りの時にやるボクシングみたいな」ということでさまになっていないこと。お寺のボクシングは、テクニックがなくて下手糞である。この様に、仕事をやらせたら何とかできるが、内容が伴っていないことをいう。

(2 3 9) **w** **1P** [**s**, **k** (パイ・ニアップ・マー)

, **k** **1P** [**7Pf** (マー・ニアップ・キアット)

w 「行く」 **1P** [「踏みつける」 **s**, **k** 「犬」

, **k** 「来る」 **7Pf** 「カエル」

これは「朝早く出かけて、夜遅く帰って来る」という意味である。朝早く出かけるのに、犬を踏みつけて、夜遅く帰ってくるのにカエルを踏んで帰ってくる。**1P** [という単語は「踏む」という意味であるが、ブレーキを踏むも(ニアップ)であるが、車で人をひくのもこの(ニアップ)を使う。

従って、ラオス語の小話で車を運転していて、いきなり牛と人が飛び出してきた、何を(ニアップ)すればいいですか?というのがある。答えは、ブレーキを(ニアップ)「踏む」すればいい。というのであるが、ラオス語のこの単語の意味がわからな

いとおもしろくない。日本語だと車で人を轢く。ブレーキを踏む。という用法で、動詞の使い方がこの2つの例では違ってくる。

(240) なぞなぞ

ovoCkpOB08jvvd15g0Q

(ノーン・ガ・イ・クン・キ・ティ・オーグ・スツプ・カオ)

ovo「寝る」 Ckp「簡単」 OB「上がる」

Oju「乗る」 8ju「広げる」 vvd「出る」 15「はめる」

g0Q「入る」

簡単に寝て、直ぐ上に乗って、がばっと広げてずっぱり入るものなんですか？尻軽女ではありません。という例によってエッチな謎謎である。答えは運動靴である。

(241)

gæ; jxkdodohp -kC1k1P[]6sodskpgou

(ハン・ワー・パ・ク・ノック・ノイ) (サンク・ヤ・ニアップ・ロン・ナック・ラーイ・ヌー)

[kfod3I, cICdæ -8vf8kp38-kCsAc]h

(パート・ノック・ホーム・ハンク・カン) (シトド・タイト・サンク・ハン・レオ)

gæ「見る」 xkdodohp「くちばしの長い、小さな鳥、

ここでは権力のない一般庶民に喩えられている。」 -kC

「象」

1k「するな、禁止」 1P[]6「踏みつける」

sodskp「非常に、とても」 gou「感嘆詞、(よ)といった

ニュアンスになる」 [kf「の時」 3I, cIC「力を合わせて

団結する」 3I,「集まる」 cIC「力」

8vf「つつく」 8kp「死ぬ」 38-kC「象の体、ここでは

権力のある人、力のある国、偉い人などの例えに使っている」

sAc]h「sAはThereにあたるが、ここでは(そのとうりだ)にあたる」この慣用句は実際の会話のなかでは、(ハン・レオ)という発

音ではなくて(ル・ラ)といった発音になる。会話の中では、速く発音するので、言いやすいようにこのように音が変化するのである。単語の説明で、だいたいの意味がわかると思うが、ここで言いたいのは象のように力の強い権力のある人も、弱い人をあまりにもひどく踏みつけ搾取しないほうがいい。弱い彼らであるが、力を合わせて団結すれば大きな象だって殺す事ができるのだから。

(242) **8qs, βIlgæcIh** **8qs, flkgædk**

(トク・ム・ヘンク・ペン・ヘンク) (トク・ム・カー・ペン・カー)

8q「落ちる」 **s, β**「仲間、友達」 **cIh**「鷲」 **dk**「カラス」

「鷲の仲間とまじわれれば、鷲になる。カラスの仲間とまじわれればカラスになる」ということで、日本語では「朱に交われれば、紅くなる」という諺であろうか。

これと同じ意味でもう一つ紹介する。

rq7qfuhudβq **rq7q-jrk8qs, jos, vC**

(ホップ・コン・ディ・ミー・シー・ケー・トゥア、ホップ・コン・スパ・パ・トゥア・モンク)

rq「会う」 **7qfu**「良い人」 **7q-j**「悪い人」

,u「ある」 **lu**「色」 **cdj**「に対して」 **8q**「体」

rk「導く」 **s, jos, vC**「暗くする、憂鬱にする」

「いい人に会えば、その人の影響を受けて、自分の性格は良くなる。逆に、悪い人、不良とつきあえば悪い事を覚えて、学性の場合だと成績も悪くなり、タバコを覚えたりして悪くなる」

(243) **[β; kfltsok[lvfdæ** (ブソ・ワ・サ・ホ・ホド・カン)

[β「功德」 **; kfltsok**「縁」 **lvf**「達する」

dæ「お互いに」これは「お互いに縁がなかった」と訳します。

例えば、男の人が女の人を好きになって、告白します。しかし女性にとってその男性は意中の人ではなかった。その場合は男性にしてみればその女性に振られた。女性からみればその男性を振ったことになりませんが、そのように言うと身も蓋もなくなります。

これは、お互い縁のなかったこと。そのように言えば誰も傷つきません。日本語でもお見合いなどで、「これも縁ですから」などと言

っていますし、この訳で日本人はわかると思います。
 この(ホー・ホト・カ)であります(カ)は助詞のような役目で
 この前に動詞がついて「お互いに何々する」という意味になります。
 「愛する」はラオス語では **Id**(ハク)であり、「愛し合う」は **Ieda**
 (ハク・カ)になります。従ってこの場合はお互いの縁が到達しあ
 わなかったのですから、(ホー・ホト・カ)ということになります。

(244) **dn[ʔq]**(クツ・ホー・ン) **7kp[vvd]**(カイ・ホー・オグ)
dn]q「飲み込む」 **7kp[vvd]**「吐き出す」

「飲み込もうと思っても飲み込めない。吐き出そうと思っても吐
 き出せない。」これは他人の秘密など話したいんだけど、話せない。
 心の中にしまっておきたいんだけど、それもできない。そのよ
 うな気持ち・心境を表わしています。また外国人が日本に来ていき
 なり御刺身を食べようと、口に含んだ時、おそらくこのような気持
 ちでしょう。

関係する単語として以下のようなものがあります。

vq(ム)「口に含む」 **7kp**(カイ)「口に含んでいるものをもどす」

spe(ニム)「歯でかむ、はんすうする」

lkd(ルク)「胃の中、お腹の中のものをもどす、吐く」

4joE]kp(ム・ナム・ライ)「唾を吐く」

(245) **vq]Q9pwfhs; ko vq]nqmk; PdCko9pc]h**
 (オット・ソム・チュング・ダイ・キン・ワン オット・トン・ターン・ピアク・ガン・チュング・レオ)

vq「我慢する」 **lQ**「酸っぱい、つらいこと」

9p「そうすれば」 **wfhs**「食べる事ができる」

s; ko「甘い」 **nqmk**「耐える」 **; PdCko**「仕事」

c]h「終わる」

辛いことに耐えていると、後で甘い成功を得ることができる。
 我慢して仕事をしていると、その仕事も終わる。

これは詳しい解説は、必要ないでしょう。ここは単語を覚えてくれればそれで大丈夫です。

(2 4 6)]Pis, 6, 4k9a (リアグ・ム・ワイ・ター・チック)

]P6「育てる」 S, 6「豚」 w h しておく」

4k「待つ」 9a「中国人」しかし中国人にたいして(チック)というのは失礼な言い方、蔑称であるので、知らない人の前ではこの言い方は止めた方がいい。

「豚を育てて、中国人を待つ」ラオスでは、昔豚を飼って大きくなったならそれを中国人が買い取ります。日本語の諺でいえば「トンビに油揚げをさらわれる」といった感じでしょうか。恋愛でも同じで好きになったらはつきりと好きだと女の子に告白しないと、他の人に横取りされるかもしれません。

(2 4 7) 38Cgfa (トネ) 38Cgfa (トネ)

これは擬態語で、ブラブラ揺れる状態を言う。しかしこの揺れているものは、エッチな場合だと赤ちゃんの金玉なんかも、揺れているのでこのような表現をする。日本だと狸の金玉であろうか。例えば女の赤ちゃんが産まれたとしよう。今度は男がいいか、女がいいか聞かれたら、エッチで楽しい表現だと

Ohp1kdwf B8Cgfa 38Cgfa (コイ・ヤク・ダイ・トネ・トネ) と言えば、「私はブラブラしてるのが欲しいな。」今度は男の子が欲しいんだということである。

タイ語では、38CMBCM (トトテンテン) と言う。

38Cg8C は、機織り機の糸巻き板にはめて、ぴんと張るために垂らす一対の重り。垂れ下がってブラブラしているもの。

(2 4 8) NHKの衛星放送

先日友人の誕生日のパーティーで、専門家の家でNHKの衛星放送でテレビドラマを見た。宮尾登美子さんという小説家の話で、物語は新潟が舞台である。このドラマの題は忘れたが、ドラマの登場人物は新潟弁でしゃべっている。(同席していた人に新潟県出身に

人がいたので、彼女がそう言っていた。) 私は日本のテレビなんてここ何年も見ていなかったし、見るとしたらタイのテレビだけ、普通なら日本語だから全部わかっていいはずなのに、注意して聞いてないとわからなかった。また方言だからわからなかった部分もある。いつもラオス語・タイ語の生活だから耳がだんだんそれらの言葉に慣れてきた。(逆に日本語の力が落ちたのかもしれない。)

それと食事をご馳走になった人のメイドさんは、バンコク出身のタイ人で、彼女はラオス語でよくわからないことがあるとか。慣れていないとバンコク出身のタイ人にとってラオス語は、私がTVで見たドラマの新潟弁みたいなものかもしれない。わかるけれども、時々わからない単語、言い回しがはいつて来る。タイ語とラオス語もこのような違いかもしれない。

(249) お金の貯まる方法

1kvo8jɪl; kp(ヤ- ノ- トウ- ス- イ)

「朝寝坊してはいけない」要するに朝早く起きて働きなさい。

1kvpkskdɔ(ヤ- ア- イ- ハ- キン)

「お金を稼ぐことを恥ずかしがってはいけない」要するに、労働は尊いものである。

1ks, jɔŋohp(ヤ- ミン- ゲン- ノ- イ)

「少ないお金だといって馬鹿にしてはいけない」1キップ、10キップのお金でも塵も積もれば山になる。

1k7vpsk; kfltsok(ヤ- コ- イ- ワ- サ-)

「幸運を待っているだけはいけない」努力して自分から運を掴むようにしないとはいけない。

1k「禁止」 **ovo**「寝る」 **8jɪ**「起きる」

l; kp「朝遅く」 **vkp**「恥ずかしがる」 **skdɔ**「お金を稼ぐ」

s, jɪ「軽蔑する、馬鹿にする」 **ŋɔ**「お金」 **ohp**「少ない」

7vp「待つ」 ; **kfltsok**「幸運」

(250) **c0hgɔŋ**(ケオ- チュンク)

うちの女房の実家の焼き飯やで働いている女の子に

od (ノク)「鳥」というあだ名の子がいる。ラオスの場合 **od** とこの程度のあだ名で呼ばれているのなら、まだ普通であるが、ひどくなると

c0h (クオ)「歯」と **gɔ** (チュン)「飛出している」を合わせて **c0hgɔ**「出っ歯」といわれている。また **vgɔ** (イ・チュン)とも言われている。こういう言い方は家族や親しい間柄、使用人に対してならいいが、目上の人に言うとは問題になるので注意すること。

また日本語の大根脚にあたるのが **oks, 6** (ム)「豚の足」である。**ok**「足」 **s, 6**「豚」、実際、豚の足というと、中国人は豚の丸焼きを好んで食べるが、胴に比べてそんなに太くない。かえって細い位である。そして短い。大根足というより太くて短足というかんじなのか。ところで **oks, 6**は美味しい部分として、中国人には喜ばれる。

(251) **ntcsɰ** (タソ)

これは辞書などでは「情報」などの意味で載っていますが、ここでは違う意味を述べる。例えばタバコが本当は大好きなのだが、好きな彼氏の前では、煙草なんか吸わないワアといった顔をしている。また好きな彼氏とデートに行って本当は沢山食べるのに、彼氏の前ではちょっとしか食べない。「お腹いっぱいなの、おいしかったわ」などとブリッコする。本当は男性体験がいっぱいなのに猥談に顔をしかめて処女のフリをする。こういうのを **ntcsɰ** と言います。

(252) **c]hc8j fmk** (レオ・テ・サター)

c]hc8j「しだい」 **l fmk** は **7; k, r=9** (クアム・ポ・チャイ)

ということで「満足」と訳せばいいだろうか。

これは例えば時計を修理したとしよう。後で取りに来るといって取りに行くと、たいした故障でもなく簡単な修理だったので、「いくらですか？」と修理代を聞いたら、こんな答えをいわれた。

要するに値段は貴方の気のむくまま、好きなだけいただければいいです、ということである。これは日本語でも「気持ち次第」とかいう言い方もあると思う。なにかお礼しなければいけない時に、いく

らですかと聞くと

c]hc8g9Q (レオ・テ・チャオ) 「あなたしだい」という便利な言い方があり、ラオス人もよく使っている。私の日本人の友達で、ラオス人と結婚した男性がいた。その人に、子供は何人欲しいですか？と私の妻が質問した。彼の答えは自分の奥さんの方をさして

c]hc8jko (レオテ・ク) 「あなたしだい」と答えたのである

がこの **nko** というのは、「Mr」という意味のラオス語で、普段の日常会話では、用いない丁寧すぎるいいかたである。彼はラオス語の会話の本を見てその通りに言ったのだが、会話の本と、本当の会話はおうおうにして違う物である。私の妻はそれを聞いて大笑いしていた。

(253) 中国人の呼び方

普通のラオス人はこのようには言わないが、妻の家族は中国人(客家)なので、呼びかける時、中国語になる。この場合は客家語ではなくて、タイの華僑の主流を占める潮州語である。

阿姐 (アチエー) 「お姉さん」

阿兄 (アヒア) 「お兄さん」

阿弟 (アディー) 「弟」

阿妹 (アムアイ) 「妹」

阿叔 (アチエック) 「叔父さん」

阿公 (アゴン) 「おじいさん」

このような言い方を覚えていると華僑としゃべる時に便利である。阿妹は中国人の娘さんで、まだ独身の人を呼ぶ時に使う。また中国人でなくてもベトナム人、ラオ人でもいいからお店で物を売っている女のこを呼ぶ時、この呼称を使うといい。彼女達もこう言われると嬉しくて値引きもしやすくなるということだ。ベトナム語では、(ム)になる。

(254) **Ojgn]G[wfh** (スア・ロン・ホー・ダイ)

Oj 乗る」 **gn** 「虎」 **]G** 「降りる」 **[wfh** できない」

「虎に乗ると降りれなくなる」一度虎に乗ると、降りることができなくなる。降りると虎に食われてしまうし、かといってそのまま虎に乗ったままでもずっと危険が継続しているのだから。後には戻れないし、そのまま行っても危険だし。リスクの高い投資に手をだし

て、引っ込みがつかなくなった状態をさす。

(255) **lqoEsok**(ツム・ナム・ナ-)

lq「ふさわしい、適合した、似合う」 **oE**「水」

sok「水」 **oEsok**「涙」

「涙にふさわしい」ということで、ざまみる、だから言ったじゃないか。という意味でかなりきつい言い方である。

(256) **megyC**(タム・エ-ツグ) **wfhyC**(ダイ・エ-ツグ)

ne は **glf**(ハット)と同じ意味で「する、行う」 **gyC**「自分で」

wfh「得る」これは「自業自得」ということで、自分で蒔いた種は自分で刈り取りなさい、ということである。

(257) **gɣvdxkowɔ.s, h**(チップ・オック・パ-ソ・ファイ・マイ)

gɣa.9xkolkp2kzk(チップ・チャイ・パ-ソ・サイ・ファイ・パ-)

これも詩のように韻が踏んであります。

xko は「のように」と訳します、**7n**と同じ意味ですが、**xko** は文語にもちいて、**7n**は会話文によく使います。**wɔ.s, h**「火事」

lkp「線」 **2kzk**「雷」

ということで、失恋した恋心を詠っている詩文です。

「胸の痛みは、火事のごとく」「心の痛みは雷の稲光のごとく」これも韻が踏んであります。

(258) **gɣ7nkdtftdt3fɪmh**(チャオ・ク-マ-ガ'カ'--テ-)

gɣ7nkryɪcmh (チャオ・ク-マ-ピ'ルック・テ-)

この場合は **ryɪ** と **dtftdt3fh** は同じ意味である。状態、程度がひどい、激しいことを表わす。例えば、お客さんよりこのように仕事をしてくれと言われる。客の注文どおりに仕事をしたつもりなのに、後で細かい事まで文句を言われる。そんな時に言い返す言葉がこれである。

gɣ「あなた」 **7n**「みたい」 **,k**「来る」

cmh 本当に、この場合強調の意味」

「あんたえげつなくもそんな風によく言って来るヨ」

この場合は、**g Q]tvPf** (ワ・ライツト) **g Q**「言う」

]tvPf「細かい」ということで、「細かいことを言う、五月蠅い

ことを言う」または **g Qqg[tsq** (ワ・チョン・チップ・ア)

9q「まで」 **g[**「痛い」 **sq**「頭」ということで

「頭が痛くなることを言う」こんな意味と解釈してよい。

(259) **[fux [wfh; j** (バット・パイ・ボード・イウ)

[f, k-yppifu (バット・マ・シ・ニエードウ)

[f「時」 **w**「行く」 **[fux**「行く時」

[wfh「しない」 **c; j**「寄る」 **, k**「来る」

[f, k「来る時」 **-y** 未来形の助詞 **cpj**「オマンコする」

gfu 文末につける感嘆詞」

「行きは寄らないから、帰りはオマンコするから」ということで、これは(ウエ)と(ニエー)のシャレと考えてください。

(260) **g[ns]Q[kf9vf 8k[vf[kfg4Q**

(ア・ム・バード・チョド) (タ・ボード・バード・タ)

g[ns]「船」 **s]Q**「転覆する、沈む」 **[kf**「の時」

9vf「泊まる」 **8k**「目」 **[vf**「見えなくなる」

4Q「年をとる」

船を漕いで、岸までもう少しという時、船が沈没してしまった。年をとってしまって、目が見えなくなってしまった。このように今までの苦労が水の泡になってしまうこと。

「努力が水泡に帰ってしまった」

(261) **zq[s; tsu]kC** (ボム・ボー・ウイー、ヒー・ボー・ラング)

zqG 髪の毛、タイ語で男性の一人称」

[G 否定のことば」 **s;G** 髪の毛を梳かす」

sG オマンコ」 **]kCG** 洗う」

下品なことばで申し訳ないのですが、要するに頭の髪の毛も梳かさないう女なら、オマンコも、毎日ちゃんと洗っていないだろう。きちんとみのまわりのことをきちんとしていないとこのように悪口をいわれますので、注意してください。

(2 6 2 ?) **[+təskE u8βəskD**

(ポーミー・バンハー、ミー・テー・タンハー)

,G あります」 **[əskG** 問題」

c8G only」 **8əskG** 性欲。タイ語では、パンハーになる」

これは、いわゆるシャレです。声調のあるラオス語の場合日本語のダジャレにあたるものがないにくいのですが、この場合見事に、

韻 **XlezE?** を踏んでいます。「問題はないけれども、性欲はある。」

という意味になります。ラオス人に何か困ったこと・問題がありますか？と聞かれると、すかさずこの様に答えるときっと馬鹿にされるので、このフレーズは知っていても使わないようにしてください。

(2 6 3) 「ハイ、ドウモ」

「ハイ、ドウモ」これは、ラオス人が知っているラオス語として有名ですが、この発音が広東語の単語でエッチな意味になるらしい。

「ハイ」が女性器を意味して、「ドウモ」が毛が多いという意味になる。「ハイ」の方は漢字でどのように書くのか忘れたが「ドウモ」の方は、「多毛」と広東語で書き表すらしい。したがって「ドウモ」と広東語で言えば、「オマンコの毛が多い」という意味になる。

ラオスには広東系の中国人もいるので、彼らに尋ねてみたらいい。ただし、日本語の声調とは少し違うので。

それから、広東語で「アイスクリーム5本」は「シッコ、ウンコ」と言う。どうも広東語にはおもしろいものが多い。

(シッコ)「アイスクリーム」という発音が日本語のオシッコのシッコに似ている。(ウンコ)は「5つ」という意味である。

(264) **0=dlɣgɔwɬɛ**

(コー・サック・シン・チャオ・ダイ・ポー?)

0G「したい、が欲しい」-**dG**「引っ張る、さげる、洗濯する」

lɣG「シン、ラオスの巻きスカート」 **gɔG**「あなた、二人称」

「あなたのシンを洗濯していいですか?」という意味にもとれるがエッチな意味で「あなたのシンを引きずりおろしていいですか?」という意味にもなる。

-**dgɣɣC**で「洗濯する」という意味になる。**-d:k;**で「尻を引っ張る、要するに尻上げする」という意味にもなる。それから意味が発展してエッチな意味で、その動作が尻上げに似ているので男の人がオナニーをする意味にもなる。

日本語をラオス人に教える場合、例えば「順子は美人で、みんなから引っ張りだこだ」という日本語を

「**lk;** 順子 **Ck, skpɬk; gəwɣ-d:k; D**」と直訳して間違えて教えた日本語教師がいたとか。

また、ラオスの笑い話で「結婚して毎晩奥さんの巻きスカートを洗濯している新婚の亭主」といういいかたもあります。

(265) **gɔsəɔs, ɬɛ]ɬkC**

(チャオ・ヘン・ミーポー、リー・ハーング)

gəG見る。**S, G**熊。**]G**隠れる。**skCG**しっぽ。

「あなたは、熊を見ましたか?尻尾が隠れている。」という意味の単純な文章であるが、これは回転語という言葉の遊びで、ラオス語にはよくある。熊の単語の、**g**が **gə** の **S** と **0** の間に移動すると **gɔs, əɬɬɛ** という文に変化する。**g, ə** は「臭い」という意味で、この文は「おまえのマンコは臭い」という意味になる。

2番目も二つの単語の一部が交換されると、**sɬkC** になる。

]kC(ラーング)は「洗う」という意味で「あなたは、熊をみまし

たか、尻尾が隠れているでしょう」という真面目な文が「おまえのマンコは臭い、マンコを洗え」という下品な文に手品のように変わってしまう。

(266) **ḡḡ dsvpḡḡ** (チャオ・マック・ホイ・チーポー)

, **dḡ**「好き、好む」 **svpḡ**「貝」

ḡḡ「焼く、炭などで焼く」 **ḡḡḡḡ** (材・チー) はパンになる」

ビエンチャンでは **ḡḡḡḡ** というとフランスパンのことになる。ラオスは昔フランスの植民地だったので、フランスパンが美味しい。これはタイと違う所である。ビエンチャンの中にも何ヶ所かフランスパンを焼いている工場というか家内制工場がある。実際に夕方その場所に行くと焼き立てのパンが買える。焼き立てのは本当に美味しくてバターなど付けなくてもそのまま食べても美味しい。有名なところで、ドンナソークにある家内制のパン工場を薦めます。ここへの行き方は、夕市(ワット・レーン)に(パイ・ナム)というホテルがある。その前の通りを、パイ・ナムを左にして真っ直ぐ道なりに行くと、左折すると空港方面に行く道、右折するとドンナソークへ行く道の三叉路がある。その三叉路を、右折してひたすら真っ直ぐ行くと右側に自転車とバイクが沢山止まっている家が見えたら、それがパン工場である。目立ちにくい普通のラオスの家なのでよく気をつけて探すこと。ただしこのパン屋は美味しくて有名なので、ラオス人に聞いたなら誰でも知っているの、そばまで来たら聞いてみる。実際に焼いているところが見られる。他にもモワットタイにあるパン屋も美味しくて有名である

ḡḡḡḡ 上れも「貝」と「焼く」という2つの単語の一部を交換すると

su (ヒー)「オマンコ」と **ḡḡḡḡ** (フイ)「痩せている」という意味の単語に変化する。

従って、この「あなたは焼き貝がすきですか？」というのが「あなたは、痩せたマンコ(処女)がすきですか？」というエッチな文に見事に変化するのである。

それから、タイ語で「パン」は **ḡḡḡḡḡḡ** (カムパンク) という。これ

は

ラオス語と違うので注意すること。

タイ語にも **ອຳໄພ** がある。タイの **ອຳໄພ** というのは日本でいえば、「焼きお握り」である。バンコクに仕事で行った時に、夜お腹が空いて夜食を買いに行ったらこれが屋台で売っていた。名前を聞くと **ອຳໄພ** とのことである。これはもち米を蒸して煮詰めた砂糖を中に詰めてお握りを作り、串にさして塩味をつけた生卵を塗って焼いたもの。タイ東北部の農民、ラオス人は陰暦3月に

ໂປ່ງອາໄພ (スー・クア・カ)「稻魂招き」の儀式を行い、寺へ御布施に行つて説教を聞く。その時にこれを御坊さんにもっていく。

(2 6 7)

suohpɬa.spɣk.ljɰɰɰ |pɰc |p, kʂ 0 glpD

(ヒンノーイ、ヒンニヤイア。アオサイロット。レンバイ、レンマー トーノーヒア)

suG「石」 **ohpG**「ちいさい」 **.spG**「大きい」

ɣk.lG「載せる」 **ɰɰɰG**「車」

c |pG「走る」

ʂoG ʂ は「文字」従つて「**0**」という文字

glpG 「落ちる」「おっことす」

これは、小さな石や大きな石を車に載せて、あちこち走り回つた。

そうすると、いつのまにか **0** の文字が車から落ちてしまった。つまり

り **SU** から **0** の文字がおっこつてしまふと残るのが女性のアソコ

を示す例の **SU** が残るのである。

(2 6 8) 「東」「しかし」「大使館」

これらの日本語の単語を、うら若き日本人の女性がラオス人の前でいうとエッチな意味になるので注意しましょう。

まず最初に「東」これはラオス語で書くと、**sətɰ** と言う発音に聞こえる。

sg ひー」という発音でご存知の「オマンコ」という意味。

CtG が」という発音で「こじあける」という意味。

lG しー」という発音で「オマンコ」するという意味。

従って、ラオス人が日本に研修に行って、その住所が例えば、「東区東通り東マンション」などというところだと大変なことになる。「しかし」これも例の **lU** しー」の発音が2つあってその間の「かー」の発音もラオス語で書くと、「足」の意味を表わす **Ok** と表わすこともできる。したがって足を広げてオマンコするといった風にも解釈できる。

「大使館」の発音は「たーい」がラオス語の **skp** で「死ぬ」。

「しーかん」がラオス語の **lka** で「オマンコする」という意味になる。日本人が普通に「大使館」と発音すれば、その発音をラオス人が聞けば「オマンコして死ぬ」という意味にとらえられる。そうなると「腹上死」である。「ラオス大使館」「タイ大使館」「日本大使館」みな「大使館」がつけばエッチな意味になります。

以上、基本的な単語であるが気をつけないと誤解を生じるので、注意しないとイケない。

(269) **svpdəs, uə fglfidjodə**

(ホ・イ・カップ・ミー・アン・ダイ・クード・コーン・カン)

dəG とー」 **və fG** どっちが」 **glfG** 生まれる」

djoG 先に」

(貝と熊とどっちが先に生まれたでしょう?)

これも「熊」と「貝」のそれぞれの単語の一部を交換すると、例のエッチな意味になります。

それぞれ、**S, vp** (マンコの毛) **Su** (マンコ) という意味になります。

したがってオマンコの方が先にうまれて後で毛が生えてくるので、どっちが先に生まれたかわかるわけです。

真面目な意味の「鶏が先か、卵が先か」は、

wjɫəwɔjə fglfdjodəL と言います。これにはエッチな意味は全然はっていないので安心して使ってください。女性に言っても大丈夫です。

最後はやはりエッチな話。「どちらが先に生まれたのでしょうか？」シリーズの最後の話題。

ブルガリアの笑い話だとラオス人に教わりました。おそらくブルガリア帰りの留学生が聞いて持ち帰ったものでしょう。医学部の面接試験で次のような問題がでました。

xkd | ʃd ʌ xkdgnʃvə fglfdjodəL

(パーク・ルム・カップ・パーク・トウング・アンダイ・クード・コーン・カン)

xkdgnʃG 上の口、これは真面目な意味でご飯を食べる口。

xkd | ʃG 下の口、いわゆるオマンコのこと。

最初の女子学生は、面接間に「下の口です」と答えました。何故なら下の口は立派なヒゲがはえていますから。上の口には生えていません。だからきっと下の口の方が年をとっているでしょう。

面接間は、彼女に100点満点をあげました。

次の生徒は、上の口です。何故なら上の口は歯が32本生えているのに、したの口は2本しかはえていませんから。

面接間は彼女にも100点満点あげました。最後の女生徒は「下の口」の方がわかりです。何故なら、「下の口」は昨日の晩牛乳を飲んでいたので。これも100点満点です。本当に下品でごめんなさい。

(270) **xk7** (ハ -コ-) と **gʃ** (オ)

これは、それぞれ魚の名前と亀の意味であるが、隠語で **xk7** は男性の性器を、**gʃ** の方も女性の性器を意味する言葉である。

よく魚の大きさを手首の大きさぐらいの **xk7** だとか、その大きさを表わす時にいう。それがエッチな意味になっておチンチンのサイズを表わす意味になり、この魚は女性に好まれると冗談で言われる。

gʃ は「亀」であるが、これは亀を逆さにして見ると女性器の恰好に似ているからである。またドイツの名車のフォルクス・ワ - ゲンを

「かぶと虫車」などとニック・ネームで言うが、ラオス語では、「亀の車」と言うエッチな言い方をする。

これは **lɔvɔŋ** (ロット・イ・タ) であるがよく女の子とセックスをすることをこの「亀の車に乗る」という言い方をする。フォルクス・ワーゲンがラオス人に言わせるとオマンコの形をしているのである。従って、こんなエッチな言い方ができたとか。他に、テントウ虫はラオス語で **c**, **cvɔŋ** という。

ちなみにこの **xk7** は日本語で言えば「雷魚」にあたる淡水性の魚で、丸々と太っていて大きいものは大人の腕くらいのものがある。これがしばしば男性のシンボルに喩えられている。**xk7** は、黒いものと白いものの2種類あるが、ラオスには釣り堀みみたいなレストランがあって生け簀の中で泳いでいる **xk7** を捕まえて焼いてだしてくる。このタイプのものがラオス人のお気に入りである。

1キロ当たりの値段が決まっていて、キロ数で勘定を払うようになっている。1995年のお正月に遊びに来た、ラオス革命以降最初の協力隊員の髭の望月さんと、タゴンに行く路の途中にある **xkmvC** という有名なレストランに行った。**xkmvC** は、日本語でいえば「金魚」にあたるわけだが、老舗である。一緒に行ったラオス人のおばさんにどんな **xk7** が好きか聞いてみたところ

「わたしは **xk7efC** が好きだわ」というのにはビックリした。

赤い **xk7** というのは、要するに男性のシンボルのことである。

おばさんになるとラオス人も、本当にエッチである。

xk7 **glɔ** というのも是非覚えてもらいたい。これはウロコ **glɔ**

(ケッド) のない **xk7** という意味で、ようするに「男性のシンボル」の意味である。この種の魚は女性に特に好まれるそうである。エッチな表現なので覚えておいて酒の席で、酔っ払った時に言うとおお受けするだろう。

(271) **lkogɔc8jltfθ** (ニャン・ルアテ・カド・ウク)

「骨しか残らない」

1ko「心配だ、怖い」 gŋc8j「しか残らない」

dtfθ「骨」

例えば「地方の出張に安い日当で行かされて、おまけに道が悪いのでへとへとに疲れて、仕事でこき使われてきたら痩せ細って、骨と皮しか残らない」このような時にこのフレーズを言います。

しかしもっと面白いいいかたで、

gŋc8jse という言い方があります。**se** (ム) は「金玉」で

「金玉しか残らない」という意味です。例えば、ギャングに襲われて、着ているものから、お金まで全部みぐるみはがれた場合、残っているものは金玉だけですからこの様にいいます。日本語で「ケツの穴の毛まで抜かれた」という言い方がありますがこれがそうです。

女に騙されて、日本に帰る時、すべての家財道具を取られて泣く泣く帰った人の場合は、このフレーズがつかえます。

(272) **gɣgɣk]605** (ア・オ・ンク・ム)

gɣk「柱」、**]6**「降ろす、下げる」、**05**「孔、穴」

これは、家を建てる時に、穴を掘って柱をその穴の中に入れて柱を立てますがその動作を表わします。しかしエッチな意味にも使えますので注意してください。

(273) 篤 敦、篤志 厚司 淳 淳司 敦司 敦志

これらは、みんな「アツシ」という日本人の男性にはよくある名前である。ワープロで、「アツシ」で入力すると、これだけの種類の「アツシ」に変換できた。しかしタイ語でもそうだが、この発音がラオス人には変な意味に聞こえる。従って、せっかく親につけてもらった立派な名前ではあるが、ラオスでは気をつけよう。

ラオス語で「精子」のことを **vkl9y** という。この発音をカタカナのルビで表わすと「アスチ」となるが、これが日本語の「アツシ」という人の名前に発音が似ているので注意すること。日本語の「ツ」の発音はラオス語にはない。したがってもしアツシさんが自分の名前をラオス人に正しく発音させようとしても、これは不可

能である。 頑張っ、ラオス語で書いてみると **vk99y**となるだろうが、そうなる「精子」を表わす **vk19y**に発音が似てくるのである。だからラオス人の女の子に **Ohp-jik99y**なんていうと、あいてはビックリしてしまう。例えば、外人が日本に来て、「ワタシ ノ ナマエ ハ 精子 デス」なんてたどたどしい日本語でいったら日本の女の子もたまげてしまう。従って、気をつけてください。

(2 7 4) **vkp, vfdt [vCvħohCOB8PC**

vkp (ア-イ) 「お兄さん、この場合は一人称である、年下のものに対し自分はお兄さんと自分のことを言う」、**vf** (モ-ド) 「消す」、

dt [vC (ホ-ツク) 「たいまつ」、**vħ** (ウム) 「抱く」、

ohC (ノ-ツ) 「妹、弟、年下のものに対して、本当の兄弟ではなくてもこのようにいうこの場合二人称になる。」

OB8PC (ク・ティアツ) 「ベッドに上がる」

これは、カンボジアの古い歌で「オー、バタンボン マンドー ルジェン ウーイ」という有名な歌があるが、それを猥褻な歌に変えたものである。カンボジア人なら誰でも知っている古い歌である。元歌は、わたしもどういう意味かよくわからないが、エッチな意味はない真面目な歌である。バタンボンはカンボジアの東部にある都市で、プノンペンに次ぐ第二の人口がある。この歌が替え歌になると「松明の火を消して、君を抱いてベットに上がる」という意味になる。しかしラオス人に尋ねても、これはカンボジア人を馬鹿にした歌ではなくて、たんなる替え歌だそうである。この他にカンボジアの歌で有名なのに「アラピアー」という歌がある。これはカンボジアにいたことのある人なら誰でも知っているような歌であるが、ラオスでは残念ながら聞いたことがない。

(2 7 5) Good Morning

これは、ラオスの笑い話で、ある朝、アメリカ人がジョギングしていた。ラオス人に会ったので朝の挨拶で英語で「グッド、モーニング」と言ったのだが、そのラオス人彼の発音がわからなくて

「コイ ボー・ネン」と聞き間違えた。[esoh(ボー・ネン)「固く

ない」という意味になる。37p(コイ)は「おチンチン」である。ようするにこのラオス人は、朝、アメリカ人が走りながら「おチンチンが立たない」と言ってるのだと勘違いしたのである。

「アサダチしないんだな」と勘違いしたのである。

(276) g^hg^hpsə; PC9a[ɛ

(あなたはビエンチャンを見たことがありますか?という普通の意味のラオス語のようだが、「g^hpsə」(ク-イ・ハン)というイディオムは「を見たことがある」という意味だが、「ビエンチャンを見たことがありますか?」というフレーズは「ビエンチャンの女とセックスしたことがありますか?」という意味になる。つまりいくらラオスに来て、ビエンチャンのお寺、凱旋門を見ただけでは、本当にビエンチャンを見たことにはならない。その現地の女性と一夜をともにして初めて、その土地がわかるというわけである。こういった言い方は、タイ語も同じである。

(277) 吉川富郎 広東語シリーズ

これは、なにか日本人の名前みたいだが、広東語でこのように書くと、「破れた、パンツ」という意味になる。これは危険だ。客家の華僑から教えてもらった単語である。ラオスでは大丈夫であるが、香港に遊びに行った時は気をつけよう。

(278) g^hjp^hskp[ɛ s, vpskp[ɛ

これは最初の文が真面目な意味の「とても疲れていますか?」という疑問文である。次のは「オマンコの毛が多いですか?」という意味である。この2つの文で g^hjp^h と S, vp は、発音がよく似ているので注意しないとイケない。

g^hjp^h(ムアイ)は「疲れた」 S, vp(メイ)は「オマンコの毛」という意味である。この2つの単語の発音を間違えて逆に覚えてい

て、オービー病院のフィリピン人のお医者さんが女の子に「とても疲れていますか？」と聞くところを

g0s, vpskp [t] と聞いてしまった。女の子は「オマンコの毛は多いですか？」などと聞かれたので、「すこしだけ」と顔を赤らめながら答えたい。オービー病院というのは革命前の名前で、現在はセタティラート病院という。昔は、アメリカの関係でフィリピン人のお医者さんがたくさんいたらしい。これは、本当に有名な話でラオスに来て、何度も聞かされた。外国語を覚える時は、文字と発音をきっちりと覚えないと恥ずかしいことになる。

(279) フランス人の言い間違い

フランス人で、ラオス語が下手な奴がラオスに来て、女の子をくどきはじめた。「こんな風に言えば、僕のこと信じてくれるかい」と言いたかった。ラオス語でいうと

7og [c] [o]g [j]0hpw [t]

(カン・ワアオ・ベープ・ニー・チャオ・スア・コイ・ダイポー)と言わなければいけないのを、発音を間違えて以下の様に言った。カタカナのルビでは、発音の違いがよく表わせないのが欠点であるが、このようになる。

7og [c] [o]g [j]Pd37pw [t]

(カン・ワアオ・ベープ・ニー・チャオ・シャ・コイ・ダイポー)

言葉の説明

g-j0hp は「私を信用する」 **1Pd37p** は「男性自身をこする」

つまり「オナニーする」という意味である。**1Pd** は「上下運動させる、こする」という意味である。また逆に **37plPd** というと、「オチンチンの皮がむけている、剥けチン」という意味になる。単語の順番が変わると意味がかわるので、気をつけないといけない。しかしこのような例文で覚えていると、頭によくはいつて忘れない。この本はエッチなようで、例文が忘れにくく楽しいので、わざとエッチな単語をピック・アップしているのである。其処いらへんの著者の苦勞を読者にもわかっていただきたい。

ようするに、女の子にむかって口説いてるつもりが「僕を信じてくれ」と言うところを「僕のオチンチンをシゴイテくれ」と言ってしまったのである。声調と発音には気をつけないと、このようなことになってしまう。

Obp と **37p** の発音の違いはきちんと区別できるように。「**3x**」と「**V**」の違い、そして「高子音+マイ・トー」と「低子音+長母音」

の発音の違いをきっちりできるように何度も繰り返して練習してみよう。エッチな内容だが、この本は大切な発音のことについて楽しく勉強させてくれる。そして単純な発音練習はこのような単語を選んで練習すると、きっと楽しく練習できるだろう。

(280) **gfno, Edvo** (ドウアン・マンコン)

これは1月のことである。**gfno** が「月」で、**Edvo** は「竜」になる。しかし **gfno, Edvo** で「睦月」という意味になる。ラオス人でもこのような月の言い方を、ちゃんと覚えていない人も多い。普通は月の後に数字をいれて、それで何月か言い表す。例えば12月なら、**gfno lylvC** というようになる。しかし何故ここで、

gfno, Edvo をとりあげたかということ、この発音が日本語の「マンコ」に似ているので覚えやすいからである。

gfnosob というのが普通であるが、1月という単語から「マンコ」を連想するようになれば、あなたのラオス語もたいしたものである。

余談になるが、インドネシアの地名でキンタマーニというのが、本当にあるそう。この発音は、日本語の「金玉」と同じ発音になる。日本の若い女子大生が恥ずかしくてこの発音ができなくて、へんにアクセントをつけて発音した。しかしインドネシア人はわからなかった。普通に日本語の「金玉」と同じ発音で「キンタマーニ」と言えば通じたのだが、恥ずかしくていえなかったのだ。これは冗談ではなく本当にこういった地名があるのだ。

話が飛んでしまうが、スワヒリ語で「クマ」という発音は、女性

の「あそこ」を意味する。「モト」という発音は「暑い」という意味らしい。昔、協力隊ケニア隊員で熊本県出身の、Mr 熊本という人がいたらしい。おまけに其の人の実家は球磨郡だったとか。この人の実家から届いた小包みの差し出し人の住所に、「クマモト」が英語で書かれているのを見て、ケニア人はビックリした。スワヒリ語で、「クマモト」という発音は「あついオマンコ」の意味になるのだ。

さてラオス語にもどる。あるラオス人で日本人と結婚した人の話である。もう20年以上も前の話で、その人が日本に行った時の笑い話である。

彼女が日本に行って、テレビのコマーシャルを見ていて思わず笑い出したのが2つある。1つはコーヒーの宣伝。もう一つは丸大八ムの宣伝である。

コーヒーの話は有名で、これは他の本にも書いてあるのであまり書きたくないが、一応ここでもふれておく。タイ語でも同じだが、タイを旅行するある日本人が田舎の茶店でコーヒーを注文した時、思わず日本式の発音で「コーヒー」と言ったのでウエイトレスのお姉ちゃんにどつかれたらしい。

読者の皆様もこれは有名な話なのですでに知っていると思うが、日本式の「コーヒー」という発音は、タイ人やラオス人には

Osuと聞こえるのである。Oは「 が欲しい、したい」

Suは「オマンコ」である。したがって日本式の「コーヒー」という発音は、タイ人には「オマンコしたい」というように聞こえる。したがって、こんな卑猥なことを、いきなり茶店のお姉ちゃんにいうと当然、相手は怒るのが当たり前である。

ラオス語では「コーヒー」のことを **dtg**「カフェー」と発音する。協力隊で2年間ラオスで生活して、日本に帰った時に喫茶店に

は行ってコーヒーを注文した時の話である。ラオス時代の癖で、思わず「カフェー」と言ってしまった。そうするとこのウエイトレスは、「カレーですか？」と聞き返してきた。

やはり日本人には正しく日本語で言わないと通じない。

タイ航空のステイワーデスが、**372u** と発音していたのを覚えて

いる。また食事のメニューにもこのようにタイ語で書かれていた。

2uはfの発音で長母音である。したがって「コーフィー」という発音になる。バンコクなどの大きな喫茶店の従業員なら、日本人のこういった発音にも慣れているので問題はないだろう。しかしラオスではこういった日本式の発音をすると誤解を生じるので気をつけないといけない。その他に東京の下町は「ひ」と「し」の発音の区別がつかないという話である。江戸っ子は舌たらずで「百円」が「しゃくえん」になり「朝日新聞」が「あさし」になる。その法則でいえば、「コーヒー」の発音が「コーシー」になる。わたしも下町の人がこのように話しているのを聞いた事がある。ラオス人に日本語の「コーヒー」の事を話すと、喜んで、それなら「コーシー」はないのかと聞いてきた。まさにこの発音がラオス語ではエッチな意味になるのである。解説すると

๒๒というスペルになる。これは要するに「オマンコやらしてください」という意味になる。従ってラオス人にとって関東の人が「コーシー」と言っても、またはごく一般的に「コーヒー」と発音してもどちらもエッチな意味になるので注意することである。

ただしタイ語は「シー」はないので、ラオス語の場合である。また日本に来たラオス人の研修生に「香水」は日本語でなんというか聞かれたので、「コースイ」だと教えたら、その発音は **๒๒**(シー) に似ていると喜んで、日本語の「香水」という単語をすぐに覚えていた。ついでに、沖縄の方言で女性の「アソコ」を「ふおみー」と言うらしい。それで面白い話がある。日産の新車で「フォミー」というトラックが発売されてそれがTVの宣伝に流れた時に、沖縄では大問題になったらしい。このように楽しい話はいっぱいある。

さて次はおそらく皆さん知らないでしょう。

昔、丸大ハムのコマーシャルで「腕白でもいい、健康な子どもに育ててほしい 丸大ハム」というのがあった。問題は「ハム」の発音である。日本語の「ハム」はラオス語で「キンタマ」を意味する

se の発音に似ている。**se**の方は、発音が上昇するので

日本語の「ハム」と少し発音が違うが、カタカナのルビで書けばどちらも「ハム」になる。この「丸大ハム」を日本語とラオス語をミックスして考えると「丸くて大きなキンタマ」というように

思えてくるのは考えすぎか？このテレビの宣伝を見て、ラオス人のおばさんは思わず、笑い出したということである。

それから、マレー語で「チンチン」という発音が「指輪」という意味で、「マンコック」という発音が「コップ」という意味とか。したがって、指輪をコップの中に入れるのを「チンチン マンコック」になるとか。タイ語でも日本語の「本当」にあたるのが **9CM** チン

チン)という発音になる。このように、言葉を勉強していけば色々このような楽しい話がいっぱいあるものだ。

(281) **glsu**

これは、韓国・北朝鮮である。**.8h**(南)をつけると韓国に、

gson をつけると北朝鮮になる。ここで例の如く「**]**」の文字が抜けると意味が変わって、大変なことになる。

glsu となると「オマンコを掻く」という意味になってしまう。

gls は「掻く」という意味である。

glsu (韓国映画を見に行く)の「**]**」の文字が抜けたら

エッチな意味になる。

映画のことがでたので、もう一つ。インド映画はラオス人も大好きである。歌と踊りがでてきて、その部分はラオス語にもふきかえていない。ラオスの映画館でやる外国映画はすべて、ラオス語にふきかえるのが原則である。そのなかで

「ナヒー、ナヒー」というセリフが、ラオス人にはエッチな意味に聞こえる。これをラオス語で書くと **soksu** ということになり、非常に悪い意味になる。いわゆる「オマンコの顔」である。

これはおそらくヒンドウー語で「アイ ラブ ユー」かもしれないが、ラオス人にとっては大変な意味になるのだ。

(282) シーカン

スプーンのことを広東語で「シーカン」と発音する。これは、ラオス語の「性行為をする」の「シーカン」に発音がよく似ている。

これは、ラオスの華僑から聞いた話だが、もちろん普通のラオス人そしてベトナム人はわからないし知らない。しかし年輩の華僑はみんな知っているなので機会があれば聞いてみよう。ちなみにラオス語でスプーンは **ໂຈ**(フア)である。

(2 8 3) Thailand Beer **ສອບ**(タイのビール 1本)

飲み屋に行って、タイのビールを注文する時、酔っ払って呂律がまわらないとき、注意しないとイケない。本当は、「タイランドビア ヌウング」というところを間違えて、早口で「タイ リア ベン ヌン」と言ってしまうと大変な意味になる。

タイ = 「Thai」これは大丈夫、「タイ国」のこと。リア = 「**ງຳ**」
「舐める」という意味。ベン = 「**ເບີ**」これは、「男性のアソコ」
です。したがって「チンポを舐める」という意味になる。読者の皆様も酔っ払っていてもビールを注文する時は、きちんと発音しなければいけない。

(2 8 4) **ອາໄສ ມີ ສີ່ຫຼ່າງ** [L]

(ナー・チャオ・ミー・ニャー・ライ・ポー)

これは「あなたの田んぼ **ໂອກ** に、草 **ສີ່ຫຼ່າງ** がたくさ **ສີ່ຫຼ່າງ** 生えていますか？」という意味であるが、これをいやらしい顔のあなたが若くてかわいい女の子に言うとエッチな意味になる。「田んぼ」とは女性の「アソコ」の意味で、日本語でも「土手」という言葉がある。「草」はここでは「マン毛」になる。従って「お前の、アソコはマン毛がいっぱいか？」という意味になるのだ。したがってこのようなジョークは、相手をよく見て言わないと問題になる。しかしこのようなエッチなものは、覚えるとすぐに使いたくなるのが人間の性である。

(2 8 5) **ສູ່ມາ ດູ່ ມາ ມາ ມາ**

(ヒー・キン・グン・ユー・サイ)

ສູ່ マンコ」、**ດູ່** 「食べる」、**ມາ** 「お金」、**ມາ** 「どこですか？」
ようするに「お金を食べるマンコはどこですか？」と直訳できるのだが、これは、ラオスに来たある外国人が、オマンコがやりたくな

って、その手のおんなをさがしたところ、売春婦「**c, ɸkC**」

(メー・チャング)という単語を知らないので、いわゆるサバイバル・イングリッシュのラオス語版で、知っているラオス語を使って表現した言い方である。しかし「お金を食べるマンコ」なんて面白い言い方である。きっとこれはいくら食べても満腹にならないだろう。恐ろしいくらいの食欲であろう。

(286) **oɸg-ɸg ɸp-t**

(ナン・サオ・ムアイ・サ)

「座って、疲れをとってください」という意味だが、例によって少し発音を間違えて「**oɸl k; s, vp-t**」と言うとエッチな意味になる。これも日本語のルビであらわすと「ナン サオ モイ サ」となる。**oɸ**「座る」 **g-ɸ**「やすめる、やめる」 **lk;** 名詞で「女性・女の子」という意味だがこの場合動詞で「たぐりだす、たぐりよせる」などの意味がある。**g ɸp** と **s, vp** はすでに説明しているので、重複はさける。**-t** は「しなさい」という文の最後につけて軽い命令の気持ちを示す。これは笑い話でインド人が女の子に「あなた、疲れてるのなら、座って疲れをとってください」というのを間違えて「**gɸs, vpskp [ɸ oɸl k; s, vp-t**」(あなた、オマンコの毛がたくさんあるのなら、座ってマンコの毛をたぐりだしなさい)と言ってしまったのである。

lk; は特殊な意味もあるのでちゃんと覚えること。**lk; vs,** で「(蚕の繭から)絹糸をたぐりだす」という意味になる。この単語の意味がわからないとこのジョークはわからないいわゆるキー・ワードである。

(287) **-Egɸru -Esɸɸp**

(サム・カオ・ビー・サム・ヒー・チョイ)

-E「繰り返し、何度も、歌の歌詞のリフレイン」 **gɸ**「ご飯」

ru「太い」これは「さあ、たくさんご飯をおかわりしてください、いっぱい食べて満腹になって」ということなのだが、次にくるのが、

「何回もオマンコすると痩せますよ」という意味で、「太る」「痩せる」と逆の意味になっている。また「太る」の「ru」と「痩せる」の「9yp」で末子音がどちらも「イー」の音になっている。

(288) エッチな話

現在、セタティラート病院といわれている病院は、以前オービー病院と呼ばれていて(1975年の革命以前)アメリカの援助でフィリピン人の医者がきて仕事をしていた。

そのフィリピン人のドクターと患者さんの話

ドクター「それでは薬をあげます、朝 昼 晩 食後に4錠ずつのんでください」このようにラオス語でいいかかった。しかしラオス語の発音が悪かったので、間違えて言ってしまっただけでエッチな意味になってしまった。

8vog-Øl jho (トン・サオ・シー・コーン)

8vomPCl jho (トン・ティアング・シー・コーン)

8voc]Cl jho (トン・レーング・シー・コーン)

単語の解説

8vog-Ø 「朝」 **8vomPC** 「昼」 **8voc]C** 「夕方」

lju 4、四 **dho** 「固まり、錠」

さてこの解説でわかるように、お医者さんは「朝昼晩 薬を4錠ずつ飲みなさい」と患者さんに言ったつもりなのだが、ラオス語の声調を間違えて「**8vog-Øl hdyody1k**」と言ってしまった。

単語の解説

1k 「薬」 **lh** オマンコする SEXする」

djo 「してから」

この文を、解釈すると「朝、オマンコしてから薬を飲む」という意味になる。したがって患者さんは「**l hdyoc] hdyody1k9eddhoL**」(オマンコしてから、薬を何錠飲むのですか?)と逆にとんちんか

んな質問をした。それに対してお医者さんはまた間違えた声調で「4錠、4錠 4錠飲むんだ」というのを「**lɔjyo lɔjyo lɔjyo**」と何度も患者に言い聞かせたとか。しかし、この発音では「オマンコしてから」という意味になる。この笑い話の原因は声調の問題で、高子音+マイ・エーク「**lj**」と高子音+マイ・トー「**lh**」の声調の違いをはっきりさせないとこのような悲劇をまねく。高子音+マイ・エークは、ミドルの高さの声調になる。高子音+マイ・トーは、Low falling の声調になる。したがって、幼年時にラオス語を耳で覚えた人以外は、この違いを聞いてすぐには理解できないだろう。正しい発音は、文字が書けるようにしたほうが早いと思う。

例は、非常にエッチであるが、日本人がラオス語を勉強するに際しての問題点を楽しい例をあげて説明したつもりだ。この発音の違いを、ラオス人の先生が何回も発音しても、日本人は聞き取れない。逆に先生が、何回も生徒に発音させてできるまでやらせようとさせると生徒は苦痛になる。何回か発音を変えて言ってみてたまたまその発音が正しい場合、先生に誉められるが、いったいどれが良かったのか自分でもわからない。またネイティブの人にはこの声調の違いを理論的に説明できる人はほとんどいない。ラオス語の先生でもちゃんと教えていないようである。

声調については、ラオス語には子音には高子音、中子音、低子音の3つがあり、その子音に声調記号がついて声調が変化する。また声調記号以外に、末子音がどのような音であるとか、単母音、長母音だとかで声調が変化するので、そういった法則はちゃんと理解している日本人に教えてもらったほうがいいと思う。

ところで、うちの3歳になる娘の桜ちゃんは現在、ラオス語をかたこと喋りはじめている。親戚がラオス語の「あいうえお」にあたる **d wj 0 wj** を教えているが、子供の耳はこの2つの音をすでに区別しているのである。そして、きれいにこの2つの発音ができている。協力隊の人にも訓練所でこのラオス語の発音の基本は習ったと思うが苦労したと思う。日本人にはこの発音が難しい。母国語にない発音を大人になって勉強するのは、大変である。耳が日本語しか聞けない耳になっているからである。その意味で子供は

覚えが早いのだろう。

(289) **267; k, su sq37pgæŋ; h**

(ファング・クウアーム・ヒー・フクア・コイ・ペン・ウラー)

26「聞く」**7; k**「言葉、またはこの単語の後に形容詞をつけて名詞化する働きもある」**sq**「頭」**gæ**「になる」**s; h**「狂犬病」

ようするに(オマンコの言葉ばかり聞いていると、オチンチンの頭が狂犬病になるぞ)という意味である。「オマンコの言葉ばかり聞く」というのは、「若い女のことセックスばかりしている」という意味である。「オチンチンの頭」は「亀頭」である。日本語でも「鎌首」などという言葉がある。女遊びがすぎるとチンポの先が狂犬病みたいになりおったちが止まらなくなる。オマンコの癖がつくと止められなくなり、最後には子どもができたり性病をうつされたりして問題をおこすのでほどほどにしないとイケない。このことを戒めた言葉である。

(290) **wng nCcnf sa9dnkC0; kC**

(タイ・ムアング・テン・ヒー・チェーク・ターング・クアーグ)

wng「タイ、人」これはいわゆるタイ国の意味もあるが、この場合は「テン郡の人」といった意味になる。

g bC「郡」**cnf**「テン、シェンクアンにある郡の名前」

c9d「配る、多くの人に分配する、分類する」の意味であるがこの場合 **c9dnkC0; kC** で「水平に裂けている」という意味になる。

nkC8A は「垂直」という意味になる。

ようするに「テン郡の女のアソコは、横に裂けている」という意味になるが、むかしヨーロッパの人間が日本の女のアソコは横に裂けていると真面目に信じていたというのがこれも同じである。

小学校の時に女の子をからかって「お前のパンツ、真っ赤だろう」などという悪戯をしたことが誰でもあると思う。しかしこのようなことをラオス語で言うてはいけない

(291) **dysp6d7dyg00**

(キン・ニャン・コ・ポー・クー・キン・カオ)

gfQsp6d{7gfQsu

(ダオ・ニャン・コ・ポー・クー・ダオ・ヒー)

lsp6d{7hUq

(シー・ニャン・コ・ポー・クー・シー・コン)

これは所謂イディオムで 「A sp6d{7n」

AをするにしてもやはりBにはかなわない。やっぱりBのほうがいい。という意味になる。

まず最初の文は「なにを食べるにしても、やはりご飯を食べるのが一番うまい」という意味になる。やはりパンでは駄目。ラオス人はご飯が一番である。これは「何は無くとも桃屋のキムチ」とかいう有名なコマーシャルがあったがこれにあたると思う。

sp6d「何」 [7n 「には及ばない」 dvg0Q「ご飯を食べる」

二番目は、gfQ は「SEXの上下運動をあらわす」

gfQsu 「ヒーの上下運動ということで、マンコをすること」つまり上下運動するならやはりセックスの上下運動が一番いい」という意味になる。

三番目は「オマンコをするなら、やはり人間とオマンコするのが一番である」という意味である。

7q は「人」という意味で、やはりセックスするのなら可愛い女の子とやりたいものである。牛や犬とやる獣姦では駄目だし、自分でオチンチンを慰めてもやはりいいことはいいが、やはり本物のアナが一番いいわけだ。

これは一行目の最後の g0Q と 2行目の最初の gfQ が母音が

「アオ」共通している。2行目の su と lU イー」で母音が共通で韻を踏んでいる。また各行とも同じイディオムを使っているので音が似ているのに注意してもらいたい。エッチな表現であるがこのような文学性も兼ね備えているのである。

(292) gQsuspj (ワオ・ヒー・ニャイ)

gQ「言う」 **su**マンコ」 **.spj**「大きい」

これは「大きいマンコという」という意味である。外国人が初めてラオスに来て、「こんにちは」というのはラオス語でなんといいますか？ とラオス人に尋ねた。そのラオス人は意地悪で「**suspj**」と嘘を教えたものだから、その外人は女の子に「こんにちは」と声をかけるつもりが、女の子に向かって「大きなマンコ」と言ってしまったものだから問題になった。要するに、何も知らない人を騙す事である。

(2 9 3) **zŋgksq** (ピー・ポー・アオ・フウア)

zuおばけ」 **gk**「いる 取る」 **sq**「頭」

「おばけは頭がいない」と訳せるのだがこれも例の回転語といって、前と後ろの言葉を取り替える。そしてエッチな言葉に変わるのである。**Z** と **S** の位置を変える。そうすると **Su** と **Zq** になる。これは例の「マンコ」と「旦那さん 亭主」という意味になる。

従って、**sŋgksq** (ヒー ポー アオ フウア) となって「マンコは亭主がいない」という意味になってしまうので世の亭主は気をつけよう。別の言い方で **zŋkpsq** (ピ ー・バ ー・イ・フ) 「オバケが頭を撫でる」

という言い方もある。これも基本的には **zŋgksq** と同じである。

[kp(バ ー・イ)は「撫でる、触る」という意味である。回転させると

zq [kpsu (ア・バ ー・イ・ヒ-) 「旦那がマンコを撫でる」という意味になる。

(2 9 4) **gQ suh,** **9v, fvpdr1β**

(カオ・ミー・ヒー・ポーム) (チヨム・ドーイ・コ・ポー・ユー)

gQ [suh, **9v, cdhd1βwfh**

(カオ・ポー・ミー・ヒー・ポーム) (チヨム・ケオ・コ・ユー ・ポダイ)

gQ「御米」 **su**マンコ」 **rh,** 「そろっている」

9v, 「頂上」 **fvp**「山」 **r1β** 十分に住んでいられる」

cdh「宝石」 **1βxə**「住んでられない」

これはあるラオス人に頼まれて、ラオス語 日本語の通訳をした時の話で、タイにながく住んでいる土木屋さんとラオス政府の高官の話で「ラオスの生活はどうであるか」などの話題になった時にでたいいかたである。

要するに、食うものとマンコがあれば、山の上だってどこでも住める。其の逆に、マンコも食べるものもなければ、宝の山の上でも住んでられない。

(295) [**dyc8pU** [**±t8j**, **k**

(ポー・キン・テー・キー) (ポー・シー・テー・マー)

[dy「食べない」 **c8j**「だけは」 **OU**クソ うんち」

[±Uオマンコしない」 **s, k**「犬」

食べれないのは、ウンコだけ、セックスできないのは犬とだけ。

「料理はなんでも、食べれますよ」ということである。レストランで料理をすすめられた時、「何かお嫌いな、口に合わない食事はありますか?」と聞かれたらこのように答えてもいい。

(296) 早口言葉

g·nd7; kp.shθhp

(スアク・クウアーイ・ハイ・ポー・コイ)

g·nd「ひも、ロープ、ひもで縛る」 **7; kp**「水牛」

.sh「のために」 **rθhp**「私のお父さんのために」

(わたしのお父さんのために、水牛をひもでくくりつけておいてください)

という意味の文が、早口になると

lPd37p.shθhp という文にかわる。これはもうすでに説明した文であるので、単語の説明は省略するが「私のお父さんのために、オナニーして」という意味になる。この単語は「フランス人のいい間違い」の項をもう一度、読んでみてほしい。何回も繰り返して言っていると発音が変わってエッチな意味になるフレーズである。

つぎも早口言葉である。

gyɰsu, k. sɰɰp

(アオ・ヒン・マー・ハイ・コイ)

「これは、石を私に取ってください」という意味だが、これも早口で何回も繰り返してしゃべると、以下のようなになる。

gyɰsuk. sɰɰp

(アオ・ヒー・マー・ハイ・コイ)

「マンコを私に取ってください」という発音になってしまう。

これは「石」を表わす「ヒン」のNの音が、抜けてしまい「オマンコ」の「ヒー」に発音が変わってしまったのである。

この例は、注意しないとよく間違ふ。ある女性の専門家でラオス語がうまい人がいた。普通、専門家はラオス語が下手、あるいは勉強しようとしないので、協力隊員より下手なのだが、彼女のラオスは、

隊員レベル以上だった。その人が、早口で **SU** の発音をしたので最後の「**0**」の発音が不鮮明で、**SU**に聞こえたというラオス人が言ったことがある。このようなことは、私もしているかもしれない。他山の石としたい。

ところでラオス語では English-Lao Dictionary

Sisaveuy SOUVANNY によると **SU** と **Su**の両方とも長母音の「イ

ー」**Vu**であり単母音の「イ」**Vy**ではない。しかし星野龍夫先生のタートルの英ラオ・ラオ英辞典によると、「石」のほうは単母音の「イ」で、マンコのほうは長母音の「イー」になっている。

しかしタイ語は、「石」のほうは単母音「イ」であり、「マンコ」のほうは「イー」とこちらは長母音である。

このようにラオス語はちゃんとした正書方がなく、各自それぞれの書きかたをしているケースがよく見られる。

(297) dyɰskp [ɰu0CcIC

(キン・ラオ・ライ・ポー・ミー・ケン・ヘーング)

dyɰskp 「お酒を飲む」 skp 「たくさん」

c0CcIC「固い、丈夫な」

よくお酒を飲む時に「健康の為に、」という意味で

lđtrk[c0CcIC(スカパーブ・ケン・ヘーング)という。**lđtrk[**は「健康」である。この言葉をおちよくってお酒の乾杯の時に、上に紹介したフレーズをいうのである。

c0CcICには2つ意味があるが、ここでは「固い」という意味である。したがって「お酒をたくさん飲むと、固いところなくなる」つまり、「お酒をたくさん飲むとオチンチンがフニャフニャになるよ」とおちよくっているのである。

(298) Smokeと **lk,]f**

これは、英語で「煙草を吸う」という意味になるが、しかしエッチな意味で、ラオス語では「尺八」をする。「フェラチオ」をするという意味にもなる。「煙草を吸う」ということから「オチンチンをする」ということで「スモーク」という隠語ができたようである。「尺八・フェラチオ」は「吸う」ので、これを表わすラオス語としては **f6**(ドウド)がつかわれる。この単語の真面目な意味としてポンプで水を吸うは、**f6oE**になる。

vq(オム)は「口にふくむ」という意味である、例えば赤ちゃんがお菓子を口にふくむというような動作・行為を示す。

日本人の「フェラチオ」の定義として「吸う」というより口に「ふくむ」、または「舐める」という動作が主流を示すようだが、この国では「吸う」ことにサービスの中心がおかれているのかもしれない。**lk,]f**は **lk,**が「3」で **]f**が「味」。ようするに直訳すると「3つの味」である。

エッチなところの女の子のサービスは、この3つのサービスがワンセットで構成されている。まず最初に女の子がマッサージをお客さんにしてあげる。つぎに Smoke をして、最後に本番になるので「3つの味」が堪能できるのである。

(299) 在日ラオス人日本人妻の驚き

小池屋のポテトチップス(37p7P;)「コイ キヨウ」
ポテトチップスのメーカーは日本でも色々あるが、マラソンの瀬古選手のカルビーのポテトチップスよりも、ラオス人に人気なのは、「小池屋のポテトチップス」である。

わたしの親友でラオス人と結婚した人がいる。奥さんが日本のテレビを見て大笑いしたのが「小池屋のポテトチップス」のコマーシャルである。何故かというとなら日本語の「小池屋」という発音がラオス人が聞くとエッチな意味に聞こえるのである。

37p7P; は、37p が「オチンチン」で 7P; が「悪い」という意味である。ラオス人はテレビの宣伝の「小池屋」を聞いて「コイ キヨウ」と聞き間違えて思わず笑ってしまったのである。

37p7P; は、「悪いチンポ」。要するに、相手が女なら何でもだれでもオマンコをやりまくる男のことを言う。反対に sūP; というのは、「悪いマンコ」である。女性で男とやりまくるオマンコ、みさかひのない性欲の固まりのようなマンコを持つ女のことを言う。

(300) もしもし電話

この発音もラオス人が聞くとエッチな意味になる。電話(でんわ)は、gfA(デン) ; h(ワップ)と2つの単語に置き換えられる。(デン)は辞書で調べると「(ボールなどが)跳ね返る、弾む」という意味である。

gfAOB といえば「跳ね上がる」という意味で、動作が上に向かう。「仰向けに寝ている人の、ヒザがバネが弾むように上にあがる」このような状態を示す。

さて(ワップ)のほうだが、ラオス語の発音では末子音の「B」の発音がある。従って; hの発音をあえて日本語で書くと「ワップ」になる。この単語の意味は、「ぱっと(消える) ぴかぴかするさま ちらちらするさま」を表わしている。動作が早いことを表わす言葉である。この単語の場合は、動作の方向が下向きである。

従って、日本語で「電話」という発音は、男女の営みを表わす隠語である。

それと「もしもし」の発音も「も」がラオス語の「近いうち」を意味する「, ʈ」。 「し」が「オマンコする」という意味の「lU」に発音が似ている。従って電話で「もしもし」というと「, ʈU, ʈU」という発音になり「近いうちに、マンコする」という意味になる。大使館の受付嬢が電話にでて「もしもし、大使館です。はい電話」などというところから聞いているラオス人がおかしくて吹き出してしまおう。またラオスの子どもに日本の童謡の「もしもし亀よ、亀さんよ」という歌を教えるのも誤解を生む事につながる。

(301) **ɔne, tfk** (キン・タマダ -)

これは「普通に食べる」という意味である。

「あなた少ししか食べないのね」というのは「**gɔɔsɔhpcmh**

「たくさん食べますね」というのは「**gɔɔskpcmh**

ne, tfk は「普通」である。したがって少食でもなく、大食でもないのを **ɔne, tfk** というのだがこの発音が日本語で「キンタマだ」に似ている。これはラオス人宅に下宿してその家主さんの娘さんが日本人と結婚している、その家族が冗談で日本人に言っていたエッチな言葉である。

有名な「大使館」は、日本語の発音がラオス語でエッチな意味になるという例である。**ɔne, tfk** は逆にラオス語の発音が日本語でエッチな意味になるケースである。

そういえば思い出したが、フィリピンのタガログ語で女性のアソコを「プキ」というが、日本語で「扇風機」というとフィリピンの人はエッチな事を連想してしまう。したがってフィリピン人が「扇風機」をさして、日本語でなんというか質問したら「扇風機」と日本語でこたえないで、「ELECTRIC FAN」と教えたほうがいいのか。

(302) **7; kp** と **7; p**

7; kp は日本語で「水牛」という意味である。タイ語もラオス語と同じである。ここで発音についてだが「**k**」の発音は「ア」の

長母音なので「アー」となる。これを間違えて短く発音すると **7;p** の発音に似てくるので注意すること。（厳密にはこれだけでは違うが）、この単語はタイ語で「男性の生殖器」になる。タイ語でこの **7;p** の発音と「水牛」の **7;kp** の発音を十分に注意しないと大変なことになる。間違えないようにネイティブの人に発音をちゃんと教えてもらう事がたいせつである。この場合、恥ずかしがってはいけない。

女の子が間違えて「水牛が好きです」を「チンポが好きです」なんて発音したら売春婦に間違われる。そういえば協力隊の女性隊員でこの発音が悪くて短母音で発音していた人を覚えている。バンコクに行って恥じをかかなかったか心配である。

さてタイ語の **7;p** であるが、富田竹二郎先生のタイ日辞典には「人間および若干の動物の男性生殖器を表わす下品であるが、最も代表的な口語」という説明がでている。

ちなみにカンボジア語で「男性生殖器」のことを(クウドー)と発音する。これは日本人の姓で「工藤」と同じ発音である。昔、インドシナ難民の定住センターに務めていた時に、日本語の先生で女性の「工藤先生」という方がいた。最初、カンボジアの生徒は皆ビックリするとのこと。日本語も全然知らなくて、いきなり女の先生が「クドー、クドー」なんて言ってしまえばどんなことになるかである。それから、アンクル・トムという小説はあるがカンボジア語で、工藤トム（或いは工藤勤）という日系人がいたら大変である。トムはカンボジア語で「大きい」という意味である。アンコール・トムは「大きなお寺」である。従って、工藤トムは「大きなチンポ」になってしまう。私は日本にいるカンボジア人で、日本名が工藤という人に、冗談で「トム」とニックネームを付けているのを聞いたことがある。

ラオス語やタイ語ではどうかと思って調べたら、ラオス語の辞典には載っていなかったが富田先生のタイ日辞典には（タイ文字がわたしのコンピューターでは打てないので、ラオス文字で書くが）

ditfv という単語がありこの意味が陰茎（の呼称の一）と書いてあったのを発見した。カンボジア語のスペルはわからないがおそ

らくクメール文化と、タイ文化がこんなところで繋がっていることに気がついた。発音もタイ語の「R」が「U」に変化したのかもしれない。しかし私の辞典も、エッチだが十分読者は勉強することができる。

(303) **gl fwh8j[f[wfh** (ット・ダイ・テー・ハット・ポー・ダイ)

gl f[は「する」という意味だが「オマンコする」「仕事する」「ナニをする」など色々なことを「する」という意味に使われる。

最初の **gl fwh** は「オマンコ」はできる。 **c8j** 「しかし」

gl f[wfh は「仕事はできない」ということで「SEXは大好きだけど、仕事は何もできない」「アレしか能のない女」ということになる。

(304) **Ib8jlyd[gl f0vC** (フー・テー・キノ・カップ・ハット・コング)

Ib8j 「だけしか知らない」 **dy** 「食べる事」 **d[** 「と」

gl f[「前の項を見てください」 **0vC** 「もの、アレ」

「食べる事と性行為しか知らない」ようするに「お前飯を食うのとアレだけは一人前のくせしやがって」汚い言葉なので使わないようにして下さい。

xypfk lk[c-C (罵り言葉) である。

(305) **lPd s[** (シアック・フツ)

lPd は「むく」である。男性自身の皮をむくのを **lPd37p**

s[は逆に「被せる・被っている」という意味である。

男性自身を握って上下運動させると皮が被ったりむけたりする。これが **s[lPd s[lPd** である。また言っていることがころころ変わってわからないことをこのように言う。

g0g[sp[0hp[g0g[9s[lPd

(ヲオ・ヲオ・ニャング・コイ・ポー・カオ・チャイ・フツ・シアック)

要するに「被ったりむけたり、行ったり来たり、言う事がコロコロ変

ってよくわからない」という意味である。

(306) **sɰ, ;p[ɰkC0k sɰs, k[ɰkC37p**

(リソ・ムアイ・ポー・ラング・カー) (リソ・マー・ポー・ラング・コーイ)

sɰ「遊ぶ・エッチする」, **;p**「ボクシング」 **[ɰkC**「洗う」

s, k「犬」 **37p**「オチンチン」

これもエッチな表現である。最初のボクシングをやる前に足を洗うのは、これはエチケツトである。ラオスではお寺などのお祭りの余興で、ボクシングがおこなわれる。次の表現で「犬とエッチするならチンポを洗っておけ」というのはどぎつい表現である。

ラオス語の罵り言葉に **c, jɰlɰ, k** というのがある。要するに、「お前のかあちゃんは、犬とオマンコした」ということで「お前は犬の子である」という意味である。

この2つのフレーズを見てみると、上手く韻を踏んでいる。

sɰ が共通にあり、**, ;p** と **s, k** が両方とも「ム」の発音で共通

している。**[ɰkC** も2つのフレーズに共通である。これはタイ語でもこのようないいかたをすとか。この表現はヨンさんという現在ビエンチャンに住んでいるタイ人に教えてもらった。彼は中国系のタイ人で以前、革命前ビエンチャンの寮都学校に留学していたので、タイ語とラオス語の違いなどよく知っている。革命前はタイの華僑の子弟もこの寮都学校にかなり入学していて、20%はタイからの中国人だったとかである。ヨンさんには色々エッチな言葉を教えてもらっているので、ここに紹介しておく。

(307) Have **xɰjɰh**

xɰはタイ語で「オマンコする」の意味がある。乗る(雄の鳥、ニワトリ、家鴨などが交尾のために雌の上に乗る事、転じて俗語では人間の男の場合にも用いる。これは、タイ人の例のヨンさんに教えてもらった表現である。女の子のいるバーに飲みに行って、帰る時にこのセリフを言う。これは Happy と同じ発音になっていてシャレになる。要するに「今晚はここに来て良かった、幸せだった」という意味であるがその他に「ピーを持つ」要するに「オマンコをもつ」と直訳できるが「オマンコをする」という意味になる。要する

にホステスを誘う時にこのセリフを言うと決まってくるのである。
 「今日は、ここに飲みにきて楽しかったよ」というのと「オマンコ
 しない」という2つの意味が掛け合わされているのだろう。

しかしこの **XU** という単語はラオス語では「切符」という意味であ
 りタイ語で「切符」は **8j** になるので、この冗談はラオス人には説
 明しないとわからないかもしれない。ここらへんはラオス語とタイ
 語の違いである。

(308)]q4udəzβC8kCdəco;.fL

(ロット・ティプ・カップ・プーニグ・ターツ・カン・ネ・ダイ)

]q4u 「自転車」 dā 「と」 zβC 「女性」

8kCdə 「違っている」 co;.f 「どのように」

これは女性と自転車はどのように違っていますか、という謎謎であ
 る。

]q4u16c]hdθju c8zβC0ju]hdθβl6

16 「吸う」これは協力隊員のように自転車を愛用というか、つか
 わざるを得ない人は知っている単語であるが、自転車のタイヤに空
 気をいれるという意味である。この2つの違いは、自転車はタイヤ
 に空気をいれてから乗るが、女の場合は乗ってから空気を入れるの
 である。

(309)

[gθ[+j os6 [8d0q[wfɦk[oE [gβzqpP;/ɦ

(ボー・ワオ・ボー・ムアツ・フー) (ボー・トック・クア・ボ・ダイ・アブ・ナム)

(ボー・アオ・プア・ニアオ・フード)

これは、いわないと面白くない。橋から落ちないと水浴びがで
 きない、女の方は結婚しないとオシッコの出が悪いということで、一
 番最後がエッチな言葉でしめくっている。

[gθ 「言わない」 [+j os6 耳に聞いて面白くない」

[8d 「落ちない」 0q 「橋」 [wfɦk[oE 「水浴び出来ない」

[gβzq 「女性が結婚しない」 pPj 「オシッコ」 /ɦ 「出が悪い」

この単語はボールペンのインクなのですが悪いなどにも用いる。この場合は結婚していない女性はション便の出が悪い。ようするに結婚すればオチンチンが出入りして、つまっていたものが取れるのでオシッコの流れが良くなる、という意味である。これは美人だけどまだ結婚していない女の人にこのような言い方をする。「アイツまだ結婚していないの、ション便の出が悪いんじゃないかな」という感じである。ただし下品なので直接女の人に言うと馬鹿にされるので気をつけてもらいたい。しかしこんな面白い言い方を覚えたら言ってみたくするのが人情である。

(3 1 0) I see と You see

これは、英語の会話のなかでよく使われる表現で、I see は「わかりました」という意味であろう。You seeの方は「知ってますよね」という感じで相手に同意を求めるいいかたである。ラオス人の研修員と日本人の女性が英語でしゃべっているのを聞いた時、日本人の女性が（結構色っぽくて、美人だった）この2つのフレーズを良く使ってなんかオーバーな表現でしゃべっていた。それを聞いていて思わず笑ってしまった。

例えば、「どこから来たのですか？」 「ビエンチャン」

「ハーイ、知っていますよ」このアクション付きの言い方で

「I see」と感情豊かに言ったので、横で聞いていて思わずわらって

しまった。彼女の英語の「I see」の発音はラオス語の **vkplU** に聞こえたのである。普通に日本語的な発音で言っていれば問題はなかったのであるが 彼女の発音をラオス語で解釈すると「お兄さんはマンコする」になる。

そして 「You see」も **1βU**

とい発音に聞こえて、この場合は単語がさかさまになっているが「オマンコしている」という意味になる。

わたしは、外人が英語がわからないラオス人の女の子に「See You again」などと言っているのを聞いて「もう一度、あなたとオマンコしましょう」に聞こえてしまうのである。こう考えるのは、考え過ぎかもしれないが、私がいいたいのは英語がわからない人に英語をしゃべってもしよせん無理ということである。

その他にエッチではないが「Come here」がある。これはもちろん「こっちに來い」という意味である。この発音がラオス人にと

っては「金を落とす」という意味の **7egIP** に聞こえるようである。アメリカ人がラオス人に「こっちに來い」といったつもりが、ラオス人が「金を落としている」という風に聞こえてあわてて床をさがしたとか。

(311) **sok8kfu s0t3, p**

(ナ・ター・ディー・ヒ・ガE-I)

sok「顔」 **8k**「目」 **sok8k**「顔」 **fu**「良い」

su「マンコ」 **0t3, p**「泥棒」

ようするに、見た目はきれいな女の人でも、亭主がいない時他の男と浮気するような女の人をこのようにいう。「オマンコが泥棒」なのである。しかしこのような泥棒は、亭主のほうは大変だが、他の男性は大いに歓迎である。しかし「オマンコが泥棒」なんていうのは面白い表現ではないか。

(312)

[gəsokgəc8jɿzkd̪fu9] **[gəsgəc8pɔd̪fu9]**

(ホ・ハ・ナ・ハ・テ・SPA・コ・ディー・チャイ)

(ホ・ハ・ヒ・ハ・テ・ム・コ・ホ・チャイ)

「好きな女の子の顔を見られないなら、せめて洗濯して乾してある彼女の服をみるだけでも嬉しい。オマンコがみられなくてもオッパイが見られるのならそれだけで満足である。」

この場合、洗濯して乾してある彼女の服というのは、別にパンティーやブラジャーではなくて、普通の服のことであると思う。

gə「見る」 **sok**「顔」 **gɿzkd̪**「洋服」

oɔ「オッパイ」 **fu9**「嬉しい」 **r=9**「満足」

それから、ラオスでは洗濯した後の下着は、頭より高い場所には干してはいけないという習慣がある。昔、日本にあるインドシナ難民の定住センターで働いていた人が言っていた話である。日本は洗濯物を物干しの高い所に吊るして、乾かす。その下をセンターの所長が通って、頭に洗濯物が触れたらしい。それを見ていて、ラオス人やカンボジア人がビックリしたらしい。頭は神聖なる場所なので、洗濯した下着などの下を通ってはいけないらしい。

(3 1 3) **sqse sqc8f**

(ホッド・ラム) (ホッド・テト)

sq「縮む」 **se**「金玉」 **c8f**「小陰唇」

これはエゲツナイ言い方であり、淑女の前では言ってはいけないのであるが、面白いので書いてしまう。ビックリした時に男性なら、「金玉が縮む」と言う。高校野球などでピンチになった時に、ナインがマウンドに集まって、ピッチャーを激励しているシーンを良くテレビで見る。この時、ピッチャーの金玉は縮んでいるので、落ち着かせるために、キャッチャーが金玉を握っている。などということは何かで読んだ事がある。さて女性の場合は小陰唇が縮むかどうかかわからないが、ラオス人がこのように教えてくれた。タイ語で非常にビックリすることを「ヒー・トック」いわゆる **s8d**「マンコが落ちる」というのは有名であり、ほかの本にも載っていると思う。男性の場合は何が落ちるのか、どのように言うのか私は知らない。

(3 1 4) **leg ʃ7; k . 7j ʃ**

(サムレッド・クワムカイ・ポー)

「射精し終わった？」SEXがもう終わったという意味である。

7; k . 7j「性欲をみたしたい」 **leg ʃ**「終わる」という意味である。オマンコが終わった後、ベットの上で女の人が男にこのように訊ねるのである。まあ「よかった？」と女が聞いているといった感じである。

(3 1 5) **clClʃu** (セツ・スリ-)

clC は「光・光線」という意味である。**lʃy**は「太陽」なのでこの単語の意味は「太陽の光」という意味でラオス人・タイ人の名前にある。しかし「スリー」の発音を濁音に読むと「セズリ」要するに「男性のオナニー」という日本語の発音になってしまう。したがって、ラオス人の **clClʃy**さんが日本に来て自分の名前をちゃんと発音できなくて「私の名前はセズリです。」なんて言うと大きな誤解になる。日本人にこの人はよっぽどオナニーが大好きなんだと誤解されるかもしれない。そうなると日本・ラオスの友好にひびがはいるかもしれない。従って、日本語

教師もこのようなことをよく理解して日本語を教えないといけない。

というわけで読者の皆様は、すでにこの2つのラオス語の単語を楽しく覚えたわけである。このように楽しい例文でラオス語を覚えると、ラオス語の勉強も楽しくなる。以下 **clC** を使った単語を紹介する。

lɿCclC「光る・輝く」 **clC9ə**「月の光」

clCgno「月光」

(316) **Ohpdɛg9lɔj pgsɿg-ɸdæc]tdə**

(コイ・カップ・チャオ・スアイ・ルア・スーグ・カン・レ・カン)

Ohpdɛg9lɔ「私とあなた」 **-j pgsɿg**「援助する」

g-ɸ「オマンコする」 **g-ɸdæ**「オマンコする」

g-ɸdæc]tdə「お互いに」

これは大傑作な笑い話で、私の大失敗である。しかしこんな失敗から面白くてエッチな単語が覚えられるのだ。私が水道局で地質屋として働いていた時、ラオスのボーリング屋の現場監督に「お互いに助け合って、いきましよう」といったつもりが私の発音が悪くて、エッチな意味になった。私の間違えて言ったラオス語だと、「お互いに助け合ってオマンコしましよう」という意味になる。この私の申し出に彼はきっぱりと「嫌だ」といった。

私はこの時、自分のラオス語の誤りに気がつかなくて、どうして協力してくれないのか、怒って彼に問いただしたのだ。そして私の発音の誤りを指摘してくれたしだいである。

g-ɸdæ「お互いに」と **g-ɸdæ**「オマンコする」の2つの単語を間違えて発音したのであった。これ以来、私は「お互いに」という意味のラオス語は、発音間違いを避けるために以下の

OvCdæc]tdə(コグ・カン・レ・カン)を使っている。

ところで話は変わるが、日本人の女のこがアメリカに行って、ボーイフレンドができたので、彼と付き合ってもらおう、交際してもらおうと思って英語で、I WANT to have intercourse with

you と言ってしまい、向うのアメリカ人はビックリしてしまったとか。この intercourse は辞書では「交際する」とかの意味が載っているがこのような言い方だと「性交する」という意味になってしまう。「交際」は「性交」の始まりかもしれないが、いきなり「おまんこ」してください。なんて言われたら、そのアメリカ人もビックリしたであろう。

話は変わるが、ラオスでは、地名など縮めて言うことがある。

例えば;**PC9a**(ビエンチャン)を;**PC**(ビエン)と言ったり **xkdg**(パクセ)を **g**(セー)と言ったりである。

日本でも若者は、言葉を縮めて話すことがよくある。例えば、横浜のことを「ハマ」とか、高田馬場を「ババ」とかである。関西の喫茶店では、アイスコーヒーを「レイコー」というらしい。

「レイ」の発音は漢字の「冷」だろうか。アイス・ミルク・ティーのことを「アイミティー」なんて気取って言うのもいる。

クリームソーダのことは短く呼んで、「クリソ」というらしい。私はこの前久しぶりに日本に帰って、喫茶店でクリームソーダを注文した時、「クリソ」というのを間違えて「クソ」と言ってしまった。注文をとった女の子は「わかりました」といってしばらくして持ってきたのが「カレーライス」だった。

(317) **rɤvd**(ホー・オーグ) **c**, **jvd**(メー・オーグ)

わたし達、出家していない人に対して、おぼうさんが使う言い方で、おぼうさんは男性に対して **rɤvd** といい、女性に対しては **c**, **jvd** という。これはおぼうさんから言う言葉で、我々は自分のことを **rɤvd** あるいは **c**, **jvd** とは言わない。

(318) **9tcvJ**(チャ・I-)

これは赤ん坊をあやす時の「いないないばー」にあたる言葉である。ラオス人はだいたい赤ん坊、子供をよく可愛がる。私の妻の実家の食堂もお客さんが赤ちゃんを連れて食事に来ても、たいい食事をしている間は、義理の妹たちがお客さんの赤ちゃんをだっこしてあげて子供のお守りをしてあげている。従って子供連れで食堂にはいっても日本のように他のお客さんに迷惑だとかそ

ういったことにはならない。このような点は、ラオス人の良い点であると思う。

平均的にラオス人は子供が好きなので、子供を連れて行っても大丈夫である。

(3 1 9) **1kfoE**(ヤト・ナム)

お寺に托鉢に行く時、必ずM 1 5 0 の瓶に水を入れて持って行く。托鉢が終わると、お寺の中にだいたい大きな木が生えているので、そこに行って木に水をかけながら、祖先に対して托鉢したことを伝える。この時にどういうわけかM 1 5 0 の瓶になる。これは所謂リポビタミンDみたいなもので、栄養ドリンク剤である。手ごろな大きさと蓋ができるので、こういった時には便利である。

(3 2 0) [**ɬhC**][**ʂhC**.sɔko] [**j**]ko [**ʂhC**-j p]

(ホー・ホング・ホー・トグ・ハイ・カン)(ホー・ワン・ホー・トグ・スアイ)

[**ɬhC**「呼ばない」] [**ʂhC**「必要ない」] **Oko**「答える」

[**j**]ko「呼ぶ」 -j p「助ける、手伝う」

「呼ばれないと、返事しなくてもいい」「呼ばれないと、手伝う必要はない」

(3 2 1) **znɔg nC**(ピー・ラック・ムアング)

女性が犠牲になって死んで村が生れ国ができる。その女性の魂をこのようにいう。「都市の魂」と訳すべきか。ビエンチャンにもセタティラート王が1564年に、ランサン王国をビエンチャンに遷都してきた時に、都市の基礎を作るために身重の女性で、

luシー) という女性が人柱になって生き埋めになって犠牲になった。それにより彼女の名前をとって;**ɬɪg nC**(ワット・シー・ムアング)

「シー婦人町の寺」という寺ができた。彼女はそれによって

pjɛ, jg nC(ニャー・メー・シー・ムアング) と呼ばれている。11月の

タット・ルアング祭りの前日に、このお寺で儀式が先ず行われる。難民として第3国に定住した人達も、ラオスに帰国してきと時にはこの寺にお参りして、願をかける。

zu「魂、おばけ」 sa「基礎」 g nC「町」
 (322) fe78bkCwIj 8w2.s, h
 (ダム・クート・カンク・ハイ トーファイマイ)
 fe「黒い」 7n「 のよう」 8=株」 dkC「真ん中」
 wIj「焼き畑」 w2.s, h「火事」

色の黒いことを示す言い方。焼き畑をするために火を付ける、その後、木の株が黒く燃え残っている。これが真黒になっている。色の黒い状態をこれになぞらえている。また火事後の株も焼き畑と同じように黒い。

ほかの言い方では、fe8hgxfa(ダム・タップ・ペット)「家鴨の肝のよ
 うに黒くてうまい」または、「色の黒い女性と寝れば性交による幸
 福が特に多く得られるという俗信、黒女の深情け、醜女の深情け」
 という解釈もある。 8h「肝臓」 gxf「家鴨」

しかし(ダム・タップ・ペット)の方が、少し黒いが少し赤味が残っ
 ているので、fe78bkCwIjの方が黒いということである。しか
 しこのように言うと女性は怒るので女性を口説く時は、

g9Ck, 7gm tfk(チャオ・ガム・クート・テワダ-)「女神みたいにきれい
 だ」といって女の子を誉めること。 g9 あなた」 Ck, 「きれい」
 gm tfk「天の神様、女神」

(323) vflk(イト・サー)「うらやましい」

「いい人と結婚して、よかったですね、本当にうらやましい」この
 日本語をラオス語に翻訳する場合、

vflkが「うらやましい」と辞書に載っているので

Ohpvf1kg9k と言ってしまいがちだが、これはいけない。

vflkは「羨ましい」という意味がありこれは、「こいつめ、良い
 男をひっかけて悔しい、なんでお前が結婚できて、こんな良い女の
 私がまだなの」という感じになる。本当に祝福するのなら

r6.9o (フー・ム・チャイ・ノ) **fu9oe** (デー・チャイ・ナム) というべきである。この間違いはラオス語が上手な人でも間違えやすいので、気を付けて下さい。

(3 2 4)

g ooemə (ウエー・ン・ナム・タム) **deltsovCde** (カム・サー・ソグ・カム)

g o 「罪業、復讐、加害、自己の行為の報い、または運命による苦しみを表わす語」 **oemə** 「追いつく」ということで、例えばある人が非常に悪いことをしているとしましょう。そうするといつかは罰が当たってひどい目に会う。「悪い報いが追いつく」という意味で、悪いことをしていれば、いつか悪い運命が追いついて来る、という意味である。2番目の **de** は **g o** と合わせて **g ode** と言います。これも **ltsovC** 「報いる」という意味なので、悪い事をしていて後で罰が当たるということである。

革命前の昔のナツメロに **wfelerə** (タイ・ム・ラム・パン) という古い歌がある。歌手はもう亡くなったが、コー・ウイセードという男性の歌手でビエンチャンのシーカイ出身である。

wfe は「黒タイ族」 **lerə** 「嘆き、悲しみ」ということで戦争により、避難民になった黒タイ族の嘆きを歌った歌謡曲である。この歌はインドシナのラオス難民として、外国に行った人の間で好まれる歌である。彼らのパーティーに行くとこの曲がかかっているということを知ったことがある。

この歌のセリフの部分に、 **g odepəvCotokpo=** (ウエー・ン・カム・ニャグ・ソグ・カイ・ノ) 「これが俺の運命なのだなー」という嘆きをつぶやくセリフのところ、この単語の **g ode** である。カセット・テープでも発売されているので興味のある方はお買い求めになってください。

(3 2 5) **oEObxkdy, q̣ oE]q̣, q̣dyxk**

(ナム・クン・パ - キン・モット) (ナム・ロット・モット・キン・パ -)

oEOb 「水が上がる」 **oE]q̣** 「水が下がる」 **xk** 「魚」

dy「食べる」, f「蟻」

これは、雨が降って水位が上がれば、魚が蟻を食べる。逆に乾季になって水位が下がれば、乾上がった魚が蟻に食べられる。人の世も同じである。現在、偉そうにしているもその地位がいつひっくり返るかもしれない。立場が逆になった時の事を考えて、あまり偉そうに威張ってはいは駄目である。

さてここで蟻の話である。ラオスに長く住んでいると、蟻には悩ませる。洗濯物などちゃんと濯ぎをしていないと、汗や色々な臭いが残っていて、それにつられて蟻がその洋服にひそんでいて、あわてて洋服を着ると、後で蟻に噛まれて痛い思いをする。Tシャツなどは穴があくほど蟻にやられることもある。したがって洋服を着る前に、よくはたいて蟻を落としてからでないと、服を着ない習慣を付けるようにしないとイケない。

アフリカなどでは、洗濯物を干しておく、蠅がたかってその洗濯物に卵をうえつけるとか、間違えてその服を着るとその幼虫が体の中に入って悪い病気を引き起こすという。従ってアイロンを掛けて卵を殺すのが一つの予防法である。タイ人はアイロンが大好きで、よくアイロンのされた服を着ている。ラオスもこの辺はよく似ているようであるが、アイロンをかけると蟻は死ぬと思うので、おしゃれと実用の意味でも、アイロンをかけた方がいいだろう。

(326) gQs, jk, a gQ[6xkcf d

(カ・マイ・パ・マン) (カ・ブ・ド・パ・デーク)

gQ「米」, s, j「新しい」, xk「魚」, a「油」

[6「腐った」, xkcf d「パーデーク」

最初の gQs, j は「新米」で xk, a は「油ののった魚」ということで、どちらも美味しい。したがってこれは「新婚ほやほや」ということである。逆に古女房になると、gQ[6「お米が腐る」, xkcf d「魚が臭ってパデークになる」という言い方をします。

(327)

8klvC-A (タ・ソング・サン)

8k-AfP; (タ・サン・ディオ)

8k「目」 lvC「ふたつ」 -A「層、階」 fP;「一つ」

これはそれぞれ「二重瞼」と「一重瞼」という意味である。
中国人、日本人は「一重瞼」が多くて、ラオス人は「二重瞼」が多いと言われている。

(328) 2kodɔs, kd0k, xh, (ファーン・キン・マクカーム・ホーム)

0Uvvd1k, , N_日 (ホー・オーグ・サム・ム)

dt8kp8kp (カター・ターイ)

2ko「鹿」 dy「食べる」 s, kd0k, 「タマリンド」普通は細長く鞘エンドウみたいな形をしている。この場合は、丸いタマリンドである。普通とは違うタマリンドを食べた。

xh, 「丸い、円い」 0U「ウンコ、糞」 [vvd「出ない」

1k, 「3」 , N_日 dt8kp「ウサギ」 8kp「死ぬ」

鹿が丸いタマリンドをを食べた、そのため糞が3日出なくなってしまった。それでウサギが死んでしまった。直訳するとこういった意味であるが、これは要するに、偉い人が何か失敗して仕事が上手くいかなくても困るのは偉い人ではなくてその部下である。だから死ぬのは鹿ではなくて、ウサギにしわ寄せがくるのである。

(329) 7q]hdyox680w h 7q]hs6wgrfIj

(コン・ルン・コン・プーク・トマイ) (コン・ルン・ラング・ダイ・プング・ム)

7q「人」]h「世代」 dyo「以前」 s6「後」

x6「植える」 80w h「木」 wfh「得る」

grf「避難する、雨宿りする」 Ij「日陰」

先人が木を植えて、そのお陰で後の人が木陰で涼むことができる。これは説明不要である。

(330) -kfgln8hCw]kp -kf-kp8hCw -jn

(サド・スパ・トグ・ワイ・ライ) (サド・サーイ・トグ・ワイ・スー)

-kf「血筋、生れ」 gln「虎」 8hC「しないといけない」

w「置く、残す」]kp「縞、ストライプ」 -kp「男」

-ji 名前」

「虎は死して皮を残す、人は死んで名を残す」ということでこれも解説の必要はないでしょう。これだけでは、面白くないので補足説明を加えます。

læ-kf (ササト)「国籍」と **g-N-kf** (アサト)「民族の血統」は違います。中国系ラオス人といった場合は

g-N-kf9a (アサト・フ) **læ-kf]k;** (ササト・ラオ) と言います。

この **g-N-kf** は、たとえ中国人が帰化してラオス人になったとしても、パスポートや身分証明書には「民族の血統」の欄で中国人と記載されています。またラオスの出入国のカードにも、この **g-NOKf** を書く欄があります。私の娘の場合は **g-N-kf** が日本、中国、ベトナムというぐあいになり、**læ-kf**「国籍」が日本というわけです。

日本人はこの、**læ-kf** と **g-N-kf** の意味がよくわかっていない人が多いようで、日本人は単一民族であるなどと間違えたことを言う人がいますが、日本にはアイヌ民族、中国、韓国、朝鮮系の日本人はいるし、またこのごろは、フィリピン人やタイ人と結婚する人など、国際結婚が増えているので、日本は決して単一民族ではない。そして私自身、このように国際結婚が増える事は、世界の平和のためにもいい事であると思っている。

(331) **8ksəwf** (ター・ラック・ダイ) **8k. [h]p** (ター・バイ・シア)
(目先がきく頭のいい人は儲けるが、目先がきかない者は損してしまう。)

・ **[h]** はタイ語で「唾」になる。要するに「しゃべれない人」である。しかしこれに当たるラオス語は **xkddh** (パーク・クック) になる。従ってタイ語で **7q. [h]** は「唾」であるが、ラオス語で **7q. [h]** は **7q3Cj** (ゴ・ゴ-) 「馬鹿」になる。

また **sə** も2つの意味になる、一つは **0sə** (キー・ラック) 「泥棒」

であり、もう一つは **səcs[^]** (ラック・レム) = **ltskf** (サラド) でこれは「頭がいい」という意味である。

lβ; ə (スークツ) の時に

7qsəc | p, k. sh (ツ・ラック・レン・マー・ハイ)

7q. [h] p, kxə (コン・バイ・レン・マー・パン) と祝詞を唱えるこれは、

7qsə 「頭のいい人」も **7q. [h]** 「頭の悪い人」も要するに皆様集まって (スークツ) をやってください。という意味である。阿波踊りの「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らな損損」ののりである。

c | p 「走る」, **k** 「来る」, **.sh** 「あげる」, **xə** 「分ける」

(332) **7; k, ləg fə sk [vf]** (クアム・ハック・ハット・ハイター・ボード)

7; k, lə 「愛情、愛」, **A g fə sh**、**C** 「Aは、BをCにする」

8k 「目」, **[vf]** 「見えない」

「痘痕も笑窪」「恋は盲目」という事で、今更説明は不要です。

(333) ニー・ハオ・マー

これは、中国語で「今日は」である。(ニー)は上声、(ハオ)はも上声で、(マー)は轻声である。これを間違えて、**sogʂs, k** というように発音すると、華僑が聞くと、変な意味になる。

sou (ニー) 「逃げる」, **gʂ** (ハオ) 「犬が吠える」であり、

s, k (マー) は「犬」なので、文法はいいかげんであるが、

「犬が吠えて逃げる」という意味になる。また **gʂ** もカタカナで書くと(ハオ)であるが、これは Rising tone であり、ラオス語では

「虱」という意味になる。**skgʂ lʂq** (ハ・ハオ・サイ・ア) という諺がある。

sk 「捜す」, **gʂ** 「虱」, **.lʂ** 「入れる」, **sq** 「頭」

ということで、「わざわざ虱を捜してきて頭の中に入れる」ということで、余計なお節介をして迷惑をかける。例えば、頼まれてもい

ないのに男を紹介して結婚したが、男の浮気が原因で離婚した場合。この諺を使う。

(334) **vklkts, d**(アーサーサマック)

これは英語に直訳すると「Volunteer」にあたるのだが、「アーサーサマック」というラオス語と英語の「Volunteer」とでは意味がずれてくる。まずタイ語で「アーサーサマック」というと志願兵だと思われる。わたしは「アーサーサマック」だということ「お前は兵隊か」と勘違いされる。タイは徴兵制があるので、特に田舎に行くとこの単語は「兵隊」と同じ意味になるとか。また西欧のボランティアで徴兵のかわりに外国でボランティアをすればそれが免除される特権がある国があるとか。そういった意味で彼らも誤解するのだろう。

さてラオスで「アーサーサマック」というと病院・医療関係の世界でこの単語は、村の診療所の掃除をやりにくるおばさんとか、病院の研修生。村の薬を管理している人、その外にも村で掘った井戸のポンプの保守・管理する人とかをさしている。

従って、協力隊の人が自分のことを「アーサーサマック」と名乗るのは、なにも知らない人からすれば低い評価しか与えないだろう。実際に隊員の実力を「アーサーサマック」という言葉で表わしたら彼らがかawaiiそうである。もちろんずっと隊員と働いた事のあるラオス人は、彼らの実力がわかるのだが、これでは過小評価になる。

わたしも隊員時代にこのことを同じ隊員同志で話し合ったことがあった。しかしいい単語が思いつかなかった。たしかに専門家ではない。専門家「**-p; -ko**」(シサ-ン)とは違う。ここらへんもラオス人はわかっていて協力隊員のことを可哀相に思って「小さい専門家」**-p; -koohp**(シサ-ン・ノイ)と言ってくれる心やさしい人もいた。しかし「シサ-ン・ノイ」という言葉も「ミア・ノイ」(お妾さん)の「ノイ」と同じであまりいい感じがしなかった。

以前、わたしの同期の隊員で下宿先の娘に自分の身分証明書をみせたら、そこに身分立場として彼の配属先が「シサ-ン」と書いてくれていた。それを見た彼女に「お前、自動車に乗らないでどこがシサ-ンなのだ」と言われたらしい。彼は自動車整備であったので、よけい車にも乗れない自分の立場がつかったようだ。

ラオス人は肩書き・持ち物で人を判断するので、協力隊員が「わ

たしはシカーンです」といっても、この人は自家用車もないのにどうしてシカーンなのかと思うものである。辞書には載っていないけれどシカーンとはラオス語で外国人で自家用の車を持っている人のことである。

ところで私の現在の身分は国連ボランティアなのだが、身分証明書にはVolunteerという言葉ではなくてSpecialistと書かれている。これをみて、なるほどと思った。国連のほうでも英語では、United Nations Volunteer（国連ボランティア）なのだがなるほど、彼らもそのことを考えてくれてステイタスは、ボランティアではなくてSpecialistだと言ってるのであろうか。この違いは、国連ボランティアの場合、無条件でバイクを貸してくれる。JOCVは無条件には駄目でたいていの場合自転車。

したがって乗っているもので名称が違ってくるのではないか

JOCV 自転車 Volunteer
UNV バイク Specialist
専門家 自動車 Expert

という辞典には載っていない言葉の定義がでてくる。

このような社会的認識のもとにJOCVの隊員の呼称をどのように言えばいいのか。わたしは今回タケクで、JICAプライマリーヘルスケアのプロジェクトの応援で、タケクの井戸掘りチームの連中に電気探査・地質調査の技術を教えた。期間は約一ヶ月で、セミナー形式で、現場で彼らと一緒にやった。

彼らは、私の事を **vk9ko**「アーチャン」と呼んだ。これはラオス語で「先生」という意味である。いつもは私の事を「アキオ」と呼び捨てにしている私のカウンター・パートも、他の連中がみんな「アーチャン」というのであわてて呼び方を変えているのには正直いっておもしろかった。

また学校の隊員は先生同士で「アーチャン」と呼び合っているのので協力隊員も「アーチャン順子」とか「アーチャン高野」とか言われているようだ。

というので実際に教室で教えない人でも、なんらかの形で技術を伝えるのでやはり技術を教える人である。したがって先生である。だから「アーチャン」と名乗っても嘘ではない。それによって、ラオス人の対応も違ってくるので仕事もすすみやすいだろう。

外国で仕事をするのには、自分の地位・身分を早くつくるのが

大切なことである。自己紹介するにはこのように名乗ってもいいと思う。

人を肩書きだけで判断してはいけない。「アーサーサマック」でも実力的には専門家レベルの人もあるし、専門家なのに何も知らない人がいるのはどこの国でも同じであろう。しかし呼び方一つで仕事がうまくいくなら「アーチアン」というのもいいのではないか。

それから1999年の4月から、ラオスにもJICAのシニア・ボランティアが派遣された、これはラオス語で **vklkt, dvkv3l**

といい英語ではINSTRUCTORになるとか。

(335) タイのディスカウント

先日、ノンカイの病院に妻を連れていった時の事である。ついでにサンデー・マーケットに寄ってぶらぶらしていた。タイも日本のように価格表示をするようになった。各商品に値札がついているのだが、ディスカウントの値段がおもしろい。日本では末広がりでこういうのは「8」が好まれる。1680円とか780円とかになる。これも数字からうけるフィーリングであろう。1650円のほうが1680円より安いのに、どういうわけか1680円の方が値段が安いような気がする。

タイの場合79パーツ、59パーツなど「9」が好まれるようである。これはタイ語の「カオナー」ラオス語もスペルが違うが **glk sok**「発展する・進歩する」という単語があり、この **glk** が「9」と同じスペルである。タイ語の場合 **dk; sok** になるが、とにかく日本では発音から「苦」を連想する「9」がタイ・ラオスではラッキー・ナンバーになるのだ。したがって商品の値段も「9」をつけるのであろう。

ラオスでもバーゲンとかディスカウントなど朝市の二階の洋服屋で見られるようになったが、これからどうなるのだろうかたのしみである。

それと今年(1995年)大ヒットしたタイの歌謡曲で、**d5k[cfC**「赤いバラ」というのがあったが歌詞のなかに

「9999本の赤いバラを、あなたにあげる」という部分がある。やはりこれからも「9」がラオス・タイではラッキー・ナンバーだとわかる。この歌はビエンチャンのディスコでもよくチークでかか

っていた。

(3 3 6) 我が家の犬

犬について、3月の発情期に我が家のオス犬ベックは、実の母のラッキーに襲いかかって母親を妊娠させた。そして近所のオス犬が母親に襲い掛からないように吠えて追い散らし、自分だけが母とやってしまったのである。ラッキーは現在お腹が大きくなっているが、これはベックの子どもだと家族はみんな、見ている。犬は近親相姦の世界である。したがってラオスの犬は畜生であり、野生の姿、本能丸出しで首輪で繋がれた日本の犬とは違う。

したがって人間の倫理からいわせると自分のお母さんとやって子供を生ませるなんて、道徳にはんする。したがってラオス語でもこのように悪い事・相手を罵る事は「犬」という単語がよく使われる。犬につける名前と人間につける名前は全然別の名前にしないとこれは失礼で侮辱でもある。日本人は犬に「太郎」とか「花子」とか人間と同じ名前をつけるがラオス人は絶対そんなことはしない。我が家の犬のベックも英語の「ブラック」からとったもので、人の名前ではない。以前、双子の犬が生まれた時に名前をつけるのに、可愛いほうが「サオリ」でお茶目なほうが「ヒロミ」にしよう実物の日本人の名前を拝借しよう家族に提案したら、女房に「そんな失礼なことをするな」と怒られて否決された。

ところで、犬の場合は、一度に4 5頭生まれてくるが人間の場合はすべて父親は同じであるが、犬の場合はすべて違う。毛の黒い犬だったり、茶色だったり、従って生まれてきた小犬は異父兄弟ということになる。

我が家の雌犬ラッキーも、犬の発情期に雌犬に取り囲まれているが、不格好な雄イヌの種をもらって、変な子供が生まれてはいけないと、不格好の雄イヌが来ると、家族で追い払っている。しかし実際に小犬が生まれてみると、へんな小犬が出てくるのである。

ちなみに動物の性行為は **gū**(スグ) という単語がある。

(3 3 7) 整形

これはある人から聞いた話なのだが、バンコクのお風呂屋さんで働いている女の子は、ほとんど鼻を整形しているとか。ラオス人東北タイ人は、日本人が昔、大根脚を気にして脚が太いのがコンプレックスだったように、彼らも鼻がぺちやんこで鼻の穴が上を向いているのがコンプレックスなようだ。従って、入店したての娘だとま

だ鼻を手術していないので新入りだとわかる。水商売が長くなった娘は整形して鼻を変えるので見分けがつく。馴染みになっていた娘がしばらく会わないうちに整形して顔が全然違ってしまう場合もある。

ある人が言うのには、整形していない娘はまだこの商売にはいつても日も浅いので素人に近いし、病気の心配もそんなにないのでいいという。タイの歌謡曲で

Ohp **gə**]k; [**+** **fə** (コイ・ペン・ラオ・ホー・ミー・ダソグ) というのがあった。「俺は、ラオス人。鼻がない」というタイトルの歌である。

Ohp 「私」 **gə** 「である」]k; 「ラオス」

[**+** **u** 「 がない」 **fə** 「鼻」

(3 3 8) **ltf** (サドク)

「へそ」 私の娘「桜」が今年(1995年7月22日)にノンカーイの病院で生まれた。しばらくして7月22日に「へその緒」が取れた。ラオスの言い伝えだと、これをちゃんととっておいてしまっていると、たとえ本人が外国に行っても「へその緒」がラオスにあれば必ずいつかはラオスに帰ってくるということらしい。女房に「お前さんののはちゃんととってあるか」きいてみたところ、保管が悪かったので猫に食べられてなくなってしまったとのこと。

(3 3 9) 男の子・女の子

子供が生まれたあと、私の場合は女の子だったので、ラオス人は「女の子でよかった」といってくれた。女の子だったら7才くらいになると、親の命令で家の仕事の手伝いはなんでもできるようになる。これが男だと遊びにいたり悪戯したりで何もしないから、手がかかって困る。一般的にラオス人の女の子はよく家の手伝いをする。しかし男の子は何もしない。だから女の子でよかったわけだ。

しかし中国人になると家系を継ぐために、男の子が生まれないと困るわけだ。そうでないと家が途絶える。ラオスは女性が働いて支えている社会であろう。わたしもそう言われて納得した。

(3 4 0) **c8** **fvC** **dyfvC**

(テグド -ソグ キト -ソグ)

この言葉は「結婚式」なのだが、これは純粋なラオス語である。

どうして結婚式のことを **c8ɕf** あるいは **ɔɸfvC** というか、
 ラオスの民俗学者、ラオスの柳田邦男といわれた、**tsklɯk; ɕ**
 (マハーシラーヴィラヴォン) の説によると
fvC というのは **sqzɔɸfvC** や **fvClQzɔ** などがあり要するに
 「漬物」である。漬物というのは漬けてねかしてをいてちょうど食
 べごろになると取り出してそのまま食べたり、料理して食べる。
 したがって結婚というのでも2人の若い男女の愛を長く漬けておきち
 ょうどいい時期になると、ラオスの伝統と習慣にしたがって結婚式
 をあげる。したがって

ɔɸfvC (直訳すると漬物を食べる) という単語は意味・由来があ
 るのだ。また **c8ɕfvC** は、「テンドン」と日本語のルビがつけら
 れる。これはちょうど「天井」と同じ発音である。「テンドン」と
 いう発音を聞いて、「私、食べたいですわ」といった隊員がいた。
 彼はこの連想でこの単語を覚えた。

c8ɕCko はこれはタイ語である。しかしこのごろ若い世代の
 人はタイ語を使う人が多くなってきている。

マハーシラーヴィラヴォンは「ラーオ族王朝史」という著作があ
 る。これの日本語版も外務省平田豊公使の翻訳がある。平田さんは
 日本人のなかで一番ラオス語が上手だといわれているかたである。

この他に、**vɸfvC**(ウツド-ソグ) というのがある。**vɸ** は「温か
 い」という意味であるが、これは結婚式の前日の夜に行われる前祝
 いのパーティーである。これは親戚、親しい友人が出る。新郎・新
 婦は疲れて大変なので、夜あまり遅くなるまでいなくて10時ごろに
 は帰るのが礼儀である。また冗談で結婚はいつですか?などと聞く
 と

, **u8ɕ, kd0k, fvC**(ミ-テ-マ-クカム-ド-ソグ) という冗談があ
 る。 , **u8j** 「 だけ」 **s, kd0k**, 「タマリンド」

fvC「漬物」「タマリンドの漬物だけ」という洒落た答えである。
 この場合も「漬物」と「結婚」の2つの意味がある **fvC** を掛け合

わせている。

(341) フランスア

フランスの大統領でミッテランというのがいたと思うが、彼の名前がフランスアであったと思う。これと同じ名前のフランス人がUNICEFで働いている。彼がディスコに行って女の子を口説いている時に「僕の名前はフランスア」要するに、

France + **ᵗ** (スア) 「悪い」ということで「フランスは悪い」といのが僕の名前だと冗談で言っているのだ。これもジョークの一つである。フランスア氏、奥さんがラオス人でラオス語も上手である。フランスアという名前はフランス人に多いようである。

(342) .ᵗᵗᵗ (サイ トグ)

これは、袋にいれるという意味である。例えばコーラやペプシを店で注文して、いわゆるテイク・アウトする時、ビニールの袋に氷をいれてくれる。それをストローをさしてチュウチュウ吸いながら飲むのである。

うちの義理妹の亮(ニアソ)ちゃんは、お客さんが「TigerBeer. ᵗᵗᵗ」と言ったので缶ビールの蓋を抜いてビニール袋にビールを注いでお客さんに出してしまったとか。普通、生ビールはビニールの袋に入れてお客さんに売のだが、この場合は缶ビールをそのままビニールの袋にいれてテイク・アウトしたかったのである。これは家族の中で大笑いになった。

(343) 9ᵗᵗᵗ, kpoe3-d (チョット・マイ・ナム・ソク)

9ᵗᵗᵗ, kp 「手紙」 oe 「伴う」 3-d 「幸福・幸運」

これはいわゆる日本でいう「不幸の手紙」で、昔こんなこと日本でもはやったなーと昔懐かしい。先日ラオスの新聞に出ていた。要するに差出人不明の手紙がきて、友人7-8人にこれと同じ手紙を書きなさい、もし書かないと不幸が訪れる。もしそのとうりにすると宝くじに当たったりいいことがある。これはアメリカがその始めらしい。さすがにラオスの新聞もこんな馬鹿なことやめなさいと書いてあった。

(344) 7ᵗᵗᵗ (カ-・ホ-)

産まれた子供がお父さんに似ていれば、それは奥さんがだんなさ

んのことをそれだけたくさん愛しているという証拠である。逆に子供がお母さん似なら旦那さんのほうが奥さんをそれだけ愛していることである。このようにラオス人はいう。

また赤ちゃんが親指をしゃぶるのは、赤ちゃんがお父さんのことが好きという事。人差し指をなめるのはお母さんが好きだとか。このようにラオスでは言われている。

(3 4 5) rk0; ə (パー・クアン)

これは結婚式などでスークウアンをやる時、花を挿してあるかごみみたいなもので、うまく説明できないが実物をみればラオスにいる人なら誰でも知っていると思う。

これを中心にしてスークウアンをするのであるが、結婚式が終わって3日間はこれをベッドの男と女の間においておくのがラオスの古くからの伝統であつたらしい。

これはどうしてかということ結婚式の時、新郎はどうしてもお酒を飲まされて疲れがたまる。新婦も然り。昔、海援隊で武田哲也の「母に捧げるバラード」という歌のセリフで「あの日とうちゃんが酒さえ飲んで帰らなかつたら」というセリフがあつたのを思い出した。要するにとうちゃんが酔払って帰ってきてカアチャンに性欲のままに襲いかかってできた子が武田哲也だつたという。そして酔払ってできた子供なのであまりできがよくなかつたらしい。

ラオス人の考えも同じで、酒を飲んでSEXするとあまり丈夫な子ができないという。従つて結婚した後も3日間SEXしないで体力を回復させて元気になってからやるようにする。プロ野球の投手でも登板のローテーションがある。なか3日とか4日とか元気になって体調十分ですると元気で丈夫な子が生まれるという。ラオスの古い習慣は夫婦のベッド(もちろんダブルベッド)の真ん中に、このパークウアンを置いておくのだ。これを3日間動かしてはいけない。そうなるとこれが邪魔でSEXができない。しかしこのごろでは、このパークウアンを枕の横に置くようになったらしい。この場合パークウアンはSEXの邪魔にはならない。

またこのごろの若い人はパークウアンがどうこう言う前に、ちゃんと結婚する前に儀式を済ませているようである。

(3 4 6) gɬɔːlo (カオ・セーン)

「カオセーン」は「90万」である。clo「十万」

lko「百万」のほかに「禿げ」という意味がある。したがってこれはいわゆる冗談で「90万」は「100万」に近い、いわば「禿げ」に近いのです。だれ頭でもう少して禿げになる手前の人のことを言う。かすかに髪の毛が残っている状態である。

あるラオス人の女の子の恋人の頭が薄いので、私の妻が冗談であの人の頭は「カオセーン」だと言っていた。

(347) SILKHOTと l87f

「ごめんなさい」と先に謝っておこう。これもわたしのテニスの友達で非常にいい人なので書くと失礼なのだが、面白いので書いてしまう。その人がタケクに仕事で行って、夜「シルク・ホット」というディスコに言ったと話していた。私も何回もタケクには地質調査の仕事で行ったので、タケクにどんなディスコがあるかこっこのほうも全部調査しているが、こんな名前のディスコは初めて聞いた名前である。こんなディスコが私の知らないうちにできていのかと、よくよく聞いてみるとアルファベットで、「S i i k h o d」と書いてあったので、それを間違えて「s i l k h o t」と読んでしまったのである。本当はこれは「シーコード」と読むのが正解である。ビエンチャンでいえば「タートルアング」に当たる有名な場所で、その名前をディスコにつけたものである。

(348) 田中さん 7k]kdk-6

ガーナ協力隊OBでラオスにも以前、仕事で来ていた「田中さん」という人がいた。我が家にもよく遊びに来て私が留守の時も家族が「ターナーカーサン」が来たと言ってくれるのであった。ある時、義弟が「タナカサン」というのは日本人の名前にあるということはわかった。ところで「カーラーカーサン」というのはあるかい？ときいた。

これはなにか？お坊さんのお経の「ナーモーターサー」というのが「森田さんー」という発音に似ているという笑い話はすでに書いたが、それと同じで「カーラーカーサン」というのはラオス語で「未解決・中途半端になっている」という意味である。

(349) 38「I」 g]pwx.lL

(ト・ホ・ヒア・パイ・サイ)

革命前(1975年以前)は、ラオス語の文字には「R」の発音の **I** の文字があった。しかしプーミボンビットさんの文字改革でこの文字が廃止された。革命前は「車」という単語のスペルが **iq** だったのがいまでは **lq** となっている。この「R」の発音はラオス人には不慣れで言いにくい音なのでこれでよかったかもしれない。しかしスペルが同じになったので以前は **3id** (病気) **3]d** (世界) とスペルが違っていたのが、現在はこの両方の意味とも **3]d** で統一するのは混乱するというラオス人もいる。さて「ビエンチャン・マイ」という新聞のコラムに **38** 「**I**」 **glpwx.lL**

「**I**」の文字はどこに行った? というコラムがあった。要するに百という **Ihp** という単語は、**I** の発音が (h) なので「ホーイ」と発音しなければいけないのに現在、ほとんど **]hp** という発音で言われている。**]** の文字は (L) なので「ローイ」という発音になる。この (L) の発音は、そり舌の (R) ではない。タイ語の「100」はこの (R) の発音になるのでラオス語の **]hp** とは違う。しかし本当のラオス語は **Ihp** (ホーイ) である。だんだんタイ語にひきずられて **]hp** となったが、まだ「R」の発音がラオス人には難しく「L」のままでいるのではないかと私は考えている。これは私の考えだが、ラオス人に話すと彼もそうかもしれないと同意してくれた。

とにかく100キップ、500キップのお札を見ても、ちゃんと **sofIhpdu** **skIhpdu** とそれぞれ **I** の文字を使っているのが正確には「ホーイ」と発音するべきであろう。テレビのアナウンサーなどでも **]** の発音で「ローイ」と発音している人がいると、このコラムの筆者はぼやいている。

この他にも **IP[ɪhp]** も「ヒアブ・ホーイ」と発音するべきなのだが、「リアブ・ローイ」と「L」の発音で言ってる人がたくさんいる。タイ語は「R」の発音で「リアブ・ローイ」となるのだが、日本語のカタカナで書くと同じ「リアブ・ローイ」であるが、タイ語は「R」の発音で「L」ではない。これも本来「H」の発音でいふべきところが、タイ語の影響で「L」の発音に変化したものと思われる。

このコラムの筆者は、タイ語の影響を受けて（このコラムの中ではタイ語とはいってないが）ラオス語がだんだん乱れているといっている。この点については、日本語も同じである。

そういえば協力隊員のなかでも二本松の訓練所で **sofɪhp** と習って来たのに、ラオスに来て実際に市場に行き行って買い物したら **sofɪhp** と言われて全然わからなかったといってた。わたし自身も **sofɪhp** なんてほとんど聞いたことがない。

(350) ハア (強く発音する)

これはラオス語の発音が下手な我々外国人には、たまらない言葉でこの本の読者も何回か、ラオス人に言われたことがあるだろう。こっちが一生懸命にしゃべっても、こちらの発音文法が悪いと、相手に全然伝わらないことがある。特に、相手が勘の悪い人で、外国人の発音に全然慣れていない人、田舎のジイチャン、婆チャンだと地獄である。

この時に「ハア」とやられるともう大変でこちらは失語症になる。しかしこれも逆に、こちらも「ハア」攻撃をすればいい。例えば、相手が早口でしゃべっている事がよく聞き取れなかったら、「ハア」と言い返してやればいい。この言い方も勢いよくいうと効果がある。

しかし、やはりこちらが言っていることが通じない場合、やはり発音に問題があると思われる。末子音や無気音・有気音などの発音が悪いので通じないわけだ。ラオス語は文法は、そんなに難しくないが、日本人にとって発音がポイントになる。これができないと上手にならない。

それと以前から、気になっていたのだが、バイクなどに乗っていて知っている人に会った時に挨拶するのに顎をしゃくり上げて、挨拶

搦するやり方である。普通なら首を下げて会釈をするのが、ラオスでも日本でも常識だが、これはタイ人に聞いたら、タイ人でもこのような挨拶の仕方をするものがあるが、お行儀が悪いやり方である。ラオスでも同じである。

(351) r;C, kw] (プアツ マーライ)

これは(頭にのせたり首にかけるために)糸に通して輪状にした花輪・花冠で、タイ人の結婚式の時にこれを新郎新婦の首にかけているのをよく見る。私も3回程、結婚式でこれを見たことがあるが、いずれも新郎新婦がタイ人、東北タイ出身で純粋のラオス人同士の結婚には使われていないようである。

この花輪は式の朝、お坊さんに清めてもらうそうで式の最中は首からはずしてはいけない。ところが、こういった説明がちゃんとなされていなかったのか、新郎の日本人はランボン(]e;Q の発音をカタカナで表記するとランボンになると思うが)要するに、これはラオスの盆踊りで、結婚式の披露宴で踊る。

話が少しそれるが、ある日本人がこれを「ランボー」とカタカナで書いていた。でも「ランボーを踊るAさん」なんて書いてあると「ランボー」=「乱暴」と連想してしまい空手かボクシングのシャドー・ボクシングをやっているようで思わず笑ってしまった。それがアメリカ映画の「ランボー」を連想してしまった。

人の悪口になったのもう一つ(ゴメンナサイ。自分もこれと同じくらい発音ミスをしているのに、でも面白いから書いてしまいます。)ある人が]k[(ラープ) : ラオス料理の一種で、いわゆる肉をミンチにして香料をいれたものでモチコメとすごくあう。これを「ラップ」と発音していた。「ラップ」といえば、私は「サラップ」を連想してしまい思わず笑ってしまった。しかしこれはやはり「ラープ」と書くのが正解と思う。

外国語を日本語のカタカナ表わすのは、発音上難しい。しかしたとえばラオスの古都のルアンパバンは、ラオス語のスペルとうりカタカナで書くとこれが一番発音に忠実である。正しいと思う。

何故なら、ラオス語では s^,Crt [kC でありこれが

s^,Crit [kC とタイ語になると、日本語で書くと「ルアンパバン」である。しかし地名は地元の人がどのように言っているか、

それが一番正しい言い方であると思う。だからタイ人が「ルアン
プラバン」と発音してもラオスの人が「ルアンパバン」と発音す
るのだからそれが正解なのだ。しかしガイドブックには、「ルア
ンプラバン」と書いてあると思う。

それから [gəspá] も「ポー・ペンニャン」が一応発音に忠実
だと思うのだが、「ポーベニア」と書いてあったのを読んだこと
がある。これは日本のある有名な新聞記者が書いたものであるが、
このような重用な単語を、間違われては困ると思った。

本題にもどります。

ラオスの結婚式は、新郎新婦でお披露目の意味で、最初に若いカ
ップルでランボンを踊る。そして次に両親親戚などがその踊りの
輪に加わる。日本人の新郎はその時、出席していたラオス人の女
の子を踊りの輪に誘おうとして、彼女のほうにつかつかと歩いて
行って、自分の首にかけてあった花輪を外して、彼女の首にかけ
てしまった。

おそらく、ハワイに結婚式で行ったカップルが飛行機のタラッ
プを降りた時に、歓迎の意味でレイをかけてくれるのを連想した
のだろう。日本人の私としてもわからなくはない行動である。
一瞬の出来事なので、傍で見ていた私もビックリするシーンがそ
の後おきた。それを見た新婦がいかり狂ったのだ。この花輪は夫
婦のもので他人にしてはいけない。それをよりによって若い独身
の女の子にかけるなんて。これが新婦が怒った理由だった。

また首にいきなり花輪をかけられた女の子も、とんだ災難だっ
た。彼女が言うのには「もしこの夫婦が将来、離婚するようなこ
とがおきれば、それは私の責任にされてしまう」

ということでパーティーの雰囲気が出た。これは、
新郎が十分に理解していなくて緊張してやってしまった一瞬の出
来事である。義父が説明して、新婦の怒りもなんとか治まった。

その後、2回結婚式でこの [r; C, kw] を見るとあの日の事件を
思い出す。しかしこの事件にかかわらずこのN君夫婦には、近く
3人目の子供ができるそうである。

またタイ人の新郎で奥さんがラオス人の結婚式にでた。
新郎がランボンの踊り方がわからなくて、本来は新郎が踊りの輪
の内側なのに、外側に立っていたり、手の動かし方がわからなく

て、新婦が教えてあげていた。純粹のタイ人はわからないのかも
しれない。これは微笑ましい光景であった。

(3 5 2) 外交官の言葉 (ラオス人のプライド)

バンコクにある日本の通産省のある外郭団体がラオスに来てこ
ちらの商業大臣との会見のアポに成功した。しかしその条件とい
うのが、日本側の方でラオス語の通訳を用意してくれということ
であった。

バンコクに駐在している日本人がインタビューしたいのだが、
その人はタイのタマサート大学で、タイ語を2年勉強したという
ことで十分タイ語の実力はある方だった。

しかしここで問題になるのは、ラオスの大臣とのインタビュー
に何語を使うかということである。もちろん大臣は(ラオス人は)
タイ語ができる日本人との会見なら何も問題はない。しかし一国
の大臣が自国語以外の言葉、それもタイ語を使って公式の会見で
話すのはよくない。大臣はフランス語は上手。しかし日本人はフ
ランス語は駄目で、英語しかできない。

もし大臣がバンコクに遊びに行つて、私的な立場なら彼もタイ
語をしゃべったかもしれない。ラオス語だろうがタイ語だろうが
何も問題はない。

しかしこれは、あくまでも公式の会見なので、英語またはフ
ランス語の通訳が必要になる。この場合はラオス語のできる日本人
ということでおはちがまわってきた。

ラオス政府とタイ政府の交渉の時は通訳はつかない。お互いに
双方の言葉でやる。この場合ラオス側はタイの言ってることの
100%わかる。タイ側は多少わからないことがあるようである。
従つて、ラオス側に有利になるとのこと。また英語の上手なラオ
スの高官はラオス語で言わないで、いきなり英語でしゃべるとい
う。

もしラオス政府の代表団のなかで交渉の時にタイ語なんてしゃ
べるのがいたらつまはじきである。

またラオスの女性高官と、日本の通産省の偉い人の会見で
日本の偉い人が「あなたは何語がしゃべれますか?」という質問
に「ラオス、ロシア、仏語、英語」と答えていた。そのつぎに「タ
イ語はラオス語と似ていると聞いていますがどうですか?」とい

う質問には、彼女はきっぱりと「私はタイ語はしゃべれません」と答えた。

やはり彼女クラスの高官になるとプライドがあるのだ。(もちろん実際はしゃべれるのだが)それと違って、わたしの妻などノンカイに行っただけでTVで観て聞いて覚えたタイ語をしきりに使いたがって、一緒に行った弟に「アネキ、ノンカイくらい、タイ語でなんかしゃべらなくてラオス語で大丈夫なのに」とたしなめられていた。フー屋のおばちゃんにもタイ語でしゃべっているのだからしょうがない。彼らだって国籍はタイ人だけどしゃべるのはラオス語なんだから。しかしこの点は日本の地方から東京にあがって来た人が「お上りさん」というのを隠そうとするのに一生懸命に標準語でしゃべろうとするのに似ていて気持ちはわかる。

また日本大使館のあるラオス専門の方は、バンコクに行く時はラオス語を使わないで全部英語でとうすらしい。彼の気持ちもよくわかる。協力隊員で任国外旅行の時、バンコクに行ってラオス語をしゃべった時に、タイ人がどのように反応したか。

ちなみにタイの国王様がラオスに來られて、こちらの首相と会談する時、どのような言葉を使うか。ラオス語でも昔、

3fP0tohp

などという謙譲語があった。しかし今は革命の後ですべての人が平等ということで、自分を奴隷というような昔の謙譲語は使われなくなった。

またタイ語のなかには王様としゃべる時に使う特別な単語・ことばがあるというがラオス語にはない。従って一人称の

0krtg9Q

とタイの王様に対して「閣下」という言い方だけで後は全部普通のラオス語でしゃべるとのことだ。タイ人が王様としゃべる時は、王様に対してのタイ語があるので、それを使わないといけない。

やはりちいさいとはいっても、それでもラオスは一つの独立国家である。そして国としてのプライド・誇りは当然ある。そのことを十分理解して尊重してあげないといけない。

(353)ラオス人の名前

1944年1月1日より、ラオス人は苗字を持つことが義務づけ

られた。それ以前はほとんどの場合、親からつけられた名前（英語でいえば given name）で呼ばれていた。これらはとても簡単な単語で例えば以下のようなものである。

crC ペ-ンク（宝物） **cfC** デ-ンク（赤） **7e** 加（金）

[ɔ̄] ブン（徳・善） **fe** ダム（黒） **lɔ̄** スック（幸せ）といっ

たものである。これはたくさんのひとが同じ名前を持っているので大きな混乱が生じる。これらを識別する唯一の方法は、彼らの一番年上の娘・息子の名前をつけて呼ぶのである。例えば、カムちゃんのお父さんのデーングさんはブンちゃんのお父さんのデーングさんとは別人物である。時々、その本人の名前を呼ばないで（デーングさんと呼ばないで）カムちゃんのお父さん、ブンちゃんのお父さんと呼ぶこともある。女性にも同じ事が言える。

c, 7e（メ-加）「カムちゃんのお母さん」

c, [ɔ̄]（メ-ブン）「ブンちゃんのお母さん」といった具合である。

子供がいない人たちは親の名前を用いる。ブンさんという人がいて彼は子供がいない。ブンさんの父親はデーングさんである場合彼を呼ぶ時、「デーングさんの息子のブンさん」

[ɔ̄] **lɔ̄cfC** と呼ぶのである。

むかしの名前に比べて今はとても複雑になった。現代のラオス人の名前は2つまたはいくつかの単語のコンビネーションである。

7ecfC（加・デーング） **7e** = 「金」 **cfC** = 「赤」

7ecrC（加・ペ-ンク） **7e** = 「金」 **crC** = 「宝」

cdh; y]（オ-ピライ） **cdh** = 「宝石」 **; y]** = 「美しい」

[ɔ̄xtg] fi（ブン・パスト） **[ɔ̄** = 「善・徳」 **xtg] fi** = 「高価・貴重な」

ラオス人の名前の多くは男性・女性両方に使われる。しかし名前だけで男性か女性か区別するのはたいへん難しい。どちら（男性でも女性でも）にも使われるものが多い。しかし同じ単語でも最後が「aa」で終わるものは男性であり、「ee」で終わるものは女性である。例えば、Oudala と Oudalee そして Chanthala と Chanthalee

などである。

(ということで、ラオス人が英語を喋る時に、自分の名前にもかかわらず自分で Mr を付けたがるのはこの理由であろう。) 村山注釈

ほとんどのラオス人の名前は実在するもの、意味があるののからきている。例えば花でいえば、

「ハスの花」 [q (フア) 「ジャスミン」 , t]y マリ)

「バラ」 dʃ]k[(クラブ) などである。

動物では、

「ねずみ」 soʔ (ヌー) 「ライオン」 lɕ (シグ) などがある。

動物でも「イヌ」の s, k (マー) が付いた例は聞いたことがない。

また「においがいい」 sv, (ホーム)

「透き通った」 .l (サイ) 「冷たい」 glə (ジエン)

「夜明け」 vk]ʔ (アルン) 「勝利」 w (サイ) などがある。

両親のなかには子供に詩的な名前をつけるひとがいる。例えばすべての子供に最初同じ発音ではじまる名前をつけるのである。

例えば、 lqlə (ソムサク) lq.l (ソムサイ) lqlɕ (ソムリット)

lqltoɕ (ソムサニット) というように子供の名前全部が lq (ソム) の文字で共通している。このような名前のつけかたは中国人にもみられる。(私の、娘も長女が日本名は「桜」で次女が「蘭」であるが中国人は、名前で兄弟で同じ文字を共通に使うので、長女は「梅桜」そして次女は「梅蘭」という中国名にしている。しかし妻の兄弟は全部で 15 人で、最初のほうの 2 人くらいは同じ文字を重ねていたが、あとのほうはみな適当につけている。)

またある親は、最後の音節に韻を踏ましている。例えば Thavorn Ammorn Chansorn Mangkorn といったぐあいである。いずれの名前も orn が共通していて名前同士が韻を踏んでいる。この他にも Khammay Sayphorn Mornkaeo Laeokham 長男または長女の名前の最後の音節の発音「マイ」と次男あるいは次女の名前の最初の音節が同じ音になっている。つまり「カム・マイ」と「サイ・ポーン」である。以下同じように、韻が順番に踏まれて

いて三男・四男と続いている。

ニック・ネームもよく使われている。子供の時につけられたあだ名は、大人になっても一生用いられることがよくある。このニック・ネームはだいたいにおいて悪い名前をつけるのが普通である。きれいな名前を子供のニック・ネームにつけると悪いお化けがとりついてその子が死んでしまうかもしれないとラオスでは古くから言われている。従って親が子供たちにつけるあだ名には次のようなものがある。

「黒い」 **csn** (レ-) 「猿」 **lɔ** (リング) 「太い」 **ɔp** (トイ)
「ほそい」 **ɔyp** (トイ) 「末っ子」 **lɔ** (ラ-) 「赤ちゃん」 **cv** (エ-)
「キンタマ」 **se** (ム) 「オマンコ・鍋」 **s, h** (エ-)

最後の (エ-) は鍋の底は煤で黒く汚れている。オマンコにも毛がはえていて、ラオス人のオマンコの毛も日本人と同じく黒い毛なのでこういった言い方がされるのだろう。西欧人だと髪の色が金髪だと下の方も金髪なので、こういった表現はしないだろう。ちなみにタイ語で「オマンコする」というのを **ɔp, h** (ティ-エ-) という。

ɔp は「叩く」ということで、直訳すると「お鍋を叩く」ということでその行為から「オマンコする」という意味になる。

ウドム・ビエンチャンで英語を教えていたフランス人の先生が、シェークスピア劇のハムレットを教えていた。フランス流の発音で彼女は最後の t を発音しなかった。ハムレット・Hamlet 従って彼女の発音は Hamle 要するに **secsn** になってしまい「黒いキンタマ」とラオスの生徒には聞こえて、みんな爆笑したということである。

(354) おいしい店紹介 **gʉlɔw** (シーカイのフー)

ここのフーはおいしいのでビエンチャンの人ならほとんど知っている。95年5月下旬のある日、妻の淑珍とバイクに乗ってこの店にやって来た。店の名前は看板がないのでわからない。一般の住宅で家の前でやっていたのがおいしいということでトタンの屋根を作って店を大きくしたとのことである。ビエンチャンの中心からワッタイ空港に行くルアパバン通りを空港の方に行く。三叉路の信号があり右折すれば空港だが、そのまままっすぐ行きすぐ左手にガソリン

スタンドがあるので、そこを左にはいっておよそ20m。住宅街のなかにあって大きい通りに面していないので、初めての人にはわかりにくいかもしれない。

この店はフーしかなく、その他にお菓子などもあるが、いわゆるフーの専門店である。95年5月の値段で一杯800キップ。麺は細く付け出しに漬物（パパイヤとマーククア）がでてくる。これが意外とおいしい。その他にすき焼きに付けて食べる味噌が付いてくる。それともやし。

わたしの感想では評判ほどの店ではない。こんな路地の裏みみたいなところにあるのにはやっているの、よぽっどおいしいのかと思ったが期待はずれであった。印象がよくなかったのは私が注文したフーのなかに蠅がはいっていたからかもしれない。

しかしバイクや車に乗って遠くから食べに来る人がいるので、やはりラオス人の口にはあうのかもしれない。空港に人を見送り、または迎えに行く時、時間があれば寄ってみてもいいだろう。

それから美味しくて他に有名なのはフー屋さんは、なんと**も lkp]q (サイロム) と oExtxk (ナン・パッパー)**の「フー」である。小生の女房の実家もサムセンタイで焼き飯、フー、ミーなどをやっていて商売がたきであるが、ここは心を広く持って、紹介しておこう。この2軒は「フー」専門なので、（私の女房の実家は他にも色々やっているの。）ラオス人に聞いても有名で皆知っているところである。サイロムは通りの名前である。凱旋門を背にして、朝市の方向に進む、右手にドーク・マイ・デーンHotelがある。その交差点を右折したところが、サイロム通りである。交差点から右折して、30m位のところにこの店はある。朝から開いていて、売り切れるとお昼にも店じまいするので早目に行くこと。

ナン・パッパーのほうはポンケン通りにある水道局の大きなタンクが目印である。ここもお昼だけで夜はやっていない。ここは、昔、水道局に働いていた人が初めて、美味しいので繁盛している。

他にも、美味しいといわれているところはあるが、ラオス人に聞いてみよう。

(355) ラオスの民話 パンニャーカピラポーム

ルンパンのお正月に行ったことがある人はすでに実物を見て知っていると思うし、また行ったことがないひとでも町で売っている絵葉書に、新年のミス・ルンパンのパレードの時に4つの顔のちょ

っとひょうきんな感じの神様が飾られているのを見たことがあるだろう。これはパンニヤーカビラポームという名前でラオスの有名な昔話である。

昔むかしのことである。全知全能の神で4つの顔を持つパンニヤーカビラポームという方がおられた。このかたの唯一の楽しみという謎謎をだすことであった。もしこの謎謎がとけなかったら神であり王様であるパンニヤーカビラポームは、その男の首を切ってしまうといわれていた。

ある日、王様は国中にその名がとどろく有名な若い学者の話を知った。その人は外国留学から帰ったばかりで皆の噂によると彼は物知りで知らない事はなく何でも知っているとのことである。彼の名はタマバン・コーマンという。お金持ちの息子である。王様はこの若い何でも知っているという男の知識を試してやろうとした。タマバン・コーマンは宮殿に呼ばれた。そして王様は「ワシはお前に謎謎を出す。7日以内にといてみる。もしお前がちゃんとこたえられなかったら、お前の首をはねてやる。そのかわりに正解なら逆にお前にこの国をやるぞ、そしてワシの首を切ってお前にやるぞ」

タマバンコーマンは王様の挑戦に同意しました。王様の謎謎とは「朝昼晩と、それぞれ人間の体のなかで一番大切な部分はどこですか？」彼は、家に帰って「こんな謎謎わけないものさすぐに正解が見つかるだろう。そうすればこの国は俺のものになる。」と思わずひとりでほくそえみしました。

しかしよく考えてみると、そして色々な本を調べてみても正解できません。「これはやばい、けっこう大変だ」と思いました。彼は友達や先生に色々尋ねてみましたが、結局は駄目で食事も喉にとおらなくなり、眠れなくなりました。

3日目、彼は苦悩におののき、頭を抱えて大きな木の下で「俺の命も、もうしばらくで悲しい結末に終わるんだな」と嘆いていました。彼は激しく涙を流したので最初は木の上から聞こえてくる声が聞こえませんでした。

彼は鳥のさえずる言葉も聞く事ができる知識を持っていたのです。彼は、今彼が座っている木の上の枝で2羽の禿げワシがしゃべっているのに気がつきました。

雌が雄に聞いていました。「どこに行ったら餌にありつけるのかな、もうすぐ食事の時だし今にも食べるものがないんだか

ら」

雄の禿げワシは「しばらく待ってなさい。もう少しするとある学者が王様のだした謎謎がとけなかった罰として、首をはねられて殺されるから、これが今夜の最高のごちそうになるでしょう。」

タマバン・コーマンは息を殺して雌の禿げワシが雄に謎謎の答えを聞くのを聞いていました。

雄の禿げワシは傲慢そうに「そんなの簡単さ、朝一番大切な体の部分と叫ぶたら、それは顔だよ、毎朝人間は起きたら顔を洗うだろう。昼になると胸に水をかけて昼間の暑さを和らげるだろう。そして夜は寝る前にベッドにはいる前に足を洗うだろう。」

それを聞いて彼は稲妻のように速く宮殿に駆けていきました。彼は嬉しくて飛び上がらんばかりでした。若くして死ななくて済むのですから。王様はビックリしました。

パンニャーカピラポームは権力を持った王様であり、また誇り高き男でもありました。従って約束どうり王様は自分の国土をタマバン・コーマンに譲り、自ら首を切られることを進みでたのです。

しかし彼は桁違いのものすごい力のある君主で、もし首が切られるとなると、ものすごい大異変がおこると言われていました。もし首が地面に落ちると地球が生き地獄のような苦しみになる。もし水の中に首が捨てられるとすると、7つの海がそしてすべての川や小川が煮あがり水の中に住んでいるすべての生物が死んでしまう。もし空中に投げ捨てられたら、地球の大気は熱い風とともに吹き飛ばされるだろう。その熱い風はものすごい速い速度で地球の上のすべてのものが完全に破壊されるだろう。

問題はパンニャー・カピラポームの頭である。これは力があるだけでなく、また上品である。この問題については王様自らが次のように答えた。「地球にふりかかる災難を避けるために、私の首が切られたらそれは私の娘の黄金の皿の上に置いて、地球の内部の深い洞窟の安全なところに保管してくれ。それから1年たったら私の首を洞窟からとりだして供養のために荘厳な儀式をしてくれ。そうすればこの地球は平和に繁栄していくことになるだろう。」

そして王様の首は切られ、王様の言いつけどうりに実行された。

これが毎年、ラオスの新年にルアバ^ルバンで、凱旋車に他の6人の

姉妹と一緒に座ったパンニャー・カビラポーンの娘を代表する
うかわいい女の子が、パンニャー・カビラポーンの頭を載せて運
んでいるというラオスの伝統・習慣の古くからの言い伝えである。
この時、娘さんの人数は全部で7人いる。彼女たちが王様の娘と
いうことで一週間七日の各曜日を代表することになる。
さて、今年（西暦1996年）のソンカーンは（土）にあたる。
これはその年の干支とは関係ない。

ちなみに各曜日の娘さんの乗り物を紹介する。

日曜の娘は Thungsa Thevi で彼女はガルーダに乗る。

月曜の娘は Kholaka Thevi で彼女の乗り物は虎。

火曜の娘は Maksa Thevi で彼女は雄豚をひいている。

水曜の娘は Montha Thevi でロバに乗っている。

木曜の娘は Kilini Thevi で象をひっぱっている。

金曜の娘は Kimitha Thevi で水牛をひっぱっている。

土曜の娘は Mohothala Thevi で孔雀をひっぱっている。

（356）ラオスのお正月

1995年の12月に、ラオスの旧王都ルンパバンはユネスコの宣
言で、東南アジアの都市のなかで最も古い町のたたずまいがよく保
存されている町という指定を受けた。そこでこのページではルンパ
バンのラオス正月について説明してみよう。今年（西暦1996年）
のラオス正月は4月13・14・15日に行われる。4月13日は
Idkos[^]C（ソカーン・ルン）で豚の年（要するに猪年）の最後の日
である。この日は早朝からルンパバンの中心街のサッカリン通りは、
縁日になる。鳥や亀、そして魚がここでは売られる。これを買って
放してやると生き物を助けてやるということで、仏様の教えのよう
に徳を積む、善を積むということで幸運がやってくるということだ
である。日本でも浦島太郎が亀を助けて竜宮上に行ってるので、ラオ
スと同じことである。

午後になると町中の人々が川辺の砂浜に行って、砂でミニチュアの
仏舎塔を作る。これは去年の罪の償い反省の意味である。

その後、お互いに水をかけあう。幸福を祈って皆に幸があります
ように、水はすべての悪い事を洗い流してくれる。そしてそれによ
って純粋な気持ちをもたらされ水により涼しくなる。

4月14日は、**ᠮᠣᠬᠤ**(ム-材)といい、この日は行く年と来る年の間であり、どちらの年でもない一日である。この日は誰も仕事をしてはいけない。もしこの日に仕事をしてしまうと、その人は一年中働かなければいけなくなる。またこの日は眠らないでずっと起きていなくてはならない。何故なら、一度寝てしまうと新年の始まりをみることができないからだ。ᠮᠠᠮᠤᠯᠠᠮᠤᠨの町の人々は、誰もが

ᠴᠰᠢᠠᠨᠴᠢᠩᠭᠠᠨ(ハ-ナ-ツ-ソカ-ツ)の行列を見に行く。この行列の起源は前項で説明したパンニヤー・カピラポーンの民話・昔話からきている。この行列の車の上に座るのが **ᠣᠬᠤᠴᠢᠩᠭᠠᠨ**(ナ-ツ-ソカ-ツ)いわゆるミス・ᠮᠠᠮᠤᠯᠠᠮᠤᠨである。

4月15日が **ᠤᠨᠨᠠᠨᠠᠨ**(ソカ-ツ-ツ)であり、いわゆるその年の元旦にあたる。この日はバーシーのセレモニーが役所または家族の間で行われる。これは今年が幸せで仕事がうまくいきますようにお祈りするわけである。午後にまた昨日とは逆のコースでパレードが行われる。

(357) 結婚許可書

私が、中国国籍の妻と結婚した話を書いてみよう。私の妻はラオス生まれであるが、国籍は中華人民共和国であってまだラオスに帰化していない。私の義理の父は、40年程まえにベトナムから来たいわゆる華僑である。妻の姉・兄などはベトナムで生まれているが、彼女はラオス生まれの中国人であり、パスポートも中華人民共和国のもので、ラオスには永住を許可されている外国人というかたちでビザなしでいられるわけである。

したがって、ラオス人と結婚したい人の参考にはならないかもしれないが、もし好きになった人が中国国籍だった場合のことであるがなんらかの参考になると思って書くことにする。

一般のラオス人の場合、外国人との結婚の場合日本と違ってラオス政府の結婚許可書が必要になる。日本では婚姻とは両性の合意により、役所に届けをだす、いわゆる婚姻届を出すことによって成立する。したがって結婚に対しての許可というのは、本来はお役所なり国は何も言えないのである。しかし社会主義の国では、結婚に対する許可ということを政府がおこなう。この時に出される書類が、結婚許可書といいラオス語で、**[vtopkf]**(バイ・アヌニヤ-ト)という。

この **vtopkf** という意味は文字どおり「許可する」という意味で政府がこの2人の結婚に対して許可したということである。ラオス人と結婚する場合、この結婚許可書が必要になる。何故なら結婚して奥さんになるラオス人を日本に連れて来る場合、ビザの問題が出てくるのである。普通のラオス人は親族訪問とか公式のレターが出ていないとなかなか、大使館がビザをださない。しかしラオスの政府から結婚許可書がでて、それと婚姻届けを日本の役所に届けば、自分の戸籍に奥さんとの婚姻が記載される。いわゆる日本人の妻になったことが公式的に証明されるのである。

日本の政府の政策として外国で日本人が結婚する場合、相手国の結婚証明書が先になり、それを日本政府が追認するというスタイルになる。日本で外国人と日本人が結婚する場合は、こんどは日本政府が先に出すということになる。

したがってラオス人と結婚する人は、まずラオス政府からこの結婚許可書をもらわないといけない。そうしないと将来、彼女を日本に連れていくことができない。ビザがおりないのだ。また子供が生まれた場合、その子が日本国籍を取れない事にもなる。したがってどうしても乗り越えなければならない試練なのである。

私の場合、ラオス国籍でないが、妻が一応ラオスに永住する外国人ということで、ラオス政府に書類を提出した。そうするとラオス外務省の段階で書類がストップしてしまった。ラオス政府の見解としては、私達の場合、ラオスで外国人同士が結婚するのであるから、ラオス政府は結婚を許可する権利はない、ビエンチャンにある双方の大使館（中国と日本）で書類を出してもらってくれとのことである。ちなみにラオスの法律を調べてみたらこの事が記載されていた。もし、不幸にして離婚ということになれば、財産の分割・子供の養育などの問題はラオスの法律によってさばくことになる。

そこで中国大使館に問い合わせたところ、そんな書類は出せないしいままでにも出した事はないとのこと。ラオスの法律でやってくれといわれた。官僚的なつれない返事であった。中国大使館も、私の妻が中国国籍でもいわゆる中国本土生まれではなくて、ラオス生まれの華僑ということでどう処理していいかわからなかったようである。これが中国本土生まれの中国人の場合は違って来るのだろう。ちなみに中国本土の中国人と外国の中国人の場合、パスポートの種類が違って来る。

ということで、どうしていいか八方塞がりになってしまった。やはり華僑というのは、その国の政府からも保護されていなく、そして本国からも冷たくされていることがよくわかった。従って、頼りになるのがお金であり家族・親戚しかいないのである。華僑が商売して生活するのもこのような環境に置かれれば当然であろう。

最終的には、中国大使館が証明書を出してくれた。これは社会主義国の考えの結婚許可書ではなくて、私たちの結婚にたいして中国大使館は何の反対も異議も唱えないという内容のものである。

ラオス語でいえば、**[໐໔໐໒C]** (ポ・カッド・コン) 「反対しない」したがって厳密的にいえば社会主義国の考えでは、これは結婚許可書ではない。「許可する」と「反対しない」は厳密的にいえばお役人の世界で言えば意味が違うらしい。

もし大陸の中国人が、中国で外国人と結婚する場合、この書類では不備になるだろう。しかしとにかく中国大使館の参事がサインしてだした公的な書類であり、日本大使館の領事の人とその書類と日本の婚姻届を受理してくれた。

何故、中国大使館が書類を出してくれたかということ、これは日本食レストラン「桜」のオーナーの陳さんのお陰である。とにかく結婚式と披露宴は挙げておこうということで、陳さんのお兄さん(メコン川の通りにある印刷屋さん)が出資しているディスコ「マリナ」で披露宴をした。そして陳さんのお兄さんが日ごろ懇意にしている中国大使館の参事にも出席していただいたき盛大におこなった。

やはりこのように既製の事実で盛大にやったため、中国大使館のほうも本当に結婚したことを確認したので、式の2日後、義理の兄が大使館に行くとともに「結婚に反対していない」という内容の証明書をだしてくれた。ちなみに手数料は20ドルであった。

いまから考えれば本当に大変だった。手続きが大変で夜も眠れない日が何日も続いたし、地獄であった。というわけで中国人と結婚する場合は手続きは簡単であることが証明されたが、わたしのケースでは、日本国での結婚は戸籍に記載されたわけだが、中国のほうでは法的に終わっていないことになる。また中国本土の中国人と結婚する場合は手続きが大変であろう。

しかしとにかく中国大使館のほうからレターをもらうためには、ビエンチャンの立派な華僑に仲人になってもらい、中国大使館の

方に来てもらって盛大な披露宴をおこなわなければいけない。
とにかく国際結婚はいろいろと大変であるが、これも結婚の試練だと考えて頑張るしかない。

(358) モン族の昔話

マー嬢は美人で働き者で頭がよく知恵のある娘でした。
ある日森の中できれいな木を見つけました。「これはなんの木だろう、それにしてもきれいだ」
マーはこの皮を持ってきてちぎって細い紐にして織物を作りました。
母：「何に使うの？」
マー：「何に使うかまだわからないけれど冬に毛布代わりに使えると思うの」

それからマーは森に例の皮を取りに行く途中、ある青年と言葉をかわすうちに親しくなりました。青年はルーセンといいます。
その青年は彼女を愛するようになり、彼女も彼を愛するようになりました。しかしマーのお母さんがルーセンの他に男を捜してきて、娘と結婚させようとしてきました。マーはルーセンと別れなければなりませんでした。ルーセンはショックで病気になり、そして悲しみの中かで遂に死んでしまいました。ルーセンの死を聞いて、マーもショックで一人では生きていくことができず森に行き行って首を吊って自殺してしまいました。

娘の死を知った母親は悲しみ、2人の亡骸を隣同士に埋めてあげました。死んで2人の魂は近くにいることができたのです。

マーの亡骸が眠っているところから何ヶ月か経った後、木が生えてきました。これは麻の木に似た種類のものでした。

母：「この木の繊維は柔らかくていい。娘を思う気持ちは押さえがたい。この木を裏庭に移植しよう。そうすればいつも娘の近くにいられる。」

この木はそれからどんどん成長して行って、どんどん増えていきました。そして母は娘がしたのと同じように、この木の皮を剥いてちぎって織物をつくりました。そしてモン族のスカートができました。

それ以後、モン族は娘が結婚する時、母親は皆娘のために麻でできたスカートを用意してあげます。

(359) 8fzqzf7flk, gno gyhg pzf7fgnd8kp

(タット・ポム・ピット・キット・サム・ドゥアン) (アオ・ミア・ピット・キット・タオ・ター

1)

8f「切る 刈る」 **zq**「髪の毛 私(タイ語の男性一人称)」
zf「間違える」 **7f**「考える」 **lk**「3」 **gno**「月」
gyp「嫁をもらう、結婚する」 **gnk**「死ぬまで」

散髪屋で間違えて髪の毛をきっても、3ヶ月もすればまた毛がはえてくるからカッコ悪いと思ひ悩むのも3ヶ月までで大丈夫。しかし間違えて、性格の悪い家事も料理もなににもできないような女と結婚すると、死ぬまで思ひ悩まないといけない。

結婚するにはよく相手の性格を見てからにしないといけない。

(360) **-j7n, k**(**sp·k·m-**)

-j「悪い 道徳的に悪い」 **7n**「みたい」 **s, k**「犬」

直訳すると「犬みたいに悪い」ですがこれは「道徳的に悪い」という意味で製品・物の品質が悪い時にはこのようないかたをしません。これを言われるとラオス人はおこります。「犬みたいに悪い」とはどういうことかという、彼らにいわせると犬が一番悪い動物だからです。犬はウンコを食べるとラオスでは言われています。実際或るひとから聞いた話では、犬はウンコも食べるとか。「犬」に関してこの「犬」を使った言葉で、ラオス語にはたくさんの悪い言葉、罵り言葉がある。

(361) **xkk** **C6kk**

(**p-p-p-p-**) (**g-g-p-p-**)

x6「かに」 **xk**「魚」 **C6**「へび」

これは「すこししかわからない。あまりできない。」という意味である。例えば、「ラオス語はできますか？」ときかれると「すこししかできない」とこたえるのにこのフレーズを使うと会話が生き生きしてくる。タイ語の言い方だと(**g-g-p-p-**)になる。ただしタイ語の場合は「L」の発音があるので(**p-p-**)になる。

中国語でいうと「二二 三三」となる。これは「リアン リアン サン サン」である。何故このようにいうか私は知らない。

またラオス語で中子音 (**dl9H18H kxH kv?**) + 長母音の発音は、

声調でいうと上昇音 (Rising) になる。例えば **dk**(鳥) **xk**(魚) **8k**(目)などの単語を、単独でラオス人に発音してもらおうといずれも上昇音になる。この上昇音の高さは、有気音と無気音の違いがあるが **dk** と **Ok**(足)の音程のレベルが同じになる。

従ってラオス語で「中子音 + 長母音」の声調は「高子音 + 長母音」の声調と同じになる。しかしこの法則はあくまでも一つの単語をピックアップして発音したもので、例えば

xkɔhp(ちいさい魚)というように、修飾語が後ろにつく場合は **xk**の発音は軽声または、Middleの声調になる。

なぜこのようなことを書くのかというと、タイ語の場合は2つともすべて Middleの声調で発音される。私がラオスに来て、ラオス人に **xk**の発音を何回も直された、何回言っても、先生に「駄目」といわれるので困ったことがある。私はその時、有気音と無気音の違いで、間違えて有気音で発音したのかと思った。しかしこの点に注意して何回も発音してもOKがでない。別の協力隊員は「魚」の発音だけで30分もやり直しをうけて、いやになった。私は以前、タイ語を勉強していたので、「魚」の発音は当然、タイ語と同じく Middleの声調だと思っていたのだ。そして先生はピエンチャン出身でないので、先生の発音の方が田舎の発音でおかしいのだと思っていたのだ。

その後、何年かしてラオス語が専門の人にこの質問をすると、教えてくれたのが以上の説明である。わたしは声調を、ちゃんと上昇音で発音しなかったのが、何回も先生に直されたのだ。

しかし、もしラオス人の先生のがこのような説明をしてくれたら、すぐにどこが悪いが理解して正しく発音できたのに。やはりラオス人だからといって、全員ラオス語を外国人に教えることができるかということ駄目である。日本語の場合も同じである。

そして、ラオス人で以上の理論・法則を理解している人は私が知っている範囲ではない。

エッチ編と違ってこっちは、かなりの専門性のお話である。

(362) **.d8k.d.9**(ガイ・ター・ガイ・チャイ)

.d「遠い」 8k「目」 .9「心」

遠くにいと、心も離れてしまう。やはり近くにいていつも会っていないと男女の仲は遠くなるものである。

これと反対の諺が

7q.dh9Ckp(コン・カイ・アオ・チャイ・ガ-イ)

7q「人」 .dh「近い」 gyh9「機嫌を取る、お世辞をいう」

Ckp「やさしい」要するに、近くににいる人が一番、お世辞を言いやすい。その気にさせやすい。口説きやすい、ということでしょうか。やはり、人間会わなくなると人間の関係がだんだん希薄になります。

(363) gæ8k96(パンター・チューブ)

gæ8k「したくなる」 96「キス」

(キスしたくなるくらいかわいい)

これが gæ8kcncX(パンター・テ-ソグ)になるとたいへんです。

cnc「突き刺す」という意味であります。所謂、「アレ、ナニを突き刺したいほどいい女」という意味になります。

gæ8kld(パンター・ルック) gæ8kcrC(パンター・ペ-ソグ)と

いえば「愛らしい」という意味になります。

「憎たらしい奴」は gæ8kgt(パンター・テ)といひます。gtは「蹴る」という意味です。要するに蹴飛ばしてやりたいくらい嫌なやつ、ということです。

(364)]k; 8kp phodPf ; Pf8kp phox t1fa

(ラオ・ターイ・ニョ-ン・キド) (ベト・ターイ・ニョ-ン・パヤド)

]k;「ラオス人」 8kp「死ぬ」 pho「の為に」

dPf「名誉・見栄」 ; Pf「ベトナム人」 xt1fa「節約」

(ラオス人は見栄をはって死ぬ、ベトナム人は儉約して死ぬ)

これは、ラオス人とベトナム人の国民性をうまく言い当てていると思います。

ベトナム人は儉約してお金を貯めて商売を大きくして行く。そし

て働かなくてもなんとか自然の恵みで食べていけるラオス人は、見栄と誇りを大切にします。実際、ベトナム人は勤勉でよく働く。またベトナム本国も人が多くて、土地もすくないので、常に競争しないとイケない。彼らはラオスやカンボジアに移住してくる。当然そこではゼロからの出発なので、とにかく働かざるをえないのである。逆にラオスは人口が希薄で、土地もあまっているので競争も少なく、山にはいけば食べ物もありなんとか暮らして行ける。

(これも **dPf** と; **Pf** と韻を踏んでいるのに注意してください。)

pjɔ̄ʃʌkpphɔŋfɛ; Pd でしょうか、これは過労死である。

(365) **gʌshdk]tgn]t** (ワオ・ハイ・ミー・カラ・テーサ)

gʌ 「しゃべる」 **.shu** 「を持つようにする」

dk]t 「時間」 **gn]t** 「場所」

これは「時間と場所を考えてものをしゃべりなさい」という意味である。英語でいうと T P O (Time Place Occasion) という

言葉があるがこれにあたる。 **dk]t gn]t** も純粹のラオス語ではなくパーリー・サンスクリット語であり、普通のラオス語の会話にはもちいられない言葉である。

(366) **cʌŋcɪncʌdɔ̄wfh ; k]tsokcʌdɔ̄wfh**

(ケ・フ・ケ・カ・ダイ・ワサー・ケ・カ・ホー・ダイ)

cʌŋcɪ 「争う 競う」 **gn** 「舟」 ; **k]tsok** 「ワサー」

ボート・レースはいくらでも競争することができるが、ワサーは、前世で善業をなした遺産みたいなものなのでいくら努力しても駄目である。仏教思想では、お金持ちに生まれたり、美人に生まれたり、お金持ちと結婚できるのはすべてこの福分のためといわれる。人がうまれながらに持っているさだめ・運命みたいなものである。だから悲しいけれども良い星のもとに生まれなかった私はいくら頑張っても駄目、そんな諦めみたいな事です。

(3 6 7) **0Vcsɦlts; ə dtg²xkdg .7czps[^]Crt [kC**
 (シ・ハ・サツ) (カエー・パクセ) (カハーン・ルアンパバン)

「サバナケットの干し肉」 「パクセのコーヒー」
 「ルアンパバンの川海苔」

ラオスの名物 お土産をあげてみました。サバナケットの干し肉は、以前これをお土産に買おうと思って市場に行って「シ ハ サツ」をくださいというと「なんだ、それは？」といわれたことがある。昔は、名物だったらしいが今はそうではない。またパクセのドリアンも5月ごろがちょうどシーズンでおいしい。

-**V**「肉」 **csɦ**「干した」 **lts;ə**「サバナケット」

dtg²「コーヒー」 **xkdg**「パクセ」

.7czp「川海苔・岩海苔」 **s[^]Crt [kC**「ルアンパバン」

(3 6 8)

267; k, cd; gl pco; g0Qx6

(ファンク・クリーム・ケオ・シア・ネー・カ・ブーク)

267; k, vɔw².s, h0Q0Q

(ファンク・クリーム・タイ・ファイ・マイ・ヲ・カ)

これは、タイ人ベトナム人を馬鹿にする諺です。「ベトナム語を聞くと田んぼに植えた稲が駄目になる。」「タイ語を聞くと米倉が火事になる」タイ・ベトナムという2つの大国に囲まれて、やはりラオスはこの2つの国に対するコンプレックス・偏見があるようである。

26「聞く」 **7; k,**「語」 **cd;**「ベトナム しかしこのいいかたは馬鹿にした言い方なので、使ってはいけない」

gl p「駄目にする」 **co;**「列」 **g0Q**「稲・お米」

x6「植える」 **vɔw².s, h**「火事」 **gl0Q0Q**「米倉」

これは、**u6.s[hvd]6** , **sko.s[hvds]ko** ということらしい。

(3 6 9) **gyl3l groukxog pfdj kyhg pge3l grou**

(ア・ソ・パ°-ニ-・マ-・パ°ン・ミア・デー・クア・ア・ミア・パ°ン・ソ・パ°-ニ-)
 これは、むかし売春婦をやった女でも、良い人なら奥さんにしなさい 過去の事は関係ない。結婚して売春婦になるような女よりいい。ようするに過去のことは関係なく、とにかく現在、いい奥さんをお願いなさい。

3lgrou「売春婦」, **kgxog p**「女房になる」
fdjk「よりいい」

(370) **c**[[**s**, **kxtse**(バ-ブ・マ-・パ°・ム)

犬がパンツをはかないでキンタマをぶら下げて、みんなに見られているように、見え見えの破廉恥行為をしても平気で、人の目もきにしないでいられること。日本語でも「厚顔無恥」という言葉がある。この後に

gp7n[**8f**(ス-イ・ク-ベ-・トット)が続く。

これも「ヤギがすかしっぺをして、涼しい顔をしているように」というフレーズがくる。

c[[「スタイル」 **s**, **k**「犬」 **xt**「そのままにしている」
se「キンタマ」 **gp**「気にかけない、平気な顔をしている」
7n「のように」 **c**[**h**ヤギ」 **8f**「オナラをする」

(371) **gN7=q** **1klU** **va, h** **w hənǎ**

(ス・コ-・ム) (ヤシ) (イ) (マイパ°ンタット)

gN「服」 **7=q**「首」, **q**「丸い」 **1k**「するな」

lhマンコする」 **va, h**マンコ」 **w hənǎ**「定規」

ラオス語の発音で日本語でエッチに聞こえるもの

(ス コ- ム)これはラオス語で「丸首のシャツ」だが

日本語で、その発音が「肛門」と聞こえる。変な意味になる。

(ヤシ)ラオス語で「オマンコするな」という禁止を意味する」日本語でこの発音は「ココナツ」の意味の「椰子」と同じである。

(イ)ラオス語で「オマンコ」になる。日本語でこの発音は

「ジャガイモ」「サツマイモ」などの「芋」と同じである。

(マイ バン タツ)ラオス語で「定規」になる。日本語でこの発音は「毎晩立つ」に似ている。

注意

「芋」の発音は注意すること。日本人の名字でも「井本」「井元」「伊本」などの方は、ラオス人には名字を名乗らないで、名前だけと言う方が良い。また「妹」という日本語も危険である。南こうせつというフォーク歌手の「妹」という歌もやはり同じ理由で止めた方がいい。

それから「椰子の実」も日本語でいわないで「ココナツ」と言った方がいい。

息抜きに御読みください

コーヒー・ブレイク

1) 青梅でおこなわれる国際マラソンをなんと言うでしょう？

答え

おーめこくさい まらそん

2) むかし強かった覆面プロレスラーです、誰ですか？

見自慰烏

答え

ミルマスカラス

3) 煙草屋の娘は、「たばこちゃん」 花屋の娘は、「花子ちゃん」といいます。それでは饅頭屋の娘はなんといいますか？

答え

「餡子ちゃん」でした。

4) 行楽園球場は、「東京ドーム」と言いますが香港にできたドーム球場はなんといいますか？

答え

ほんコンドーム球場

(372) **3mf90** (トト・チャオ)

「お前のせい」「お前が悪い」というかなりきつい言い方。したがって仲のいい友達同志が冗談半分でのいうのなら問題はないが、知らない人にいきなりこのような言い方をすると、喧嘩になります。

3mf「罪」 **gQ**「お前 あなた」

(373) **zə-β|psok**(パクシー・ローイ・ナー)

外見だけとりつくろう。ええかっこうをする。どんなに不味い料理でもパクシー(コリアンダー)を添えるだけで少し良く見える。日本人は、これが嫌いな人が多いようですが、これを少し添えると味がひきままるようです。したがって、「一時的に善事をなす」「表面だけをとりにつくろう」といった意味になる。これはタイ語である。もちろんラオス人にも通用するが。純粹のラオス語としては

ph, c, ; Okp(ニョム・マ・カイ)

このフレーズがラオス人はよく使う。これは「パクシー ローイ ナー」と同じだがこっちの方がラオス語である。

「猫を染めて売る」ということである。品質の悪い商品、例えば本当は事故車でセコハンの車でボディーが穴ぼこになっているようなものを、板金で修理してパテを塗って塗装する。それを新車だといってお客に騙して売る。そんな時にこのフレーズを使う。

わたしが96年の8月に、ビエンチャンのトヨタの代理店でハイラックス買った。半年もしないうちにボディーの塗装にヒビがはいった。その時にラオス人がこの車「**ph, c, ; Okp**」ではないかと言っていた。実際この車はバンコクのトヨタの工場ですドアタイプのボディーをModifyして4ドアにした。その時に溶接の仕方が悪くて、カスをちゃんととらなかつた。後でそこが錆びて、ボディーの塗装にひびがはいったとのことである。トヨタといっても日本製のトヨタと、タイ製のトヨタでは品質管理の点で大きな違いがある。

やはり値段が高くて日本製がよく売れることがわかった。そして日本のトヨタは、2ドアしか認めていなくて、タイのトヨタが勝手に4ドアに改造して売ってるのでこのようになるとか。そのような話を聞いた。

ph, 「染める」 **c, ;** 「猫」 **Okp** 「売る」

なお富田先生の日タイ辞典によると「この言い方は、すでに処女を失った娘を両親が生娘であるように相手に信じこませて結婚させるような時に用いる事が多い。」との説明がある。

(3 7 4) d; f 0ḡspNxd0ḡ, k (クワット・キニユア・ホック・キマ-

d; f 「調べる、掃除して掃く」 0ḡspN 「ゴミ」

xq 「隠す覆いかぶせる」 0ḡ, k 「犬のうんち」

これは「臭いものに蓋」とでもいうのだろうか。「ゴミを掃いて、犬のウンコの上に置いて、汚いものが見えないようにする」という意味である。

例えば、ラオスのあるホテルに泊まった日本人の女の子3人が、夜寝ている時に、睡眠薬をまかれて、その間に貴重品・現金をとられる事件があった。窓の縁のところに泥棒のものと思われる足跡があったのだが、掃除のおばさんが翌朝拭いてしまって証拠がなくな

った。その時支配人を呼んで「d; f 0ḡspNxd0ḡ, k [ḡ] と問い詰めれば良かったのに、残念ながらその当時、この言い回しを知らなかったのが残念である。外部から人が侵入したことが明らかにわかる足跡が窓枠のところに付いているのに（ようするに内部の犯行と明らかにわかっているのに）それを隠そうとする支配人は、まさに「d; f 0ḡspNxd0ḡ, k」ではないだろうか。

それから、昔パクセに仕事で行った時も、睡眠薬みたいな薬をまかれて、寝こんだすきに泥棒にはいられてテレビなど盗まれた話を聞いたことがある。

(3 7 5) . [w ḡkpgxəḡ (バイ マイ カイ パン グン)

「金にかわる、木の葉っぱ」

これは昔、東北タイの人がビエンチャンのことをこのように呼んでいた。そしてそのころはたくさんのタイ人が土地を求めて、ラオスに移住してきた。当時はタゴンのあたりは、森に覆われていて新しく来たひととも開墾して自分の田にできたらしい。

タゴン、ナーサーイなど東北タイから移住してきてそのまま住み着いた人が作った村も、ビエンチャン周辺にはいくつもある。したがって彼らのしゃべる言葉も東北タイ訛りである。例えば「蜂」はラオス語で ḡḡ であるが、タイ語では zB になる。東北タイ出身の人にこの発音をさせた時に、タイ語の発音をした。

いまでは東北タイのほうが経済的には繁栄しているが、昔は

ビエンチャンが東北タイの人にとって、憧れの土地だった。ラオスのキップもノンカイ、ナコンパノム、ムクダハンなどのメコン川対岸の都市では使う事ができた。交換レートも、昔は1バーツ4キップくらいで、今のように1バーツ40キップとかの高いレートではなかった。(1998年6月現在では、1キップが85バーツになってしまった)

・ [w h 木の葉っぱ] dkpgæ 「にかわる」 gɔy 「お金」

(376), W (ミーサイ)

これは、ラオス語で「勝利」という意味である。協力隊員のあるひとが駒ヶ根訓練所のラオス語の先生にこの「ミーサイ」というニックネームをつけてもらった。彼が健康診断でウドン・タニーに行った時の話である。タイの女の子に名前をきかれた彼は「ミーサイ」と答えたところ爆笑されたらしい。彼の話によるとこれは、タイのコンドームの商品名らしい。もっとも本当のタイ語は「ミーチャイ」とラオス語の「S」の発音が「CH」になるのだが。日本に来たアメリカ人が「私の名前は岡本理研です」といってるようなものである。駒ヶ根訓練所のラオス人の先生もまさかここまで知らないで彼にラオス語のニック・ネームをつけたのだろう。

その後、富田先生のタイ日辞典を見てみると、タイの育児制限に努力した医師、, w ; utw spt 氏の名前に因んでつけられた俗語との説明がのっていた。

ニックネームでは、三浦悟(さとる)さんという男性の隊員がいた。彼の名前をラオス人が言うと(サットルー)という発音になり、これは l f8i 6 (サットウー)「敵」という発音に似ているので、彼はラオス語のニックネームを、使っていた。

(377) タイ語

基本的にはラオスではタイ語も通じますが、あまり使わない方がいいでしょう。やはりラオス語を使ってください。

タイ語で「何」は「アライ」です。名前は「チュー」です。昔、ドリフターズにいた荒井注がタイに遊びに行った時の話である。タイ人が「チュー アライ？」と名前をたずねたので「アライ チュー」とこたえたとか。

また coffee cup をさして、「これは何ですか」タイ語で

「アライ クラップ？」と聞くと

「コーヒー カップ カップ」とこたえる。最初のカップは「コーヒーカップ」の「カップ」である。2番目の「カップ」は本当は「クラップ」が正しいのだが、ラオス人は「R」の音を発音しないので冗談で「カップ」を2回、続けて言ったのである。

また女の子のオッパイを指差して「アライカップ？」というと「Aカップ」と答える冗談もある。これは、「ブラジャーのサイズがなにですか？」というしゃれである。「クラップ」はタイ語の敬語で男性の言葉である。正確には「K H R A P」の発音になるのだが、ラオス人には「R」の発音が難しく、「K H A P」の発音になってしまう。

(3 7 8), k]kC4hp , k]Ps, h

(マ-ラ-ンク・トウアイ) (マ-リア・モ-)

, k「来る」]kC「洗う」 4hp「どんぶり」

]P「舐める」 S, h 鍋

パーティーなどで遅れて来た人に「お皿を洗いに来たの？」
「もう料理は残ってないよ」という意味である。しかし2番目のは冗談で偉い人に言うと怒られる。「鍋を舐めに来る」は遅くなったからもう料理はありません鍋の底に少し残っている。でも鍋を舐めるなんて犬がやること。したがって遅れてきた人を犬畜生よばわりしているわけだ。ラオス人は犬よばわりされると怒るので気をつけてください。

(3 7 9) タイ語とラオス語の違い

前項でタイ語の男性の敬語にあたる「K H R A P」について説明した。ここでさらに面白い話の付け足し。ラオス人はこの「R」の音がうまくだせない。タイ語と同じラオス語でも「R」の音が抜けてしまう。例えばラオス語では「xtgnf]k;」だがタイ語の発音をラオス語で書くと（実際のタイ語のスペルは違うが）「xitgnf]k;」と同じ単語でも「R」の音はいる。

さてラオス語の 7h であるが「狭い」という意味である。「K H A

P」と発音記号で書けると思う。これにルビをふると「カップ」になる。

タイ語もこの「狭い」は「カップ」になる。

タイ人がラオス人の家に遊びに来た時の話

ラオス人「私の家に、どうぞ上がってください」

タイ人「ハイ、ハイ (K H R A P)」

ラオス人「私の家は、狭くないですよ」

ラオス人はタイ語の「ハイ」という返事を「狭い」と聞き間違えたわけである。ラオス人にタイ語でしゃべると、あまりいい顔されません。やはりその土地の言葉でしゃべりましょう。

(3 8 0) **s, kd, ksepk;** (マ-ク・マ-・ム・ニャ-オ)

s, kd「果物・野菜などの言葉の接頭語になる」

, **k**「馬」 **se**「キンタマ」 **pk;**「長い」

ナスビの形が馬の「キンタマ」に似ているのでこのようにいうそうである。たしかに馬の金玉も長く垂れ下がっている。

(3 8 1) **dygrjgfu** (マ-ン・プ-ア・デ-・ド-ウ)

dy「食べる 飲む」 **grj**「 のために」 **gfu** 言葉、
会話の最後につけてーしてねという感じの意味がでる」

例えば、みんなで生ビールを飲みに行こうと思って、友達を誘ったところ彼は、残念な事にこれから仕事。そんな時に、誘われた方はこのフレーズを言います。「私のぶんも飲んで来てね」という感じですよ。今回は私は一緒に行かれないけれど、皆様ごゆっくり。

(3 8 2) **c, p.zxkd, kl** (マ-ン・パ-イ・パ-ク・マ-)

c, p.z「誰が」 **xkd**「しゃべる」 , **k**「来る」

xkds, k「犬の口」「口が悪い 言葉使いが粗野な 下品な」

電話を取って「どちらさまでですか？」という場合、このようにいう

のだが、ルアンパングの人が電話をとって言うと **xkd, k** ではなくて **xkds, k** のように聞こえる。しかしこの **xkds, k** は、

「他人を困らせたり傷つけたりすることが好きな」という意味である。それで電話をかけてきたパクセの人が誤解して怒って「こっちはちゃんと言っているのに、向うは罵るのだから」というラオス語をパクセ訛りで言ったとか。そのこたえが、

g [ʔ] [m] [t] [f] k (ワオ・ディー・ディー・カダ-) である。これは正しいビエンチャンの言い方であるが、パクセの人はビエンチャンの D の発音が L になってしまい、逆にビエンチャンの L の発音が D になってしまう。従って以下のように言ってしまったとか。

g [ʔ] [m] [t]] k (ワオ・リー・リー・カラー)

g [ʔ] 「言う」 **fu** 「いい」 **dt** 「強調の助詞」 **fk** 「罵る」

パクセの人がルアンパバンの人に電話してこのように言われてパクセの人が勘違いして喧嘩になったという笑い話である。

ルアンパバンは昔の王都であり、日本の京都にあたる。彼らの発音は、耳にやさしく優雅であり、ルアンパバン出身の人はビエンチャンに何年住んでいようが、自分たちの言葉に誇りをもっていてビエンチャンのアクセントに変えようとしらない人が多い。

逆にパクセの人の発音は荒々しく聞こえる。昔映画の吹き替えで正義の味方ヒーローの発音は、ビエンチャンのアクセント。ヒロインはルアンパバンのアクセント。そして悪役はパクセのアクセントだったとかである。パクセ出身の人が残念だとかぼしていた。

(3 8 3) **shCoE** **oElho**

(ホグ・ナム) (ナム・ホーン)

shC 「部屋」 **oE** 「水」

shCoE 「水の部屋トイレ または水浴びする部屋」

oElho 「あつのお水 いわゆるお湯」

これは実際にあった話で、協力隊隊員が「お便所はどこか？」とたずねたつもりが、間違えて「ナム ホーン」といってしまったので、お店の人がお湯を持って来た。

(3 8 4) **wjptnkCry6, k dkog]kry67q**

(ラ・ターグ・ピスト・マー) (カ・ツ・ウエー・ピスト・コン)

wjpt「間隔 間」 **mkC**「道 道路」 **wjptnkC**「距離」
ry6「証明する」, **k**「馬」 **dkog]k**「時間」
7q「人」

馬は一日に、どの位の距離を走れるかによってその実力が、証明される。人間は時間をかけて付き合ってみれば、その人の性格・人柄がわかるものである。初めて会った時に、色々と甘いことをいっても、時間がたてばそれが本当か、嘘かわかってくる。また過去を振り返ってみれば、そのひとがどんな人かわかるものである。したがって、一時の甘い言葉では、人を評価してはいけない。

ここで冗談に、この諺の後に

7; k, pk; c]tc0Cry6zBkp

(ク・ム・ニャ・オ・レ・ケグ・ピスト・プー・サイ) などと言うとラオス人にはうけるかもしれない。

7; k, pk;「長さ」 **c]t**「と」 **c0C**「硬さ」 **zBkp**「男」

「長さと硬さが、男の証明」またまたエッチで御免なさい。

(3 8 5) **mkCovdCk, mkC.o7n, kdgfj**

(ターグ・ノク・ガム・ターグ・ナイ・ケー・マーク・ドゥア)

mkCovd「外側」 **mkC.o**「中身」 **Ck,**「きれい」

7n「 みたい」 **s, kdgfj**「イチジク」

きれいなのは外側だけで、内側はイチジクみたいにきたない。「マーク・ドゥア」は「イチジク」で外見はきれいだけでも中身はグジャグジャできたない。女の人と同じで、顔はきれいだけでも心が悪い人、性格の悪い人がいっぱいいます。**mkgfj**(タードゥア)は昔、**s, kdgfj**がいっぱいあったので「イチジクの港」という名前になったそうです。やはり顔もきれいで、心もきれいな女性は日本でもラオスでも本当に少ないのでしょうか。ところで、革命前のタードゥアの中国人で、ノンカーイのタイ人の学校にかよっていた人を知

っています。昔は行き来が今よりやさしくて、便利だったようです。

(386) **Ck, c8pvd96** [sv,

(ガ-ム・テ-・ノク・チューブ・ホ-・ホ-ム)

c8j 「だけ」 **96** 「キスする」

[sv, 「綺麗な、いい香いがしない」

「きれいなのは外見だけで、キスしてもいい香いがしない。」これも前項と同じ意味であります。

(387) **dyg001 16ko, k** (キ-材-ユ-バ-ツ-マ-)

「ご飯を家で食べて来たから」

ラオスの習慣で挨拶かわりによく「ご飯をたべましたか」ということがある。これはたまたま彼らが食事している時に遭遇して、相手から一緒に食べましょうとすすめられたら、わたしの経験ではよっぽど親しい関係でない限り断った方がいいと思う。あいても礼儀として「一緒に食べましょう」といってるので、その時はラオス語で、「ご飯を家で食べて来たから」といって遠慮すればいいのである。

ラオス人はご飯を食べている時に、誰かが来たら「一緒に食べましょう」とすすめるのが、かれらの礼儀である。そして日本人なら食事時に、訪問しないのが礼儀である。またこのほかに「お腹がいっぱいです」といってもいいであろう。

dyg001 「ご飯を食べる」 **16ko** 「家で」 , **k** 「来た」

(388) , **sk9kpl y** (ミ-ル-チャイ-シップ)

, **u** ある 持ってる」 **sk** 「5」 **9kp** 「払う」

ly 「10」

これはラオス人の性格を表わすもので「江戸子は宵越しの金をもたない」というように、ラオス人も5持っていれば、10払ってしまいうくらい太っ腹だということで儉約しない。

(389) **gt/ɸ** (テ-ツ)

gt 「蹴る」 / **ɸ** 「ほこり」

これは「ほこりを蹴飛ばす」ようするにやることがなくて失業して暇なこと。

(390) **3, C8kpc]h** **3, Covoc]h**

(モ-ツグ・ターイ・レオ) (モ-ツグ・ノ-ソ・レオ)

これは「時計が死んだ」「時計が眠ってしまった」と直訳できるのだがこれは「時計が壊れて動かなくなった」ということである。

8kp や **ovo** といった「死ぬ」「寝る」といった基本的な単語でも上の例文のように使えるのである。会社が倒産したといういいか

たも **[ɰyɰ8kpc]h** 「会社が死んだ」というように言えば「会社が倒産した」という意味になる。しかしこのような言い方をすると幼稚ないいかたなのか笑われたので、やはりちゃんとし単語を使ったほうがいいだろう。 **]Q]t]kp**(ロム・ラーイ)「倒産する」

(391) **g]dg8k** 「67」「27」(レ-ク・タ)

亀の番号です。ラオスで動物によっていろいろ番号があって亀の番号は「67」と「27」である。この関係は表みたいなのが売られていて、猿の番号はいくつだとか、豚は何番だとかその表に書いてある。そして例えば夢で猿がでてきたら猿の番号の宝くじをかうと当たるといふ。

しかしこの亀の番号は不吉な番号で、亀番号のくじがあっても、お金をもらったあと車が事故にあったり、火事になったり悪いことがあると言われている。

私が華僑の妻と結婚する前に、サラワンで陸亀をお土産に買ってきた。しかし妻の家族に、亀を料理して食べるなど不吉で駄目だと怒られた。しかたがないので夕方2人でメコン川に行って放してきた。その時線香をたいてお祈りさせられた。しかしタイ人など蒸して食べるとおいしいらしくて高い値段で取り引きされるらしい。

ラオスの仏教では犬とヘビも食べてはいけないらしいが、ベトナム人は好きである。75年の開放後、たくさんのベトナム人の兵隊がビエンチャンに来て、その時に犬を食べることがラオスにもひろまったという。しかし妻にいわせると、犬を食べると犬の肉の臭いが体にしみついて、犬に吠えられるとか。だからうちにいつも来るサムローの兄ちゃんが、我が家の愛犬に吠えられるのは、彼が犬肉を

愛食していて臭いが体にしみついていて、家の犬が他の犬が自分の縄張りに入って来たとかと誤解するからであるとか。

また妊娠している時に、牛を殺してさばいたり、蛇を殺したり、生きている魚をさばいたりすると、生まれてくる子供が死んだ牛みたいな顔になる、といわれてラオス人は嫌っている。また妊娠している女性が例えば太った女の人を見て、「デブだと」冷やかしてはいけない。このようなことをすると今度は生まれてくる自分の子供がそのように太った子になるという。妊娠期間は可愛い赤ちゃんの写真を壁に貼っておく。そして毎日見ていると、生まれて来る子供もそのように可愛くなるという。桜ちゃんの時も妻は赤ちゃんの写真を貼って、毎日見ていたけれども、御利益はあったかどうか。

(392) **8kp. l, kL**(タイ・サイ・マー)

これは **w. l, kL**(パイ・サイ・マー) が普通のいいかたである。

「どこに行ってきましたか？」という疑問文であるが、ラオス語ではこれが挨拶がわりに使われる。最初、慣れないといちいちどこに行ってきたとか答えるのが面倒臭かったが、これはあくまでも挨拶と考えて **w&tskf, k**(パイ・タラード・マー) 「市場に行ってきた」とか適当に答えておけばいいのである。あいても警察の尋問みたいに、いちいち詮索していかないのだから市場とか友人の家とか適当に答えておけばいいのである。

しかし最初は **w. l** 「どこにいくのですか？」という質問に苛々したものだ。隊員も同じような経験を持つ人が多いと思う。沖縄の民謡に「はいさいおじさん」というのがあるがラオスの場合「パイサイ」である。さてこの(タイサイマー)であるが **8kp** は「死ぬ」という意味。これはすごく汚いいいかたで普通は(パイサイマー)であるがこれは「どこへ行って来たんだ、この野郎」といった感じである。

例えば、酔っ払って遅く帰って来た旦那さんに対して奥さんが「どこほっき回ってんだ」というような感じで罵る時に言います。これは(パイ)と(ターイ)が音が同じになっていてシャレみたいなものです。しかし非常にに下品なので隊員はくれぐれも言わないように。

(3 9 3) **dy9ts] ; f** (キソ・チャルアツド)

9ts] ; f 「ロケット」みたいに食べる。ようするに「あわてててがつがつ食べる、早飯する事」である。速いものの代名詞でこの「ロケット」が使われている。ラオスに在来、昔からあるものではこれが一番スピードがある。これは雨乞いのお祭り「ロケット祭り」に使われるものであり、アメリカの宇宙開発のNASAの打ち上げるものではない。「ぱっと飛び出して行く」は「**wx9ts] ; f**」になる。

日本だと「新幹線のように」とかエイト・マンの漫画の歌みたいに「玉よりも速く」といった言い方になるだろう。

(3 9 4) **de0fdj kde8q** (カム・キー・ディー・クア・カム・トット)

de 「つかむ」

0U 「うんこ」

fdj k 「のほうがいい」

8q 「オナラ」

「糞を掴むほうが、オナラを掴む方よりいい」これはオナラを掴んでも気体（ガス）なので飛んでいって逃げてしまう。実体が掴めない。それなら糞を掴んだほうが、捕らえることができるのでまだましである。

例えば商売で、100万円の売り上げがあった。ところが買い手の手形が不渡りになって10万円とオンボロのバイクしか回収できなかった。これでは実際に損したわけだが、全額踏み倒されるより（オナラを掴むより）は、すこしでもいいから戻って来る方がましである。こういった表現は直截的でラオス人らしい言い方である。

(3 9 5)

dy7n, ; dy7n, 6 dy7n, k

(キソ・ケー・材) (キソ・ケー・ム) (キソ・ケー・マ)

まず、最初の「猫のように食べる」これは猫は少食なのであまりご飯を食べない人の事をいう。次の「豚のように食べる」これは、豚は大食なので豚のようにガツガツ大食いすることである。最後は「犬のように食べる」これは、犬はお行儀が悪くてご飯をたべちら

かす。したがって食事のお行儀が悪い人のことをいう。
人を動物に喩えているのは、ラオス人が嫌うことなので（特に犬の
場合）従って絶対に言うてはいけない。

dy「食べる」 **7n**「みたい」 **C, ;**「猫」
s, 6「豚」 **s, k**「犬」

この他に **sokc, ;** (ナ・マ) というのがある。これは「猫の顔」と
いうことであるが、これは「顔が汚れていること」である。猫の顔
は三毛猫だと色が3色もあり、汚れているように見える。したがっ
てこのように言うのである。 **sok**「顔」 **C, ;**「猫」

(396) [**+g nCr** (ホー・ミ・ムアング・ホー)]

[**+u**「がない」 **g nC**「国 郡」 **r**≡満足する」
「満足の国はない。」

人間の欲望は限りなく、とどまるところを知らない。奥さんがで
きれば次にはお妾さんが欲しくなる。そのうち1人で満足できなく
なり、もっと若くてピチピチした二番目の妾が欲しくなる。人間の
欲望とは、本当に怖いものである。

(397) **Ohp] nC** **g9k9kp**

(コイ・リアング・チャオ・チャイ)

Ohp] P6「わたしが奢ります」 **g9k9kp**「あなたが払ってくださ
い」これは冗談でこの2つのフレーズをくっつけたものである。要
するに「奢ってちょうだい」ということである。

(398) 森田さん

森田さんという日本人の女性の家に遊びに行った。家の前で
「森田さーん」と声を伸ばして呼んだら、近所の人が急に笑い出し
た。仏教でお寺のお経が「ナーモーターサー」というフレーズで始
まるのだが、日本語で「森田さーん」と呼んだのを
ラオス人が聞き間違えて「ナーモーターサー」とお経を言ってるの
だと勘違いしたのだ。

ちなみに森田さん（現在は牛丸さん）は平成4年2次隊タゴンの

保健婦隊員だった。旦那さんもルアンプラバンの稲作隊員でラオス協力隊再開後の隊員同志のはじめてのカップルである。

(3 9 9)

, **d-ɧkp** (マク・シ・ターイ) **1kd-ɧkp** (ヤク・シ・ターイ)

1ko-ɧkp (ヤン・シ・ターイ) **sy-ɧkp** (ヒウ・シ・ターイ)

, **d**「好き」 **1kd**「欲しい」 **1ko**「怖い」 **sy**「空腹だ」

-**y** 未来形をしめす助詞」 **ɧkp**「死ぬ」 -**ɧkp**「死ぬほど」

したがってそれぞれ「死ぬほど好き」「死ぬほど欲しい」「死ぬほど怖い」「死ぬほど腹減った、おなかがペコペコだ」という意味ですが、これらの言いかたは下品なのでお腹がすいた時は、

syg0ɧkp といってください。

(4 0 0)

zɧkpgæ-kC0ksok **zɧɣgæ-kC0ksɛ**

(プーサイ・ペン・サンク・カー・ナー) (プーニグ・ペン・サンク・カー・ラング)

夫唱婦随のことである。「男性は象の前足で女性は後足」象が歩く時、必ず前足から一步を踏み出す。後足はその後に従ってついて行くだけなのでこの言葉ができた。女性が強そうなラオスの社会だけでも実際は「男性社会」だと思う。

zɧkp「男性」 **gæ**「である」 -**kC**「象」 **0k**「脚」

sok「前」 **zɧɣ**「女性」 **sɛ**「後」

zɧɣ[+sh]ɣdkog nC **zɧɣnC[+sh]ɣdko [ko**

(プーニグ・ホー・ハイ・リン・カンムアング) (プーラング・ホー・ハイ・リン・カンバーン)

zɧɣ「女性」 **[+sh]**「をさせない」 **s]ɣ**「遊ぶ、する」

dkog nC「政治」 **zɧɣnC**「黄色い人、御坊さんのこと」

彼らは黄色い袈裟を着ているのでこのように言う。

dko [ko「家の事」これが普通の意味であるが、学校の生徒の場合には「宿題」という意味になる。しかしエッチな意味で「お前、家に

帰って **dko** [**ko**] した？」というように聞かれると、オマンコしましたか？という意味になる。要するにこれも「家の仕事」であるからだ。

「女性には政治に手を出させない」「御坊さんには、家事をさせてはならない」という意味である。

ちなみに、この御坊さんの袈裟を染めているのは「ウコン」という生姜の一種のものであり、薬にも使えるし、防虫の役目もするので袈裟を付けた御坊さんは蚊に刺されないという。わたしはこの「ウコン」を最初知らなくて、聞いた時「ウンコ」と勘違いした。

(401) **3lfc8j1q** (ソド・テ・ホー・ソド)

3lf「独身」 **c8j**「だけど」 **1q**「新鮮、この場合処女」
これは「独身だけど処女でない」という意味である。

母音の発音が「**3V**」と「**Vq**」で良く似ているので間違えないようにしないとイケない。このような楽しい例文を使ってラオス語の勉強をすると、面白くない発音の練習が楽しくなる。筆者はただ馬鹿みたいにエッチな単語を書いているだけではないことを読者に理解してもらいたいのだ。これをある日本人の女性が、言ってそれを聞いていたラオス人に、あわててたしなめられていた。

(402) **C-[1β-プ・1-)**

C-[1E(おいしいですか?)と質問されたら「おいしいです」というのが **C-[**である。「たいへんおいしい」が **C-[skp** である。

これを **C-[1β** と言うと、**[e-[xko.f**「あまりおいしくない」という意味になる。**1β**がついただけで100%満足の気持ちをあらわさなくなる。これと同じで、**f1β** になると「まあまあいいんだけど」
.**-hf1β** 使ってみて、使えなくはないけれども」といった感じのニュアンスがでてくる。従って日本料理をラオス人のお客さんにだしてみても、おいしいかどうかきいてみてこの答えが返ってきたら「不味くはないんだけど、食べられなくはないんだけど」といった意

味であるので。

また日本人もこの **C- [1β]** の意味を間違えて理解している人もいるので注意しないといけない。

(4 0 3) **3, C1kCpñ** (モーグ・ヤング・ニュート)

3, C 「時計、時間」 **1kC** 「ゴム」 **pñ** 「伸びる」

ということで、「時計の時間がゴムのように伸びる」という意味である。例えば12時にラオス人と待ち合わせしても、実際にやって来るのは1時過ぎになったりする。これがいわゆる「ラオス時間」というものである。時間にルーズなラオス人を表わしている。私の妻は「モーソ・ロシア」といって時間に遅れるのを「ロシア時間」としていた。ロシア人が時間にルーズなのかわたしは知らないが、このような表現はインドネシア語にもある。「ジャム・カレッツ」という直訳すれば「ゴム時間」でラオス語と同じ意味であるとか。

また「暇をつぶす」というのを **Okg]k** (カウエラ-) と言う。

Ok 「殺す」 **g]k** 「時間」という意味である。したがってラオスのお役所ではよく時間が殺されているようである。

こういったお役所で、どのように暇、時間をつぶしたらいいだろうか？ 仕事がなく困っている隊員にとって大変な問題である。いい方法としては、紙に「暇」という文字を書いて、丸めてからそれをボールペンの先で何度も、つぶしていく。10分ほど紙をつぶしてから、中をひらいて見ると「暇」と書いた文字もきれいにつぶれて無くなっている。また腕時計をたたいて「時間つぶし」と言ってみてもよい。

しかし或る隊員がラオス人にとって一番楽しい時間は、お役所に来て、なにもしないで友達とおしゃべりしている時が一番ではないのだろうか、とのことだ。これは隊員ならよくわかることである。

(4 0 4) A HAPPY NEW YEAR

「新年あけまして、おめでとうございます」英語ではこのように言うのだが、このごろラオス人も会話の中でも英語が多く使われるようになった。冗談で「YEAR」といわないで「**gp**」と言うと

面白いジョークになる。「新年あけまして、おめでとうございます」の意味が「新しい奥さん、おめでとう」になる。「YEAR」の発音が **gp** の発音と「イア」の部分が同じ発音になってシャレになっているのだ。

(405) **lQ3v** (ツム オ-)

これはミカンの大きなもの、八朔みたいな大きさのもので、タイで作られている。従ってタイ語では「ソムオー」になる。しかしこのタイ語は、ルアンパバン出身のラオス人が言うのには、

s, kdɔ̃t. spj (マーク・キグ・ニャイ) 「大きなミカン」とラオス語でい

うべきである。何故なら、**lQ** は「酸っぱい」**3v** 「ルアンパバンの言い方で、文末につけて言葉の調子をやわらかくする」

したがってルアンパバンはかつての王都、したがって日本では京言葉にあたるので「ソムオー」の発音は彼らにとって「酸っぱいどっせ」といった意味になる。従って「酸っぱいミカン」なんて誰が食べるのか、ということで別の意味になる。だから **s, kdɔ̃t. spj** というべきである。

私も「ソムオー」というべきか「マークキアングニャイ」と言うべきかわからないが、とにかくタイ製品がラオスにたくさん輸入されるとこういうことがおきる。

(406) **g, kdɔ̃t** (セマーケーテ)

これは「セマーケーテ」という発音になる。この音は「狭くて」という日本語に似ている。

g 「酔払って千鳥足になっている状態をあらわす」

, **k** 「来る」 **d6** 「俺」 **ɔ̃t** 「蹴る」

ということで「酔払って千鳥足になって俺は蹴る」というなんだか文の意味は支離滅裂でよくわからないが、日本語を勉強したことのないラオス人でもこのフレーズは、意味はわからないが知っている。したがって「ありがとう」「さよなら」の他にいきなりこの「セマクテ」を言ってくる輩もいる。

(407) **oɔ̃t** (ノツ)

これは手をあわせて、挨拶する時にラオス人がやる習慣で、目上の人、偉い人には両手の位置が高くなる。実はこの前家の前の道で犬が車にひかれて死んだ。その死んだ現場を目撃したので可哀相に思い、思わず両手を合わせてしまった。日本人だと、このような時に思わず手を合わせると思う。

私は別に仏教徒でもないが、可哀相と思った瞬間、無意識にそのような行為・動作がでたのである。

これを前の金屋のおばさんが見ていた。そして「焼き飯屋の娘婿さんは、気がふれたのではないか」とビックリしたらしい。

要するに、犬畜生が死んだごときでそれにノックするのはおかしい。これは頭のおかしい人がやることである。

その後、うちの使用人に冗談でノックしたら、妻に怒られた。

「使用人の分際にならぬとは何事だ」というわけである。これは実験であるが、妻が怒るのは予期していたことであるが。

日本にいた時家の近所に犬のお墓があったのを、覚えている。たしか「KOROちゃんのお墓」とか書いてあった。きっと飼い主が死んだ犬のことを、可哀相に思って弔ってやったのだろう。

道のわきにお墓があったので、きっと飛び出して車にはねられたのだろう。飼い主だった人は、きっとお墓の前で手を合わせて犬の冥福を祈っているのだろう。

ラオスの犬は日本の犬ほど大事にされない。そして日本人とラオス人の犬に対する気持ちは違っている。

「ラオスには忠犬八公みたいな犬はいないんです」と友達のヨンさんが言った。ヨンさんは、日本に留学して日本で働いたことがあるタイ人で現在、ビエンチャンに住んでいる。

(408) **7kox**(カンパイ)

お酒を飲む時、日本人ならグラスを合わせて「乾杯」ということになる。この時日本語の発音は「乾杯」となる。これが中国語だと漢字で書くと同じだろうが、発音は「カンペイ」という発音になるようだ。ラオス人が日本語の「乾杯」の発音を聞くと **7kox** とい

う発音に聞こえるらしい。これは **7ko** は「四つ足で這って歩く」という意味である。したがって「赤ちゃんが這い這いをしている」という意味になる。要するに「乾杯してお酒をたくさん飲んで2本の足で歩けなくなるまで飲みましょう」冗談でそのようにうけとれ

るのだ。

ちなみにラオス語で「乾杯」は **8e9vd** (タム・チョーク) である。**8e** は「ぶつかる」、**9vd** は「コップ」である。ほかの言い方として、**lɔ̀trk[** (スッカ・パーブ) 「健康のため」、**gɔ̀pɔ̀d** (アオ・ニョク) 「グラスをあげて」などの言い方がある。

(409) **ly**(シウ)

これは「ニキビ」である。しかしこれをルアンパバンの女性が発すると **l** の発音は高子音なので上昇音になるのがビエンチャンの発音なのだが、ルアンパバンの発音は Falling する声調になる。このルアンパバンの発音を聞いて、**oE-u** 「お醤油」(シ-1-)だと勘違いした隊員がいた。かれはパクセの隊員だったがパクセもルアンパバンも声調が全然違うので聞き間違えたのだろう。**ly** は「ニキビ」で **u** (シ-1-) は「吹き出物」である。

(410) -**vɔ̀** **xk, k**(シ パイ パー マー)

-**vɔ̀** 「肉」 **vɔ̀** 「行く」 **xk** 「魚」 , **k** 「来る」

「肉が行って、魚が来る」このように直訳できる。隣の人に肉を差し入れであげると、お返しに魚が返ってくる。この諺は「他人に親切にするとお返しがある」ということで「この世の中はお互いに助け合って生きていかなければいけない」したがって私があなたを助けるのならあなたも私になにかしてください」ということである。もしラオス人に何か物をねだられたら、こういってやればいい。

(411) アン・クッカー

これはラオス人が赤ちゃんを抱っこしてあやす時に言う言葉で、とりたてて意味はないのだが「アッパーバー」という様なニュアンスになるのであろう。桜ちゃん(私の娘)が生まれて家族が娘をあやす時によく「アンクッカー」と言ってあやしている。したがって

赤ちゃんが最初に覚えるのもこの言葉だとか。これはラオス語か中国語がよくわからない。

(4 1 2)]vCvqg]f (ロ-ン・私・ブ-ン)

vqはルアンパバンの方言で「値切る」という意味である。

しかし、ビエンチャンの言葉では「口に含む」という意味である。

]vC g]f は「 してみる」という意味である。

昔、アメリカの兵隊がルアンパバンの市場でサンダルを買った時の笑い話である。兵隊さんは売り手のおばさんに値段を聞いたら、このように言われて怒ったとか。彼はサンダルの値段を聞いたのに「口に含んでみなさい」といわれたと勘違いしたのだ。おばさんが言った意味は「あなたはいくらで買いますか？値切ってみてください」といったのだ。それを兵隊は勘違いしたのである。

(4 1 3) 8kOk; (ター・カオ)

これは馬鹿にする言葉である。「ターカオ」といえば馬鹿・アホという罵りになる。8k「目」、Ok;「白い」という意味で「ターカオ」で「目が白い」になる。「目が白い」というのは「盲目の人」「黒目のない人」で、そんな人は物が見えない、物事がわからない馬鹿という意味になる。この「ターカオ」はかなりキツイ言い方である。

3j(ゴ-)という単語もその意味は「馬鹿」であるが日本人の名前の「郷」と同じ発音である。これは松田聖子の昔の恋人だった歌手の「郷ひろみ」の「郷」である。昔、革命前の協力隊員で「郷」さんがいたそうである。その人は名字ではなくて名前を名乗っていたとか。

(4 1 4) grjo zq

(プ-アン プ-ア)

(プ-アン)が「友達」 (プ-ア)が「旦那・亭主」という意味である。ある日、配属先の水道局に電話があり妻が「協力隊OGのMさんの旦那さんがタイから遊びに来ている」との連絡があった。

「たしかMさんはまだ独身であったのにいつ結婚したのだろうか」

とそう思って家に帰って本人に会ってみると、旦那さんではなくて友達の間違いであった。

彼の話すタイ語が不明瞭であったので、私の妻が勘違いしたのである。この2つの単語もきっちり発音できるように練習してみよう。

(4 1 5) **glɔ̌wm glɔ̌k;**

(材・タイ) (材・ヲ)

これは、結婚式の髪のかい方のスタイルである。ラオスはちょうど日本のお相撲さんがちょん髷を結うようにオール・バックにして頭のとっぺんで結い上げている髪型で、これはラオスの結婚式でもよく見られる。こうすると花嫁さんの顔がどの人も皆同じに見えてきて誰が一番美人かよくわからないから不思議である。だからこの髪型がいいのかもかもしれない。

「カオ・タイ」は前髪・横髪を全部後にもってこなくて自然の普通のヘアー・スタイルを残している。したがってその分だけ頭のとっぺんの結い上げが小さくなる。ラオスでもタイ人の経営する店があり「カオタイ」で結婚式をする女の子もいる。

(4 1 6) **vksko 8k**(アハ・ター)

これは直訳すると「目のごはん」である。要するにエロ本やかわいい女の子のヌード写真を見るところである。お腹がすくとご飯をたべたくなるが、目も時々おいしいご飯が食べたくなる。日本語では「目の保養」ともいう。

vksko 「食事、料理」 **8k** 「目」

(4 1 7) **wɔ̌dtg|uɔ̌**(パイ・カル)

これはサムヌアの方言で「どこに行きますか？」である。ピエンチャンでは、**wɔ̌.l** (パイサイ) であるが地方によって色々な言い方がある。調べてみるとおもしろいかもしれない。

(4 1 8) **8h**(トイ)

これは「太っている」という意味である。ラオス人はニック・ネームで「デブ」「ちび」「痩せ」などと人にあだ名をつけて

いる。ただしこれも言い方によって意味が変わってくる。

8ɸMと2回続けて言えばこれはすごくかわいらしいニュアンスになるという。逆に **8ɸs kp** といえ、馬鹿にしているようになる。同じ言葉でも言い方により意味が違ってくるので気をつけていわないといけない。

(419) [**dɪk**, **ɸgyp8kp-t**

(バック・ル・ムン・ウイ・ターイ・サ)

「このばか野郎、死んじまえ」

[**d**「同等、年下の男の名に冠してもちいる やん」例えば
太

っている人 **8ɸ** さんなら [**d8ɸ** になる。しかしこれは偉い人、
目上の人を呼ぶ時には使ってはいけない。 [**d** の女性版が **vu** であ
る。

ɪk「コレラ ペストなどの疫病を流行らせると信じられている幽霊
の一群」、**ɸ**「おまえ」これは女性同士でも使います。兄弟などで使
っている。したがて、私も夫婦の会話でこれを使ってもいいと思っ
て妻に言ったら、「そんな言い方をしないでくれと妻に怒られた。」
ラオスでは、夫婦はあくまでも対等であるので、このような言い方
をすると必ず夫婦喧嘩のもとになる。日本では夫が妻に「おい、お
前」なんて言っているが、ラオスでこのように言ってはいけない。

gyp「ね」「よ」といった感じで会話の最後につける。

8kpl t「死ね」

それから、失礼な言い方で、

[**g00 9dt8kpl k**(ボ・カチャイ・カターイ・サ) というのがある。

[**g00 9**「わからない、理解できない」 **dt**「強めの助詞」文語

では **d**(ソコ) を持ちいるようだが、会話のなかだと (カ) になると
ことが多いようだ。ところで **d**と **d**世意味が違うのに **d**の意味で **d+**

を使う人が多いと思う。新聞でさえ間違っているのだからなさないのだが。

dは先にも書いたが強め、強調の意味の助詞であり、**d**世「作る」という意味の動詞だと思うのだが、**d+hC**(コー・サーン)「建設する」

しかし何故このように無茶苦茶になっているかということ、どちらでもいいのではないか、地方によって発音がちがうので、人によってまちまちなので、皆学校で教わったスペルでラオス語を書くのではなくて、自分の喋っている発音をラオス語に置き換えているからだ。さて、話題がそれたので本題にもどそう。

8kp「死ぬ」 **lk**「しなさいという命令の助詞」

ということで「わからなければ、死になさい」という意味になるので冗談で言う場合でも、相手と場所を考えて言ってください。

さて最後に、もう一度 **d**の話題になる。ラオス人を例えば日本料理に誘ったとする。「刺身にしますか？」そうするとだいたい返ってくる答えが、**dwfh**(コー・ダイ)、それでは天婦羅にしますか？と聞くとこれも **dwfh**であります。これは刺身でもいいし、天婦羅でもいいし、という感じである。これは今日は私は招待されているのだから、なんでもいいわ、それにあまり何が美味しいかしらないし。絶対これが食べたいなんて、恥ずかしくていえないし。ざっとこんな気持ちです。このような表現は彼らは好んで使います。東洋的な遠慮の精神で私は毛唐と違って好きです。

(420) . **9gf** (チャイ・デッド)

この前、パクサン・タケクに出張に行った時の話である。高地ラオいわゆる苗族の連中が13号線のみちばたで、バナナを売っていた。彼らはメオ族といわれるが、この言い方は馬鹿にした蔑称なので、モン族または高地ラオ(ラオ・スーン)と呼ばないといけない。

運転手が車を停めてバナナの値段の交渉になった。モンのおばさんの言い値は、ひと房で500キップであった。運転手は以前、そのくらいのバナナをひと房300キップで買ったから、300にしろとい

う。

ここで低地ラオなら、その間をとって400にしようなどと妥協点をめぐって新たに交渉がはじまる。しかし500以下では絶対に駄目とおばさんは強行に言い張って、商売は決裂に終わった。そして彼女自身「メオは(チャイ・デッド)だからね」と自分で言ったのである。この(チャイ・デッド)という単語の意味は意志が固い、気持ちが揺らがない、こうときめたら最後までやるという、彼らの民族性を言い表している言葉であろう。したがって戦争になって、ラオスの軍隊のなかで一番勇敢に戦うのは、山岳民族の部隊であるといわれている。ラオスとタイがメコンの中州の島の領有権を争って戦争した時も、彼らが勇敢に戦ってタイの軍隊を追い出したという。

この山岳民族のことは、メコン出版の「メコンに死す」という本がある。筆者はタイ人である。この本を読むと彼らのことがよくわかる。このメコン出版は協力隊ラオスOBの桑原さんという方が自分でつくった出版社で、アジア関係の本を出している良心的な出版社なので、興味のあるかたは是非御買い求めてください。

それから材木の仕事をしている人から聞いた話だが、彼の材木現場のそばに山岳民族がすんでいる。キャンプにも遊びに来るので、お菓子をあげていたらしい。そうすると低地ラオの子供は、お菓子などもらいっぱなしであるが、山岳民族の子供は、お返しに昆虫とかを持って来てくれるらしい。また山岳民族の村長の子供が怪我した時も、薬をあげると夜、赤飯みたいなものをお礼に持ってきてくれたらしい。こういう感覚は日本人によく似ていると思われる。

低地ラオの場合は何かしてもらったら、ラッキーという感じが強くて、それがベトナム系の人、将来なんかの御返しをしようとする。このような話しをベトナム系の人と結婚した日本人に聞いたことがある。

ということで、低地ラオの連中は、山岳民族の連中を馬鹿にしているが、実際うちの家族でも家族同士で「お前、メオか」などといった悪口を言っていることもある。または「ラック52から来たのか」という馬鹿にするいいかたもある。こういうのを聞いていると嫌になって来る。

ちなみに、このラック52は、ビエンチャンからルアンパバンに向かう国道13号線の村で、ビエンチャンより52キロの距離にあるのでこの名前がついている。ここはシェンクアンなどの北にいた

山岳民族の人達が、戦争を逃れて非難してできた村である。昔はこの村は何もなくてさびれていたが、アメリカなどに難民として移住した彼らの親戚からの送金で、ラック52は13号線北のなかでも、一番栄えて賑やかな村になった。

しかし低地ラオより、高地ラオの方がこういったすぐにお礼をするという考え方は日本人に近いかもしれない。そういう意味で私は彼らに親近感をかんじるのであるが。

それから、ラオスで日本人にとって一番美味しい御飯というと、山岳民族の連中が焼き畑でつくる陸稲であるとか。革命前のラオスの協力隊員が、ラオスのパラパラの御米が口に合わなくて、シェンクアンから山岳民族の作る陸稲を買ってきて食べていたとかである。そういった話しを聞いたことがある。これは水稲と違って冠水していないので、美味しいらしい。いわゆる日本人の口に合うのである。

(421) **gəŋf**? (パン・チャン・ダイ?)

「どうですか? 元気ですか?」という意味であるが、ルアンパバンの発音は(パン・チャン・ダウ?)になる。母音の「**.V**」がビエンチャンでは「**w**」も「**.V**」も同じく(アイ)と発音するのだが、ルアンパバンでは「**.V**」が(アイ)とは発音しなくて(アウ)という発音になる。「**w**」はルアンパバンもビエンチャンも同じで(アイ)である。したがってラオス語の書き方で**.sh**と**wsh**の区別のしかたであるが、前者は「あげる、または使役の意味の動詞である」後者は「泣く」という意味の動詞である。ビエンチャンの発音ではこの2つ両方とも(ハイ)であるが、ルアンパバンのひとは前者を(ハイ)と発音して後者を(ハウ)と発音する。従って、ルアンパバン人はラオス語の作文を書く時、この2つの単語をちゃんと区別して書く事ができる。しかしビエンチャン人は、ちゃんとスペルを覚えていないと、間違えてしまうのである。

それからサニャブリに行った時の話であるが、**ŋv[.ŋ**(ゴプ・チャイ)のことを(ゴプ・チャウ)と発音していた。これも母音の発音のしかたの違いであるが知らないとは全然違う言葉のように思われる。ちな

みにルアンパバンの飛行場には **7v[.9]** と書かれてあるのを覚えている。本当は **0v[.9]** が正しいスペルなのだろうが、彼らの発音では **7v[.9]** になるのだろう。

(4 2 2) **gyohp** (I-・ノ-I)

これは生まれたばかりの赤ちゃんで、まだ名前が付いていない赤ちゃんをこのように言います。従ってこのような新生児のお父さんに対しては冗談で面白く **rgy** (ホ-・I-) という。

(4 2 3) **dt3]tdt]P** (加加イ)

これは、**g Q]ew]** (ワ・ラムイ) 「同じ事を何度も繰り返してひつ濃く言うこと。口うるさい人のこと。」である。

(4 2 4) /**ʃohq** (ファソ・ノク・キ-)

/**ʃ**「外人」 **Oh**「乗る」 **oq**「鳥」

外人みたいなんだけど、外人ではない。西欧かぶれした服装や行動をする人のことである。外人の真似を外見はしているのだけれど、実際は外人ではない。混血の女のこなんかを指して馬鹿にする時にこの言葉を使うようである。しかしこのように言われた人は怒るので気をつけること。

(4 2 5) 義理の兄の嫁

義理の弟のアポロ(アポロ 11 号が月面着陸した時に生まれたので、父親がこのような名前をつけた)が家に彼女を連れて来た。今年の年末には結婚するとか。相手は中国人ではなくて、両親がサムヌア出身のラオス人であるが、年はなんとまだ 21 歳である。

アポロは 15 人兄弟の 13 番目なのだが、14 番目の亮ちゃんは 24 歳

で 15 番目の梅ちゃんは 23 歳。2 人ともアポロの婚約者より年上

である。しかしここは兄貴の嫁さんということで、「お姉さん」になる。この場合、自分とその人の年齢とは関係なく、兄ないし姉の御嫁さん、御婿さんはすべて「お姉さん」ないし「お兄さん」になる。

アポロの次に今度は、アポロの兄のクーが彼女を連れて来た。彼は33歳だが、婚約者はなんと20歳で、以前うちの店で働いていた女のこである。クーは15人兄弟の8番目で、私の妻淑珍は9番目なので、私からすると彼は年下であるが、それでも義理の兄である。

そして私の妻(9番目)から15番目の梅ちゃんまで、全員クーの婚約者より年下なんだけどラオスの習慣では「お姉さん」と呼ばなくてはいけないとか。

ラオス人の家に下宿していた日本人から聞いた話でも同じ。下宿先のマダムは42歳で、彼女の御兄さんの奥さんは色々事情があって、二番目の奥さんで今年30歳だとか。それでもマダムは年下の兄嫁を **gyUp** (グイ) 「お姉さん」と呼んでいるらしい。言われる本人は遠慮して **okC** (ナク) 「女性につける敬称」でいいというのだが、やはりどうしても **gyUp** になってしまうとのこと。日本も同じであるというが、核家族化がすすんだ日本ではこのようなこともあまりないようである。

(426) ラオスの猥歌

ラオスの国民的歌手、**[qgCy]** の歌にこのようなフレーズがある。**r=yf[hf]o** を **r≠W[hf]o** も生ビール屋でラオス人が酒を飲みながら歌っていたのを聞いたことがある。**-y** は未来を表わす助詞であるが、これが「マンコする」という意味の **lU** に変えて歌ったわけである。ただこれだけだが、発音がカタカナで書くと、(シー) と(シー) で声調は無視すれば同じ音になるので、ラオス人も駄シャレのような感じで歌っているのだろう。このパターンのエッチな冗談はよくある。

これは、**3vohCokCyp** という出だして始まる歌である。有名なので誰でも知っている。

(4 2 7) 林田学 (はやしだ がく)

昔協力隊のタゴンの稲作隊員だった、彼は任期の延長申請をだしたが、条件でベトナム人がいないところであった。何故なら、ベトナム語で (ガク) という彼の名前はエッチな意味になるからとのこと。わたしはベトナム語を知らないのでわからないが、ベトナム語を知っている人、教えてください。

(4 2 8) **oβlvClk**, (ヌグ・ソグ・サム) **w.l** (パイ・サイ)

これはラオス語の基本で「一、二、三」と「どこに行くの？」である。しかし幼児語では (パイ・サイ) ではなくて (パイ・チャイ) (ヌグ・ソグ・サム) は (ヌグ・ソグ・チャム) というように (ソ) の音が (チョ) に変る。これは私の娘を義理の弟妹があやしているのを聞いてみてわかった。どんな言葉、言語にも幼児語はあるのだとわかった。

(4 2 9) **0; a** (クアン)

この言葉は **lβ; a** (スー・クアン) などの **0; a** であるが、ラオス人を理解する上で大切なキー・ワードなので、説明しておく。これには2つの意味がある。

まず第一は、毛、髪の毛といった意味である。これは「旋毛」「頭頂の渦巻き毛」といった意味で人や動物にある。昔の人は頭の上に旋毛が並んで2つある人は、奥さんを2人もらうことになるなど、迷信で言い伝えられていた。別に理由があっただけでなく、ただの迷信である。

2つめは、1と違って姿・形があって外に現れてきて見える物ではない。このようなクアンを **0; a7G** (クアン・キグ) と呼ぶ。これは非常に大切なもので、人と直接結びついている。

昔の人はクアンが肉体から逃げて行くと、健康を損なってしまうと信じていた。従って、スークアンの儀式をして、クアンが肉体の中に来るように、いい事幸運が来るように祈った。これが昔の人の信仰と理解である。

(4 3 0)

xđglnobk, .9zbf (ック・ファン・タームチャイ・プー・ニョー)

c0; ovβk, .9zbfvo (クエー・ン・ウー・タームチャイ・プー・ノーン)

xđ 「建てる」 **glnobk** 「家」 **8k, .9** 「好きなように」

zbf 「住む人」 **c0; o** 「吊る」 **vβ** 「ハンモック、揺りかご」

zbfvo 「寝る人」

「住む人の好きなように、家を建てさせる、寝る人が気持ちいいようにハンモックをかけさせる」何事も当事者にまかせて外野はあまり干渉しないほうがいい。

(4 3 1)

1kc8cckod[7qni9dId (ヤー・テンガ・ン・カップ・コン・ティー・チャオ・ハック)

9fc8cckod[7qni0kIdg9d (チョング・テンガ・ン・カップ・コン・ティー・ハック)

ク・チャオ)

1k 「禁止、するな」 **c8cckod[** 「と結婚する」

7qni 「の人」 **9d** 「貴方」 **Id** 「愛する」

9f 「しなさい」 **0k** 「彼」

これは「あなたが愛している人と結婚してはいけない、貴方を愛してくれる人と結婚しなさい」これはラオスの礼儀作法の本に載っていたものですが、いまさら解説の必要はないでしょう。

(4 3 2) **glp7egngsq [pv, glpzq.shβj**

(シア・カム・タオ・ファ ホー・ニョム・シア・プア・ハイ・プー・ウーン)

glp 「失う」 **7e** 「金」 **ng** 「程の」 **sq** 「頭」

[pv, 「認めない」 **zq** 「夫」 **.sh** 「あげる」 **zβj** 「他の人」

「頭くらいの大きさの金を失ったとしても、自分の夫を他の人には渡さない」これは男の浮気を止めさせるなら、頭みたいな大きな金を御妻さんに手切れ金としてあげて、旦那がおめかけさんの所に行かないようにする。

ラオス人のケースはよく知らないが、中国系のラオス人で、奥さんの妹に手を出して子供を生まして、こんどは横の家のラオス人に手を出して子供をうました。という例を私は知っている。つまり、彼には腹違いの子が、3種類いる。そして皆の噂では、今度はそのラオス人の3番目の奥さんの妹にも手を出すのではないかと、皆噂している。こういうのを、**gnʔq**(テー・クア)「一世帯総なめにする」世帯を共にする家中の女性すべてに手をつける。

rtpkgnʔq(パニャー・テー・クア)「一家総なめの大殿」という。

gʔkgnʔq [kooA](カ・テー・クア・パー・ソ・ナ)「彼は、その家の女性全部に手をつけた」わたしも、このような例は辞書では知っていたが、実際にあることを知ってビックリした。

この他のケースでは、養女をもらって育てていて、本妻と仲が悪くなり、離婚して養女と結婚したというケースも私は知っている。

これはタイ語で **]RC8hp**(リアグ・トイ)「小さい時にもらってきて養育して大きくなると自分の妻か夫にする。」

]RC「養う」、**8hp**「小さな、ちっちゃな」

(433) **s, kdo fgojc]h**(マク・ナット・ナ・レオ)

s, kdofa「パイナップル」 **ofa**「約束」 **ggh**「腐る」

これは所謂しゃれである。例えば2時に迎えに来て、と約束する。2時を過ぎても3時になっても、まだ来ないような時に言うのがこのしゃれである。つまり「パイナップルが腐った」と「約束が腐った」とを掛けている。パイナップルも約束もラオス語では(ナット)の発音が共通であるので、この意味をかけている。

ちなみにタイ語でパイナップルは「サッポロット」であり、これは北海道の県庁所在地の「札幌」の発音に似ているので、覚えやすい。果物の名前はタイ語とラオス語で違うものが多い。

(434) シャラララ・モーニング

タイのテレビを見て、この歌詞の歌が流行しているので、うちの2歳11ヶ月になる娘が、真似して歌っているが、発音がおかしく

て「シャラララ・イーモー・ネンネン」と歌っているのを聞いて思わず夫婦で爆笑してしまった。

シャラララはこれは意味がないメロディーであるが、この部分は別に問題はない。次のモーニングは、勿論英語の Morning「朝」である。これをうちの娘は、(イーモー)と発音してしまった。これはラオス語で「オマンコ」の意味である。要するに、日本語の「芋」の発音は、ラオス人にはエッチな意味になると別の項でも説明したがその(イモ)の発音である。そして(ネンネン)はラオス語でいえば **CSOA**(**𑜋𑜰𑜫**) であり、「硬くなる」という意味になる。

したがって、桜ちゃんが歌った歌詞をラオス人が聞くと、「シャラララ、オマンコが硬くなる」という意味に聞えるのである。普通はオマンコは硬くならなくて、硬くなるのはオチンチンであるが。さすが、私の娘である。ひょうきんな所は父親似である。

この歌は、タイのテレビを見ている人なら皆知っている歌である。ちなみに、日本にいる私の友達の奥さんはラオス人で、彼女は焼きいもが大好きで冬になると焼きいもの声が流れてくると、飛び出して買いに行くとか。「イモ」が好きなのは男性ばかりではない。

(4 3 5) **xpɔpɔkɔw** -**𑜋𑜰𑜫**・**𑜋𑜰𑜫**-**𑜋𑜰𑜫**-)

ラオスの昔話である。テーソソ郡という所に、トゥソという名前の村があった。ここに蔓のようにねじれて伸びる大木があった。この大木は大きくなって天国まで伸びて行った。そのため太陽の光が遮られてしまい、地球はいつも真暗であった。そして太陽が照らないので天気はいつも寒かった。ある日王様のクンプロム王は臣下を集めて会議をひらいた。

「誰か、この大木を切り倒せる者はいるか、もしできたら褒美をつかわすぞ」しかし恐くて誰も切り倒せません。

その時2人の老夫婦が名乗りでました。「我々、2人プーニューとニャーニューがその大木を切りに行きましょう。」
王様「それはいいことだ、御前達の犠牲的精神は立派であるぞ。」
老夫婦「しかしお願いがございます。もし我々が死んだらこの国の皆様、我々の名前を忘れないでください。」

王様「わかった、私は国民にお前らの名をいつも会話のなかに入れするように命ずるぞ。」それを聞いて老夫婦はトゥー沼へ、大きな斧を担いで向かいました。2人は3ヶ月かかって大木と格闘して切り

倒しましたが、倒れて来る大木に下敷きになり、死んでしまいました。大木が倒れたので、地球に太陽の光がさしてくるようになり、地球が暖かくなりました。王様と国民はプーニュー、ニャーニューのために盛大な葬式をしてあげて、それから2人の功績を忘れないために、言葉の最後に2人の名前を言うようになりました。

wkpu (イ・ニュー)「行きます」 **g ngou** (ムア・ニュー)「帰ります」

ラオスの民話については、「ラオスの民話」という本がでていいる。この中にもこれに関した話がクンプロム伝説、ラオスの始まり、という項目ででていいる。小生のこの内容と異なるが関連していいるので、ぜひ購入されて読んでください。作者は協力隊ラオスOGで、根岸範子さん、前田初江さんの共著である。私の先輩になる。出版社は黒潮社というところである。

(436) **Iho.0** (ホツ・ナイ)

これは食べると体の中が熱くなり、唇に熱がでる。体の調子が悪くなり便の出が悪くなるものを言う。例えばこういった食べ物の中にバナナを揚げた物、焼きバナナなどがある。また南瓜の種、西瓜の種なども中国人、ラオス人が好んで食べるが、これらのものも

Iho.0 なので、食べ過ぎると逆に体を冷さないといけない。

こういった食物は **gao** (ジエン・ナイ) と言う。これには **S, hhp** (エー・ナイ) というものもいいとされる。ある種の葉っぱを絞って作ったジュースで、色は緑色でこれに氷を入れてシロップを入れて飲む。これと一緒に緑色の寒天みたいなものも食べる。

S, hhp (エー) は鍋で、鍋の中にこの種の葉を入れて煮詰めて作るからこの名前がついたものとされる。

(437) **gxh[59p** (パオ・ブン・チン)

これは中国版水戸黄門と考えてよい。香港、中国、台湾ともパオ・ブン・チンをテレビ番組として制作して非常にヒットしていいる。タイのテレビでも放映するので、ラオスでも見られる。中国版の時代劇で裁判官のおじさんがパオ・ブン・チンである。彼は正義の裁判官であり、たとえ親友であろうとも悪い事をした人には、正義の

判決をくだす。実際には日本でも中国でも悪がはびこり、普通の庶民が苦しんでいる。しかしパオ・ブン・チンや水戸黄門は正義の味方で悪を懲らしめるので、庶民には人気があるのだろう。いわゆる庶民のヒーローである。主題歌もカセットで販売されていて、英語のバージョンもある。

8P, sq, ɛdvo (ティアム・ファ・マソーン) xtsko (パ・ハーン)

青包天 (パオ・ブン・チン) が悪人に最後の判決、死刑の宣言を言う時のセリフである。水戸黄門で言えば、カクさん、スケさんが「この御方をどのー」で始まる有名なセリフで、番組のなかでも一番に盛り上がるシーンである。

8P, 「用意する」 sq 「頭」 , ɛdvo 「竜」 直訳すると、竜の頭を用意せよと言っているのだが、つまり sq, ɛdvo はフランスでいえばギロチンにあたる。罪人の首をちょん切る道具であり、ハサミのようになっていて竜の形になっている。 , ɛdvo は「竜」であるが、この発音は日本語の女性のアソコを示す「マンコ」に発音が似ているので覚えやすいだろうが、女性は発音する時に恥ずかしいかもしれない。 xtsko は「処刑する」という意味になる。

xtsko-ɔf (パ・ハーン・シーウィット) で「死刑にする」

-ɔf (シービット) 「人生、生命」

(438) fa ON gɔ

これはラオス人のカウンター・パートに私が書いたラオス語の原稿をコンピューターで入力させた時のスペル・ミスの一例である。

fɔ 「土」が正解であり、母音を fa のように長母音にしてはいけない。 OB が正解であり、これも長母音ではなくて単母音。 gɔ でなくて gɔ が正解。ちなみに私が書いた元の原稿はすべてちゃんとした正しいスペルであったが彼が打ち込む時にすべて間違えてしまった。これはラオス人が学校で正しいスペルを国語の時、一生懸命勉強するのではなくて、発音を耳で覚えて、その覚えたとうり

の発音で書き表すからである。これがタイ語になると、スペルが不規則でラオス語と違って難しい。ラオス語は発音を、そのままラオス文字で置き換えるだけなので簡単である。したがって彼らは、耳で聞いて覚えた発音をラオス文字で書き表しているのである。

しかし本当にラオス語で「土」という意味の **fy** も正しい書き方では **fy** かもしれないが、普通のひとは会話の中で長母音で **fu** という様に発音しているのかもしれない。従って彼らがスペル・ミスをするのもいつも言っている発音どおりに、ラオス文字で書いているからであろう。**OB** が本当は正しい書き方だけど、多くの人が間違えて長母音で **ON** と書いてしまう。しかし本当に普通に会話でこの単語を発音する時に、彼らは単母音ではなくて、長母音で発音しているのかもしれない。印刷する時に不鮮明になりそうなので、もう一度書くとこのようになる。**Vy**と**Vu**の違いで前者が(イ)という単母音で、後者が(イー)という長母音である。

従って、**fy**(テイ)と**fu**(ティーン)で発音が違ってくる。次は**VB**と**VN**の違いで前者は単母音で(ウ)、後者は長母音で(ウー)である。従って、**OB**(ク)と**ON**(クーン)で発音が違ってくる。これは「上る」という意味の動詞である。この単語にはマイト-記号が付いているので、Fallingのイントネーションになる。

ここらへんは、言語学、ラオス語の専門のかたに御聞きしないとわからないが、興味のある研究課題である。

以前、この問題について「自分の国の言葉もちゃんと書けないのに何が英語の勉強だ。」とカウンター・パートに対して不満であったが、今になって冷静に考えて自分なりに分析すると以上述べたような考えになった。そういう意味でラオス語はサバーイなのかもしれない。しかしその点日本語でも、ちゃんとした正書法が確立されていないのではないかと思われる。したがってラオスの悪口を一方的にいうのは良くない事かもしれない。

(439) **c, j, q, n, k** (メ・チャオ・シー・マ)

C, j「母親」 gQ「貴方」 lU「オマンコする」

S, k「犬」これは最大の侮辱語であるので、絶対に使ってはいけません、もし間違えて言ったとしても私の本で勉強したなどいってはいけません。この本は知識は教えるけれども、それをどのように使うかは読者の人格しだいですから。ようするに「お前のかあちゃん、犬とマンコした」ということで、ラオス語の中で犬を使って、侮辱する言葉はたくさんあるけれどもこれが最悪、最低の言い方です。

タイ語では（このコンピューターはタイ語が打てないので、タイ語をラオス語のスペルで打ちますが）以下の言い方があります。

gfdtc, j（ジェット・カ・メー） gfa は「性交する」でこの場合は「お前の母親と性交せよ」ということで、これは中国語にもこのような言い方があるので、中国語がオリジンという説である。

gfa は英語の jet , 日本語でジェット機のジェットと同じ発音なので、タイ人は英語のジェットを chet と発音するとか。

カンボジア語では、おそらく（チョイ・マー）であろう。これは私がカンボジア人とつきあっていた時によく聞いた下品なフレーズでどういう意味かきいても教えてくれなかった。しかし私が他で色々調べるのには（チョイ）は「オマンコする」であり、おそらく（マー）の発音はカンボジア語の（マエ）「お母さん」と同じ意味ではないかとにらんでいる。カンボジア語で「お母さん」は（マエ）と言う。これはラオス語、タイ語によく似ている。おなじく（マー）も「お母さん」という意味ではないか。そうすると（チョイマー）も「母さんとマンコする」という意味になる。

この言葉はトランプ博打をして負けた時など「こん畜生」という感じでよく彼らが使っていた。これは喧嘩の時ではなくて、興奮して発していたが、喧嘩の時も言うのかは私もカンボジア人の喧嘩を目撃したことがないので知らない。またラオス人が（メー・チャオ・シー・マー）を言っているのも聞いた事がない。おそらくこれが言われる状況は大変な状態なのだろう。

（４４０）ラオスの地名

日本の首都は東京だが、これは東にある首都といった語源から考

えてよいと思う。さてラオスの主要都市の語源を説明してみよう。

xkdg (パ^ク) これはセードン河 (メコンの支流) とメコン河が合流する河口にあるので、**xkd** (パ^ク) 「口」、**g** (セー) 「河」要するに、「河口の町」ということでこの名前が付けられた。

g は、ラオス南部の河でメコン以外は **g** になる。そして北部では、**shp** (フアイ) と名前がつく。

lts;əotɔf (サ^ク ナット)

lts;ə 「天国」、**ɔf** 「地域」これは直訳すると「天国の地域」という意味になる。対岸のタイの町ムクダハンは、元ラオス大統領のヌー・ハックさんの出身地である。

mkc0d (ター・ケーク) **mk** 「港」、**c0d** 「客、外国人」ここは対岸の町がナコン・パノム (タイ) で、またベトナムまで 120 km 程のところに位置しているので、外国人の行き来が多かったと思われる。したがってこの名前がついたようである。

[edh (ホ^ク・ケオ) **[**井戸、泉 **cdh** 「エメラルド」

これも、この町がエメラルドの産地として有名で、町の人が穴を掘って宝石を捜していることから、この名前がついたと考えられる。

この他にラオスの地名には、**3ro** (ホ^ク・ソ) が付く地名

3ro3IC (ホ^ク・ソ・ホ^ク) 「ビエンチャン県の町、ビエンチャンから 13 号線を北にのぼり、ナムグムダムに行く 3 差路の町」

3rog76 (ホ^ク・ソ・ケク) 「ビエンチャンの中の町、国防省があり、水道局があり、タゴンに行く道の途中」

この (ホ^ク・ソ) という単語の意味は「丘」という意味である。どうりでこの名前の付くところは、小高く丘のようになっている。

また **37d** (コ^ク) 「丘」も同じである。 **37dlkf** (コ^ク・サト)

これはビエンチャンから 20 KM 程の場所にあり、塩井戸があり井戸水を汲み上げて煮沸して、製塩している。今後地名を聞いたら、どのような名前か注意するとおもしろい。何故なら、地名がこのように地形などを表わしている場合が多くて、わたしは専門が水理地質

なので、このような名前には興味がある。

日本でも「井の頭」「新井薬師」などの地名で昔、湧水がわいていたとか、井戸があったとか推測することができる。

他に、**sovc**(ノツ)は「沼」という意味がある。**sovc**がつく単語は**sovc7kp**(ノツ・カイ)、**sovc[q]**(ノツ・ブア)などこれも色々ある。これも昔は、沼があったところだと想像することができる。そうなるるとこのような場所はメコンの後背湿地であったのか、メコンの水がオーバー・フローして水がたまったところかな、などと地質学的に色々考えることができる。また**oECp**(ナム・グム)もいっつもじめじめしている土地という意味である。この地帯は雨季になると洪水で冠水することがある。ということで、地質屋さんもラオス語の知識が必要になってくる。

(441), **Qvd[L]**(ミ-・チョク・ホ-?)

Qvd(チョク)「コップ」はありますか? という意味でこれはルアンパバンの笑い話である。ピインチャンから来た人が、喉が渴いてコップ一杯の水を飲みたかったので、ルアンパバンの娘さんに水を頼んだ。ルアンパバンの娘さんは「ありますよ」という意味で、

, **Qvt**(ミ-・オ)と答えた。(ミ-)は「あります」という意味であり、**3vt**(オ)はルアンパバンの方言で、会話の最後につける感嘆詞である。

これをピインチャンの男は**3v**(オ-)と勘違いした。これはボールみたいな大きなもので、男は喉が渴いたので、コップ一杯の水を下さいと言った。そして娘さんが、コップ一杯の水ではなくて、ボール一杯の水をあげましょう、と返事したと誤解したとか。従って男は、**3v**でも何でもいいから、水をくれといったとか。

(442) **g9k37f]68k**(チャオ・コード・ルン・ター)

これは結婚式、バーシーの時に言う決まり文句で「皆様」にあた

る。37f は辞書で「祖先」英語でいえば、ancestor になる、牛囲い、牛小屋、宗族、家系などの意味がある。結婚式で外国人が間違えて「お父様、お母様」のつもりで 37fr 37fc, j (コード・ホー・コード・メー) と言ってしまい顰蹙を買ってしまった。これは文字ずらは、お父さん、お母さんの親戚全部という意味ですが、ものすごい侮辱する言葉で全然違う意味になります。バーシーの時など g yg 90 37f (スー・チャオ・コード・ルン・ター) 「ご出席の皆様、さあどうぞ」と言いますが、間違えて rε, j を付けないでください。タイ語では、dj 37f (ソ・コード) という罵り語がある。dj 「開墾する」という意味で、dj 37f で(先祖を掘り起こす)という意味で、要するに先祖のことを引き合いに出して罵るという意味になる。

(443) 80w hspj zu (ソ・マイ・ニヤイ・ミー・ピー)

lk; Ck, , ub (オ・ガム・ミー・ス)

80w h 木」 .spj 「大きい」 , u いる」 zu おばけ」

lk; 「独身の娘さん」 Ck, 「きれい」 -b 恋人」

「大きな木にはオバケがいる。きれいな娘さんには、恋人がいる」ここで気をつけて欲しいのは、タイ語とラオス語の違いである。

-b はラオス語で「恋人」とか「かっこいい」という意味がある。

しかしタイ語ではラオス語の S が C H に変化するので、(スー)ではなくて(チュー)であるが(このコンピューターにタイ語の C h の音は打てないので、カタカナのルビで書くが、ラオス語と違ってタイ語の(チュー)は良い意味がない。恋人、姦夫、情夫、情婦、姦通、密通といった悪い意味しかない。

例えば gα (チュー) で「男が他人の妻と密通する」でり。

, u (チュー) で「女が夫以外の男と密通する」ことを言う。このようなことをする事を好む男または女を gα (チュー) という。

また最後の **-b** を **sok**, (ナ-ム) に変えると、きれいな女にはトゲがある。という意味にもなるがこれは日本的な言い方で、ラオス語ではあくまで、**lk; Ck, , gD- b** である。

それからラオス語とタイ語の違いとして、他に

f5 が挙げられる。ラオス語の **f5** は **f5, A** (ドウ・マン) 「勤勉な」

または **wfM** (パイ・ドウ・ドウ) 「度々、しばしば行く」という意味にもちいるが、要するに **gNpM** (ルアイ・ルアイ) 「たびたび」と同じ意味になる。タイ語では「叱り付ける、激しい」と言った逆のマイナス的な意味になる。ここらへんは気をつけておいたほうがよい。タイ語もラオス語もしょせん違う言語だと認識しておかないと、こういった落とし穴にひっかかる。

(4 4 4) **lC38**(シト-)

これは「ライオン・獅子」で中国正月にはこの「獅子舞」が中国人の家にやってくるのが中国正月の風物になっている。中国人の家では、**lC38** が来る前にサラダ菜と長ネギを縛って、紅包(中国のお年玉)と一緒に軒から吊るしておく。そして獅子が踊りながらこの御祝儀を、口の中に飲み込むのである。もちろん **lC38** が来る時は、爆竹を鳴らして景気つけをするが、中国正月の爆竹は最近政府のお達しにより禁止されて、静になった。この爆竹は1975年の解放後も禁止にならないで続いていたのであるが、ラオスのアセアン加盟やら、ベトナムが正月の爆竹を禁止したことが理由なのか、ラオスでも禁止になった。

タイのものに比べて、**lC38** の踊りもラオスの物は技術的に劣るのは華僑の数がすくないのでしかたがない。

ちなみに余談になるが、97年の12月より、ラオスに永住する外国人(華僑、越僑)はタイに行くのに、タイ国のビザをとらないといけなくなった。いままではラオス人と同じように、国境通行許可書を簡単に作ることができて、それがあれば3日間はノンカーイにビザなしで、買い物にいけたのである。したがって、中国パスポート

を持つ、中国籍の人達は現在、あわてて帰化の手続きをしている。これによってラオスの華僑ならびに越僑の数はどんどん減っていき、華僑のラオス人化が促進されるだろう。

この影響で、私の妻（国籍は中華人民共和国）もタイに行くのにビザが必要になり、2番目の蘭ちゃんの出産は、ビザの用意ができず、ラオスで出産ということになった。というわけで、妻も含めて家族皆（義理の父母以外）現在帰化の手続きをとっている。

ある日本人が、妻に「日本人の妻なのに、どうして日本ではなくてラオスに帰化するのですか」と聞いたことがある。

日本に帰化するには、日本人の配偶者の場合でも、日本に最低3年以上住まないと、書類を受け付けてもらえない。うちの夫婦は結婚して4年になるが、彼女が日本に住んだのは、通算しても5ヶ月位で、とても条件を満たしていない。そして将来も、日本人に帰化するよりラオス国籍でいた方が、私が老後にラオスに住むにしても、妻がラオス人だとビザなどの点で有利ではないか、また土地、財産の面でも妻がラオス人だと有利だし、ビジネスをするにも妻の名義のできるの、外国人よりやりやすい。また妻は、ビザなしでノンカイにも自由に行ける。華僑のほうがラオス人より税金が高い。などのメリットがある。日本に妻が行くには日本人の配偶者としての権利があれば問題ないだろうし、われわれ家族の将来を考えると、それが一番いいような気がする。そのように考えたからである。

そういえば、アグネス・チャンが妊娠しているのにかかわらず、カナダに留学して、大学院を卒業して出産もした時、私はすごい頑張り屋さんだなー、と思った。私の知り合いにインドネシアの中国人と結婚した人がいる。彼が奥さんにアグネスってすごい勉強家だなーと感心していったら、奥さんが、あなたは華僑がどういうものかまだわかってない、彼女がカナダに留学したのは、生まれてくる子供に、カナダの国籍を取らしたかったからだ。カナダは二重国籍が認められて、大人になった時にどちらかを選択すればよいことになっている。こんなこと中国人なら誰でも考えている、と言われたらしい。

わたしの妻にしる、ラオスに帰化したにしる、中国人である誇りは失わないし、便宜上帰化しても中国人であるアイデンティティーは捨てないだろう。その時に、どこの国籍を持っているかということは、どの国籍を持っていれば、自分なり妻、子供家族が幸せでい

らえるか、それにかかってくると思う。

おそらく、東南アジアの華僑は、自分が中国人であるというアイデンティティーは持って誇りに思っているだろう。しかし、それと現在の中華人民共和国を支持するかとなると、別問題ではないかと思う。ここらあたりの華僑の気持ち、考えは中国人と結婚して、生活してみないと普通の日本人にはわからないだろう。ということで、わたしも華僑と結婚した日本人ということで、新しいタイプの日本人かもしれない。

話を、獅子舞のことに戻す。これは中国理事会の少年団が中心になって毎年やっている。1938は、中国人のいるところは、どこでも出身するのが原則であるが、昔は中国理事会の偉い人の所しか先に行かなかったので、他の人からクレームがつき、現在はくじ引きでどこの通りは、何日の何時に行くとかあらかじめ予定が立てられることになった。したがって、この予定表に従って、シーカイやジナモでも出張してくれる。ところで妻に最初(シト-)が来るから、と言われた時にわたしは誤解して、ラオスにも「神道」があるのかな、と勘違いしてしまった。

(445) **vkskocdh; k, sɯ** **dkolɔlkcdh; k, ʒɔj**

(アハ-ン・ケ-・クア-ム・ヒウ)

(カン・スック・サー・ケ-・クア-ム・ゴ-)

vksko 「食事」 **cdh** 解決する **ʒ; k, sɯ** 「空腹」

dkolɔlk 「教育」 **ʒ; k, ʒɔj** 「無知、馬鹿」

これは別になにも面白くはないのですが「食事が、空腹を解決する教育が、無知を解決する」ということで、ごく当たり前の事です。ここでは、単語を覚えてください。

(446) **ʒexkdre, jɯ** (カ-ム・パ-ク・ホ-・メ-・ニ-)

soɔgɔmɔtu (ナック・ク-・ト-ラ-ニ-)

.zzɔec1Coq (パイ-プ-・ヤム・イ-ソ-グ・ノ-ッ)

skd9ɔfg jɯsok (ハ-ク・チャック・デ-イ-ムア-ナ-)

ʒexkd 「喋った言葉」 **ʒe** 「言葉」 **xkd** 「口」

re,j「両親」 oU「この」 soa「重い」

glf「天秤などで計測して、重さが同じくらいで、釣り合いがとれている」 m̄tou「大地」 .zzb「誰もが」 .Z「誰」

zb「人」 lec1C「言う事を聞く」 oq「頭を下げる」

skd9a=skd9t「もしそうなら」 fu「良い」

g j̄sok「次」これは、単語の解説を見れば意味がわかると思います。「両親の言う事は、この大地よりも重みがあり、大切である。だから、誰もが親のいうことを良く聞いて、その言うとおりにすれば将来いい事がある。」

(447) s, kpwljshf1kp8k s, kpok.shf1PC1hC

(マ-イ・ハイ・ハイ・スト・サー・ター) (マ-イ・ナ-・ハイ・スト・シアグ・ホ-ング)

s, kp「印、予約をいれる」 wlj「畑」 .sh「させる」

l f1kp8k「視界の届く限り」 ok「水田」 lPC「声」

l hC「叫び声」畑を耕して農業をする時に、ここまでは俺が耕すから予約しておくという意味で、マーク、印を付けておく。水田にしても同じである。ラオスは昔は人が少なく、その土地を開墾して田んぼにした人が、その土地を所有できた時代があったようである。従って、働き者はできるだけ頑張っ、視界の届く限り、声の届く限り、開墾して自分の土地にしようとした。現在では、すでに開墾できる所有権のない土地はもうなくなり、このようなことはなくなったであろうが、現在も古い世代の人たちは、若い世代の子供を叱る時、このフレーズを使って、もっと働かないといけないじゃないかと戒める。若い人はあまり使わない言い方である。

さてここで、この土地のことについて説明してみよう。例によって富田竹二郎先生のタイ日辞典には、以下のような説明がある。

l afyk(サク・ディ・ナ-)という制度が、昔タイにもあった。これは日本語で「権利田」「禄田」と訳すようである。アユタヤー時代のトロイローカナート王時代に、確立されてタイ仏暦2475年の

民主革命によって廃止された。その地位によって国王より名目的に賜る田地の面積で、その人の価値や社会的地位を表わし、犯罪を犯したときの形量や賠償額の決定の基礎となるものである。権利田はすべての人に与えられるもので（単位の **wlj**(ハイ)）は 1600m 平方で、例えば大臣は一万ハイ、王子が 6000 ハイ、三級都市の知事で 5000 ハイ、一般人民は 25 ハイ、奴隷でも 5 ハイとなっている。しかしこれは実際にこの広さの土地が与えられるのではなくて、「自分で開墾して利用可能な土地にした上で登記し、自己の所有地となしえる権利の限度」を示したものにすぎない。昔のタイはそれほど人口密度が小さく未開根地が多かったというわけである。{ここでは(ハイ)とラオス語に変えたが、タイ語では(ライ)である。}

また、別の項でもとりあげたが、ラオスには未開墾の土地が昔はまだたくさんあり、その土地をめざして東北タイの人たちが沢山ラオスに移住してきて、定住した。彼らが来たころはこのような開墾されていない土地がまだ一杯あったのであろう。そして彼らにとって外国に移住するのではなくて、同じラオスの土地に移り住んだという気持ちではなかったのかと思う。

革命前にラオスにいた日本人の話でも、ビエンチャンからタゴンに行く途中の道も、全部森に囲まれていて、薄暗くてひっそりしていたとか。また 13 号線北（ルアンパバンに行く国道）もイライ村をすぎた頃から、一面森の中みたいな感じだったとか、そのころこういった森の所有権がこういったものだったかわからないが、その後森林が開墾されて、水田になったわけである。

ちなみに、私の義理の弟の奥さんはラオス人である。出身はビエンチャンのボーオー村であるが、先日そこに遊びに行った時に、義理の弟から話を聞いた。その家族も椰子とバナナの果樹園を持っているがこれも自分の両親から譲ってもらったものではなく、自分たちで開墾して自分の土地にしたらしい。しかし今ではビエンチャンにはこのような土地はなくてみんな誰かの所有物になっている。

(448) ノンカイの病院

ラオスに比べてタイのノンカイの病院は、設備技術的にも進んでいると皆思っているようだ。しかしこんな話もあるので紹介しよう。

わたしがノンカイに新しくできた病院に、健康診断で行ったのは

帰国を前にして、UNDPの方から健康診断をノンカイで受診せよとの知らせがあったからである。私が行った病院は、ウドンタニにある病院の支店で、ウドンの病院の方は、協力隊の時の健康診断で御世話になっている病院である。ノンカイの病院は新しく開院されたもので、設備は外見はすごくきれいであった。

視力検査で、最初矯正視力しかやらなかったのも、お医者さんが看護婦に、もう一度裸眼で検査してくださいと指示をだした。それと色盲の検査をしてくださいと言った。

医者の方から指示に従って看護婦さんは私を検査室に連れて行って、例の色盲検査の本をだして、眼鏡を外して、これが何に見えるか言ってください、と言って私にその本を見させた。私はこれはおかしいと思ったが、タイ人もこんな馬鹿な間違いをするんだナー、と思い、言われたとうりに眼鏡を外してその本を見て検査をうけた。そして次に眼鏡をつけて下さい、そしてもう一度検査しますという。

検査が終わって、そのデータを看護婦がお医者さんに見せたら、さすがの医者も、視力検査の時、裸眼と眼鏡をつけてはかること、色盲は眼鏡をつけて測ること、を説明した。

私はラオスにいて何でもタイの方がラオスより進んでいる、そのように思っていたが、このような基礎的な知識もないタイ人の看護婦もいるのだなと思った。それともあれは看護婦ではなくて、検査の助手かな、それにしても御粗末である。

それから1年後、こんどはまた別のノンカイの病院に健康診断に行った。裸眼の視力検査で視力が悪くて、0、1もないので、医者は診断書に視力以外は異常なしというつもりか、Normal status except visual activityと書き込もうとしたので、あわてて「眼鏡をかけたらちゃんと見えます」と言って、今度は強制視力を測ってもらって書き直してもらった。こんな診断書を日本に送ったら弱視かと疑われてしまう。

それと病院の名前の **I; , crf** (ラム・ペ -ト) というのを英語でどのように書いたらいいか首をひねっていた。それと私の必要とする診断書では、聴力の診断項目を要求されていたのだが、その医者はそのような器械はないので、診断できないと言って看護婦さんにどうしたらいいか聞いていた。

こういうのは日本の場合は、目をつぶってもらってストップ・ウォッチを耳の側にあてて聞えるほうが右か左か言ってもらって耳の

聴力が正常か調べればよいのに、こんなの、日本の小学校の集団検診でよくやっているのと思った。看護婦さんは、普通に会話して答えが返ってくるのなら、正常よ、と言ってくれたので、聴力は両方とも Normal と診断書に書いてくれた。

日本はこうだけど、この国は、だから駄目というのはあまりいい考え方ではないと思う。しかしこういった例を経験してみて、タイの医者もあてにならないと思った。

(449) **s, kdl t]u**-ク・カリ-

この前、茹でたトウモロコシを買ってきて食べたら、変な臭いがして、腐っているのかと思って捨てた。あとで親戚が教えてくれたのは、トウモロコシを茹でる前に硬いトウモロコシは茹でるのに時間がかかるので、**sy1Q**(ヒン・ソム)をいれた水に漬けて柔らかくしておく、それから茹でるのである。この **sy1Q** の量が多すぎるとこのようなことがあるという。ちなみに **s, kdl t]u** はちょっとした隠語である。その形状から想像していただければわかるが。細長く毛が生えていて、食べる時も頬張って食べる。

g0 ds, kdl t]u(チャオ・マック・マク・カリ・ホ)

「とうもろこしが好きですか？」

などと酒の席で酔払った時(いわゆる冗談が通じる時に)女の子に聞いてみるのもいいだろう。それからトウモロコシはタイ語で

g0Brf(カオ・ホ・ド)というのでラオス語とタイ語では違っている

ので気をつけること。さて今度は **sy1Q** のことであるが、これは濁った井戸水などをこすために入れる石で、日本語では「ミョウバン」といわれている。水道の凝集剤としても用いられる。これを入れると水の中の小さな粒子がお互いにくっ付いて、粒子が大きくなり沈殿する。そして濁度を下げることができる。

ビエンチャンの上水場は、すべてメコン河より取水している。特に雨季になると濁度が高くなる。したがってこの凝集剤の使用量が多くなる。濁度がひどい時は3000度を超えるほどである。そうなるとう汁粉のような状態である。

水道の源水については、メコンの水を取水する以外に、地下水と

いう方法もある。地下水のメリットは濁度が少ないということで、凝集沈殿などしなくても、塩素を注入するだけで送水できる。そうになると建設費も安いし、運営費も安い。問題は地下水のありそうな場所を探す技術である。

幸い、わたしの参加した北部7県の水道プロジェクトで、パクサンは地下水を源水にする上水場が完成した。

(450) /kdw htok7ko&xu アーク・ワイ・タカソ・ハ・ピ-

これは年齢をきかれて、本当は40歳だとしよう。「35歳です。」と返事してその後にこのように冗談で言う。要するに、本当は40歳だけど、35歳です。5歳銀行に預金しています。というラオスでよく言われる冗談である。

/kdw h 預けておく」 ntok7ko 「銀行」 &xu 5年」

このようにいわれると fvdg pgnjwi L (ドク・ピア・タオ・ライ) と答えるのが会話の定石である。「利子はいくらですか？」という意味である。要するに銀行に年齢を預けているのなら、利子がついている

はずであろう。 fvdg p 「利子」 gnjwi 「いくら」

この他に、銀行関係でいわれる冗談で「あと何人子供が欲しいですか？」などと聞かれるとしよう。

この場合 xy [ə-u]h (ピット・バンツ・レオ) 「帳簿をしめました」ようするに「もう子供は作りません」という意味になる。このような表現は普通の辞書には載っていない生活のなかの表現である。

xy 「閉める」 [ə-u 帳簿」 c]h 「完了の意味」

(451)

gvhg p.s, j ɸdrh, (アオ・ミア・マイ・ミー・ルク・ポム)

8hcsjfkkc, j0j (トック・ヘー・ダイ・パー・メー・カイ)

[ɔ]kC8Ac8jsɛ (ブンスン・サング・タンテ・ラング)

gvh 「取る」 gp 「奥さん、妻」 .s, j 「新しい」

, u いる」]d 「子供」 rh, 「一緒」

8hcs 「投網をうつ」 wfh 得る」 xk 「魚」

c, j「母」 wɔj「卵」 [ɔ「善、徳」 lk「作る」
 ɔAcɔj「以来」 sɛ「後」

こぶ付きの奥さんをもらった人を冷やかして、お祝いするセリフである。網を投げて魚を捕まえたら卵がついていた。ラオス語では「こぶつき」をこのように表現する。要するにおまけがついているのは、徳をつんだからで後でいいことがある。

日本語では「こぶつき」とはいうが、子供は5才位になれば家の手伝いはできるし、農村では貴重な労働力である。私自身も女の子が生まれた時に、ラオス人から女の子だと、ちょっと大きくなると家の仕事を手伝ってくれるからいいネ、と言われたことがある。

(452)

xk.spjɔxkɔhp xkɔhpɔɔk.spj

(パー・ニャイ・キン・パー・ノイ)(パー・ノイ・キン・キー・パー・ニャイ)

xk「魚」 .spj「大きい」 ɔɔ「食べる」

ɔhp「小さい」 ɔɔ「糞」

どこの世界でも、上の立場、地位の高い人は下のものを食べ物にして太っていきます。大きな魚は小さな魚を食べて、小さい魚は大きい魚の糞を食べる。いわゆる弱肉強食であります。魚で他に面白い表現では

gɔk, 7ɔɔ(チャオ・ガ・ム・ク・キ)

ɔhpCk, 7ɔk-yɔhp(コイ・ガ・ム・ク・パー・シウ・ノイ)

ɔɔ], kxk-yɔhpcs [ɔɔ(キー・ライ・マー・パー・シウ・ノイ・ハップ・キン)

gɔ「あなた」 Ck, 「きれい」 7n「のように」

xkɔy「小魚、雑魚」 vs「流れる」 , k「来る」

CS「食らいつく、餌を食う」

「あなたは、糞のようにきれいだ、私は雑魚のようにきれいだ
 あなたのした糞が流れてきて、それを雑魚の私がくらいつく」
 これも恋文のような文であるが、自分達をこのように喩えて彼女に

恋こころを伝えようとする、果たして結果はいかなるものか。
しかしちゃんとした愛の表現なら以下のようなものが多いでしょう。

Iæc]t7fg4ŋ8tsʌfg]kvəŋju757k8te]æglk

(ハック・レ・キトゥング・タロード・ウエラ・アン・ティ・ミー・クン・カー・ト・サムラップ・ハオ)

Iæ「愛する」 **c]t**「と、英語の and にあたる」

7fg4ŋ「愛しい」 **8tsʌfg]k**「ずっと」 **vəŋju**「それ」

, **u**「ある」 **757k**「価値」 **8+**「に対して」

le]h「にとって」 **glk**「私たち」

恋がすすみいよいよ結婚ということになるとこの言葉を、2人に
捧げよう。[**ŋgləoykf**(ブ ッパ -サンニワ-ト)これはパーリー語が語
源であり、以下の言葉により構成されている。それぞれの意味は以
下のとうりである。

ŋgl「以前に」 **lə**「共にした」 **oykf**「住みかを」

要するに、前世において夫婦であったこと。その2人はこの世で
もまた夫婦になると信じられている。そういった相手を

gN76(ア・ク-)と言う。 **gN76æc]hdæ0hdæfvd**

(453) **odlvCsq**(ノック・ツング・ア)

od「鳥」 **lvC**「2つ」 **sq**「首」

「2つの頭を持つ鳥」ということで、「二股膏薬」ということであ
る。ラオスの場合スパイの意味で用いられることが多いようである。
職場などで上司の悪口を言っていると、後でそれを告げ口するよう
な奴は日本ではなく、ラオスにもいるようです。

(454) **oEOb.shq8d**(ナム・クン・ハイ・ヒブ・タック)

oE「水」 **Ob**「上がる、上昇する」 **.sh**「使役の動詞」

Iq「急いで」 **8d**「汲む」

「水位が上がったら、素早く水を汲みなさい。」要するにチャンス、
好機を逃がしてはいけません。

(455) **oExpooyp**(ナム・ピ・アツ・ニサイ)

oE「水」この場合は「御酒」の意味。 xPo「変える」

oypa「性格」

「性格を変える水」ということでここでは「御酒」のことである。これは有名な歌の題名であり、ラオラオ（ラオスの地酒）を一杯飲むと、どのようになり、2杯目、3杯目、4杯目とどんどん飲んでいくと性格、仕草がどのように変わっていくか、数え歌にしてある。日本語でも「気違い水」などの言い方があるこの御酒であるが、飲み過ぎには注意して、程々にしよう。

タイの有名な歌に

gʰt., j u7Ivdc]hvujʰfʰs, noɡv

(ラオ・チャ・マイミ・クライ・イク・レオ・イス・サット・ムアツ・トゥー)

というのがある。これは「お酒よ、君以上に正直な者が誰がいるだろうか」このような歌詞の意味である。要するに酒を飲めば酔払うことができる、酒こそが正直者だ、僕は君（酒）と結婚するゾ。という歌である。ラオスのディスコでも時々かかることがある。

gʰt.「御酒」 ., j u7I「誰もいない」これはラオス語で [+uz vd「その外に」 c]h「完了形」 v0jʰa「正直」

gʰ, no 「のように」 gʰv「タイ語の（あなた）であるが、親しい人にこのように言う」

そしてラオスのディスコの最後の曲は、ラオスの「サヨナラ」の歌で、パクセ出身のマラワンという非常に歌の上手い女性歌手が歌う。9kddəwxsq.9vkw]sk で始まる歌で、これが始まればディスコのラストである。カセット・テープも売っているので買ってみてください。日本はこういった場合は「蛍の光」であろうか。

(4 5 4) g]f-kC.s]fʰskC g]fokC.s]fʰc, j
(ブン・サン・グ・ハイ・ブン・ルン・グ) (ブン・ナン・グ・ハイ・ブン・メー)

g]f「見る」 -kC「象」 skC「尻尾」

okC「女性」 c, j「母」

「象を見るなら、尻尾をみなさい」「女性をみるなら、母親をみ

なさい」という意味である。象が良いか、悪いかは尻尾を見ればわかるという。従って象を買をうと思ったら、尻尾をチェックしてみる事が大切である。女の人と結婚しようと思ったら、まずその娘さんのお母さんを見てみる事。若い女性はブリッコが多くて、性格がわからない場合が多いが、お母さんを見るとその娘さんの30年後がわかるものである。現在痩せていて、スタイルが良くても、お母さんがデブだったら、結婚して子供ができたらずくに太る体質かもしれない。「親を見れば子供がわかる」結婚したい女性ができたら、自分の恋心をひとまず、冷静にして親をじっくり観察することである。

(455) 9~~h~~xklvC, n 1P[lvCc7,

(チャップ・パ[°]ーソング・ム) (イアップ[°]・ソング・ケム)

9~~h~~「捕まえる」 xk「魚」 lvC「2」 , n手」

1P[「踏む」 c7, 「船べり」

「二兎を追うものは一兎をもえず」魚はヌルヌルすべるので、両手で一匹の魚を押さえないと駄目である。欲張って片手で一匹、もう一つの手で一匹つかもうとするのは無理である。

同じく、船2艘同時に船べりには立てない。どちらか一艘にしないといけない。人生何事も欲張ってはいけません。

(456) ごめんなさい

わたしの家で雇っているお手伝いさんの話しをしよう。以前勤めていたお手伝いさんが、体の調子が悪いから休ませてくださいと言ってきて、代わりに彼女の娘が働きに来るようになって、2・3日たったころだったと思う。その休んでいたほうのお手伝いさんが心臓発作で死んでしまった。従って、母の葬式がすむやいなや、娘が正式に我が家のお手伝いさんになった。

彼女にはパートで来てもらっているだけで、ほんの2・3時間だけ、蘭ちゃん、桜ちゃんの洋服の洗濯を中心に、あとは皿洗いなどをやってもらっている。ある日妻が寝ている間に、頼まれもしていない梅ちゃん(義理の妹)の旦那のズボンを黙って洗濯していた。お手伝いの女の子が洗濯物を干して帰って次の日の翌朝、梅ちゃんの旦那のポンちゃんがズボンのポケットを調べると、入れてあったはずの9000キップがなくなっていた。

というわけで、その日の夜は家族会議になった。結局次の日に妻

が代表して、その子に聞いてみる事になった。結果はというと、彼女はそのお金を家に持って帰ったとのこと、そして次の日に持って来ることになった。次の日に持ってきたのは5000キップだけで、あとの4000キップは、次の給料から天引きすることになった。

普通なら、このような場合は、取った、いやこの場合、盗ったとは言わないのが常識であるが、ここらあたりはラオス人はずれていなくて正直である。しかし **ອຳນວຍ** (コ・トト) とは言わなかった。

このような時に、この **ອຳນວຍ** を言うと、無条件降伏を意味するので、彼らは絶対に言わない。逆に日本の場合は、「すみません」と一言謝ってから、それからどのように解決したらいいか話し合うのである。「すみません」と逆に言わないと、逆に非常識な人間とみなされるのである。

私がラオスで、買った自動車の塗装が半年ではげた時も、トヨタの代理店のラオス人は「スイマセン」の **ອຳນວຍ** は一言もいわなかった。また私が日本に帰国していた時に、水道局の私の部屋においてあったコンピューターが紛失しても、この「スイマセン」 **ອຳນວຍ** は一言も言ってくれなかった。これはタイのトヨタが悪いので、我々のせいではない。彼らにしてみたら「スイマセン」をいったらお終いであって、無条件に全責任を認めたことになるので、口が裂けても言えないのだろう。逆に日本人の感覚でいえば、この「御免なさい、スイマセン」を言ってから、具体的に問題の解決にとりかかるのである。したがって日本語の「スイマセン、御免なさい」とラオス語の **ອຳນວຍ** は似ているが、まったく同じ意味ではないと思った。

